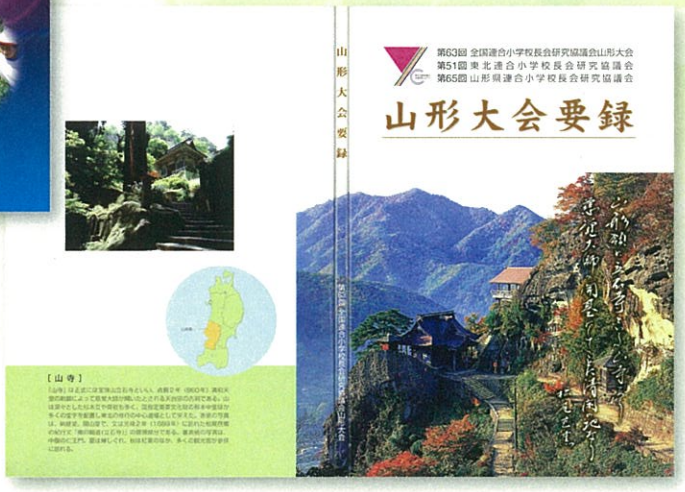
県連小10年の歩み

（平成20年度～平成29年度）



山形県連合小学校長会

【表　紙】県連小旗、東北大会・全国大会要項

【裏表紙】10年間の県連小研究協議会開会行事

県連小10年の歩み

（平成20年度～平成29年度）

山形県連合小学校長会

目　　次

■あ　い　さ　つ　　山形県連合小学校長会会長　　田　中　利　幸 …… 1

■県連小10年間の年表（H20～H29)・県連小旗由来 …… 2

■10年間の足跡を振り返って …… 3～66

⑴　平成20年度
⑵　平成21年度
⑶　平成22年度
⑷　平成23年度
⑸　平成24年度
⑹　平成25年度
⑺　平成26年度
⑻　平成27年度
⑼　平成28年度
⑽　平成29年度

〈年度毎の主な項目〉
① 会長のあいさつ（県連小「会報」より）
② 県連小役員組織図
③ 県連小年間行事計画
④ 県連小研究協議会実行委員長あいさつ及び大会日程（会報「特集号」より）
⑤ 退職会員代表あいさつ（H22まで）
⑥ 講演会・パネルデスカッション
⑦ 県連小関連のスナップ
⑧ 東北連小・全連小大会等のスナップ等

■山形県連合小学校長会５年の歩み …… 67～74

⑴　平成19～23年度
⑵　平成24～28年度

■県連小規約・歴代会長等一覧・学校数及び会費等の推移 …… 75～78

■東日本大震災の記録 …… 79～91

⑴　福島第一原発視察報告　　会長　田　中　利　幸
⑵　東日本大震災６年後のスナップ等
⑶　復興の担い手を育む教育活動から　　幹事　遠　藤　光　男

■後書きにかえて …… 事務局長　後　藤　一　昭 …… 92

（裏表紙）感謝のスナップ

「県連小10年」の記念碑に感謝

山形県連合小学校会会長

田　中　利　幸

県連小事務局長の後藤一昭先生から、「自分が事務局長として関わった、山形県連合小学校長会の10年間の歩みを纏めてみたい」という相談を受けたのは、第57回東北連小山形大会が大成功裡に幕を閉じ大会集録の発刊も成り一段落した９月頃でした。

後藤先生は現職時代の平成20年から２年間、県連小副会長を務められ、ご退職と同時に事務局長に就任されたのが、第63回全連小山形大会開催を１年後に控えた平成22年４月でした。それから８年の間６名の会長が替わる中、県連小の屋台骨を下支えしてくださってきました。

期せずして不肖私が校長を拝命したのが平成20年４月ですので、この記念誌の歩みは私の校長としての10年間の歩みとも重なり、感慨無量のものがあります。三川町の押切小学校が校長としての初任校で、次年度に田川大会を控えていたために、初任の校長にも関わらず最上大会に参加させていただきました。当時はまだ会場も各地区持ち回りで大会を開催しており、新庄市民文化会館での全体会を思い出します。

次の年は田川大会で車両係を仰せつかり、大雨の中、旗を片手に会場の庄内町響ホールの駐車場で車を誘導し、全体会終了後は案内の看板を持って湯野浜温泉に向かう県道の辻に立ちました。協力して大会を創り上げた一体感が田川地区校長会の結束を高め、私もその一員に加えていただいた思いがしました。

私にとって県連小が身近なものになったのは、全連小山形大会を間近に控えた平成23年４月に山形市立南山形小学校に赴任し、運営部の一員として大会運営に臨んだ時からです。そして、次の年の平成24年度に県連小幹事を仰せつかったので、後藤事務局長と出会ってから７年の長きに渡りお世話になりました。その間何度も、「県連小は平成９年から21年間会費の値上げをしないできた」ことを伺い、私達も引き継いでいかなければという思いで、毎年、予算案を提案してきました。それは、会員数が減少する中、先輩方の英断で集金項目を見直して集金額を抑えたり、組織改編や会議のスリム化によって会議費を削減したり、電子メールの活用により通信費を抑えたりと、その都度、何とか支出を切り詰める努力を積み重ねてきた結果でした。この事実の裏には、歴代会長をはじめとする先輩方の気概や、県連小を下支えしてこられた歴代事務局長の手腕が息づいています。

そして、私にとって一番の感謝は、やはり第57回東北連小山形大会であり、後藤事務局長と今年度事務局長補佐に就任いただいた大沼篤先生という盤石の２人体制で支えていただいたことです。後藤事務局長は、第63回全連小山形大会の他にも現職時代の平成17年度に第45回東北連小山形大会に参加されており、組織の運営や業者との関わり、他県の校長会や事務局との連携の仕方など、開催県が如何にして大会を創っていくかについて、豊富な経験をもとにアドバイスをしてくださいました。

県連小事務局長の立ち位置で纏めてくださった本誌『県連小10年の歩み』が、県内小学校教育を支えてきた県連小の変遷と、その中に確かに存在した校長の息づかいや繋がりの温もりを留める記念碑となることを確信するとともに、編集いただいたご苦労に心から感謝申し上げ挨拶といたします。

県連小10年間の年表（H20-H29）

年度		県連小の組織				研究協議会		
		会長名	学校数	新入会員数	退職会員数	県大会	東北大会	全国大会
20	2008	千葉榮一	322	53	41	最上大会 （新庄市民文化会館）	宮城（秋保温泉）	香　川
21	2009	千葉榮一	317	46	30	田川大会 （庄内町「響ホール」）	福島（郡山市）	熊　本
22	2010	鈴木弘康	313	30	33	東置賜大会 （高畠町「まほら」）	岩手（盛岡市）	北海道
23	**2011**	**鈴木弘康**	**304**	**36**	**38**	**全連小山形大会** ＜日本全国から3,000名の参加＞ （山形県体育館を全体会場・市内公共施設及びホテルにて分科会）		
24	2012	江口照芳	293	34	50	＜１０分科会構成＞ 北村山地区　担　当 （会場をビッグウィングに固定）	青森（青森市）	奈　良
25	2013	飯野恭伸	276	38	29	米沢地区　担　当	秋田（秋田市）	三　重
26	2014	荒澤賢雄	266	27	46	飽海地区　担　当	宮城（白石蔵王）	埼　玉
27	2015	高木祐治	260	43	50	西村山地区　担　当	福島（会津若松）	山　口
28	2016	田中利幸	254	48	45	西置賜地区　担　当	岩手（盛岡市）	高　知
29	**2017**	**田中利幸**	**249**	**51**	**51**	**東北連小山形大会** ＜1,000名の参加＞ （山形テルサを全体会場・市内ホテルにて分科会）		佐　賀

県連小旗由来

県連小旗は、県花紅花色の地に、円と山形県連合小学校長会の文字を白抜きとし、円内の「小」の字を藍色に染め、全体のバランスをとった優美なものである。

昭和46年第25回大会（南陽市）を記念して初めて制定された県連小旗は地が赤で他の色とまぎらわしく、全体のデザインに多少の難があったので、昭和52年理事・評議員会で改正され、同大の国旗と二流作成した。

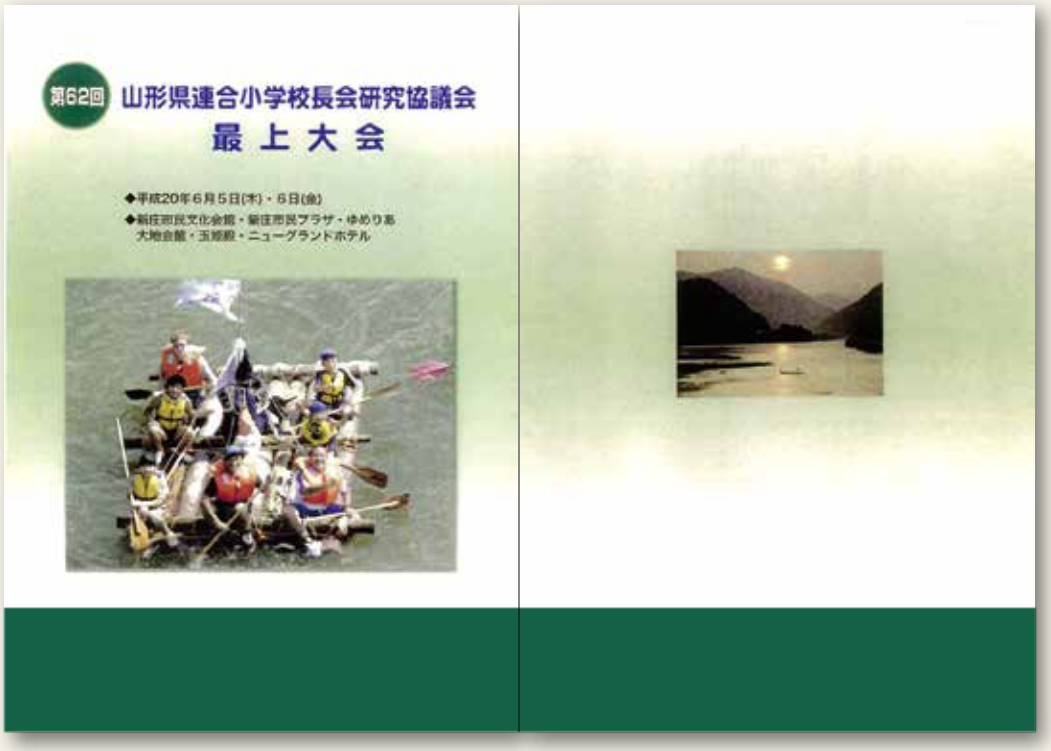
県連小マークは、円形をもって連合体を表し、山形県の「山」と小学校の「小」を主体にし、躍進する県連小を鳥のはばたきの姿にとり、限りなく前進する力を象徴したものである。

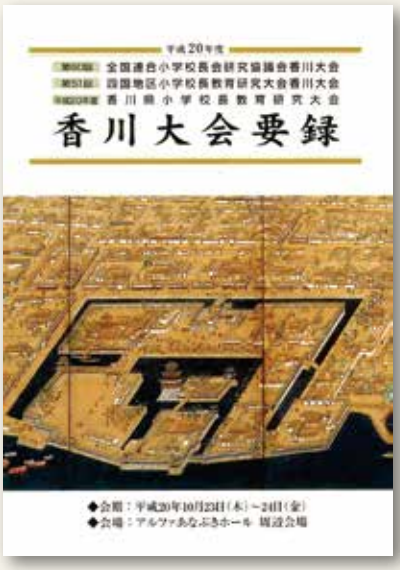
このマークも、県連小旗も多田廣三郎氏（元山形六小校長）のデザインによるものである。

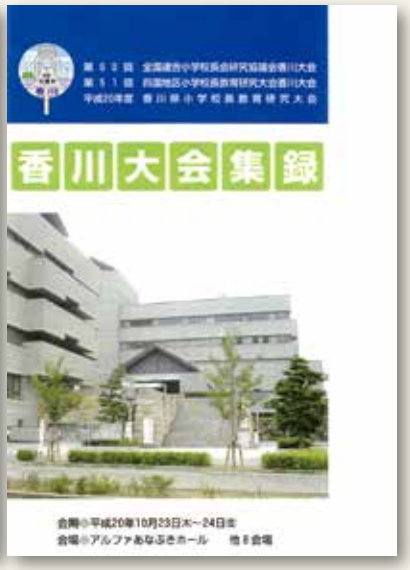
県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
千葉榮一	322	53	41

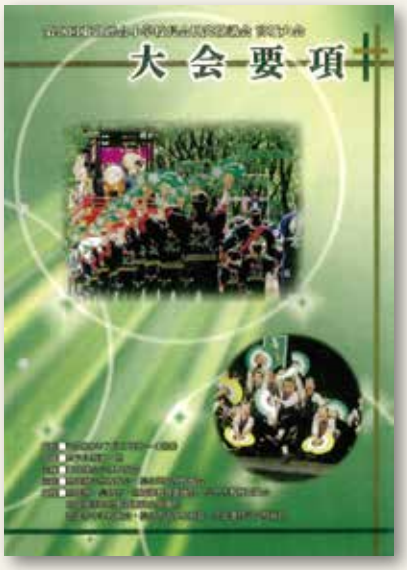
研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
最上大会 新庄市民文化会館	宮城県 秋保温泉	香　川

平成20年度
2008









山形県連小会報

第122号
発行日　平成20年５月30日
発行者　山形県連合小学校長会
千葉榮一
山形市本の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第１回理事会報告

今年度第１回目の理事会が４月24日，25日の両日蔵王こまくさ荘を会場に開催されました。千葉榮一新会長はじめ，後藤，熊谷，森，東海林，那須の５氏が副会長に選出され，本年度の新体制が整い，充実した協議がなされました。本号では，新任者の挨拶と役員等についてお伝えします。

千葉会長のあいさつ

・教育新時代を迎えて

18年12月に教育基本法が60年ぶりに改正され，それを受け19年６月には教育関連３法案が改正された。また，４月18日には，数値目標や財政的裏付け等種々の問題を含みながらも，今後５年間の教育の政策目標を定める教育振興基本計画の答申が中央教育審議会から示された。さらに，本県では教職員評価がすべての学校で試行されるなど，教育の大きな枠組みが変わり，まさに教育新時代を迎えており，確かな歩みが求められている。

・総会に代わる決議権を得た理事会発足の年

今年度から理事会をもって総会に代えることになり，最上大会から研究協議会とした。今回は，総会としての役割を持つ第１回目の理事会である。本日を含め，これからも理事の方々の慎重な審議をお願いしたい。

・服務の厳正の徹底を各地区で

４月当初，県立特別支援学校の教員が飲食店従業員への暴行で逮捕されるという不祥事が発生した。すべての学校が信頼の構築に向けて努めている中での事件だけに衝撃も大きい。各理事の担当地区において，これまでにも増して教職員の服務の厳正への指導をお願いしたい。

・全国大会への具体的な取り組みを開始

平成23年度，本県で第66回全国連合小学校長会研究協議会山形大会が開催される。

今年度は，開催に向けた準備委員会の発足や開催計画について具体的な論議を進める年である。理事各位のご協力をお願いしたい。

渋谷前会長のあいさつ

○今後とも提言を全国に発信してほしい。
○教育行政とのパイプをしっかり持って活動していただきたい。
○全国大会の参加者3000名を収容できる会場を早急に確保しなければならない。準備委員会を立ち上げ，開催に向けて，地道な積み重ねが大切である。理事各位のご協力とご支援をお願いしたい。

新任のあいさつ　不易と流行を念頭に

副会長　後藤　一昭

大河ドラマ「天地人」の主人公，直江兼続が話題となっています。陸奥（みちのく）の関が原と言われる，畑谷・長谷堂城の壮絶な戦いや最上義光等々，改めて歴史物を紐解いています。勿論，戦国時代との比ではありませんが，様々な教育改革が進行している昨今の様子が重ね合ってきます。又，「東京・大阪連続1000人超――21年度教員採用動向」という記事を目にしました。大きな変革の波が，確実に私たちの教育現場に押し寄せてきています。

しかし，こういう時だからこそ時代の推移を見据えながらも，山形の教育を大切にし，各地区校長会が取り組んできた素晴らしい教育実践を再確認・共有化し，しっかりと次の世代へ引き継いでいくことが益々重要になってくるのではないでしょうか。県内の様々な教育情報を受信・発信しながら，お互いの研修に寄与できる「県連小」となるよう努力していきたいと思います。

勉強する校長会に

副会長　熊谷　宗英

人間力のある子どもって，どんな生き方をしている姿なの？伝え合うって，受け止め合うこと？思いやって聞き合うこと？つながり合うこと？私の学校で，昨年度何度も議論したことです。分かっているつもりだが，意外と曖昧にしている言葉です。

伝え合う姿を自分なりにイメージしながら語ることで，児童理解が不十分なところ，意識していなかったことが見えてきました。

校長自ら語る言葉も「理念，実践に裏付けられた説得力ある言葉」で語るように心がけていきたいと思います。校長も担任と同じ土俵でロマンをもって熱く語れるように勉強していきたいと思います。

各地区校長会では，会のあり方や運営に工夫，努力されていることと思います。教職員から「校長会でも勉強をしているんだね。」と期待される，勉強する開かれた校長会にしていきたいものです。

各々の持ち味を生かした県連小活動に

副会長　森　洋一

新学習指導要領が19年度末に告示され，さらに教職員の資質・能力向上を図る様々な施策が具体化してきております。

このような中で校長としての資質が問われ，学校課題を解決していかなければならない状況にあります。校長同士が情報交換し，学び合う関係づくりが大切になってきていると思います。

第62回県連小最上大会では，これらのことを踏まえ「研修・提言・挑戦」をキーワードにして質の高い実践交流の場にしていきたいと努めています。「一律」ではなく「各々の持ち味」を出し合う研修の場を校長自らが創り出していきたいものです。

これまでの県連小においても「提言」の重要さは言われてきておりますが，これからは一層責任ある，実践に基づく提言により，周囲への影響を大きくしていく必要に迫られているものと考えます。

県連小活動が，活性化を促し各学校の主体的・創造的な経営につながるよう努めたいと思います。

平成20年度 山形県連合小学校長会役員一覧

会長	千葉榮一（山形一）
副会長	後藤一昭（山形五）
	熊谷宗英（山　辺）
	森　洋一（新　庄）
	東海林和夫（致　芳）
	那須栄一（松　原）
監事	佐藤藤彰（寒南部）
	小形義和（米東部）
	鎌田敏男（渡　前）

○地区会長
○委員長

地区＼役名	理事
山形	○後藤　一昭（山形五） 早坂　良（山形七）
上山	○柏倉　善三（宮　生） 大沼　修一（上　山）
東村山	○熊谷　宗英（山　辺） 村山　秋一（長　岡）
西村山	○冨樫　是行（左　沢） 草苅　和男（寒中部）
北村山	○大沼　寛志（楯　岡） 工藤　俊夫（大石田）
最上	○森　洋一（新　庄） 高橋　富子（大　蔵） 矢口　薫（鮭　見）
米沢	○加島　修一（北　部） 島津　真一（西　部）
東置賜	○大澤　実（赤　湯） 丸山　信也（高　畠）
西置賜	○東海林和夫（致　芳） 樋口　康男（荒　砥）
田川	○舞波　信昭（朝暘一） 齋藤　雅志（狩　川） 佐藤　清穂（羽黒二）
飽海	○那須　栄一（松　原） 冨樫　春夫（浜　田）
担当理事	
幹事	幹事長　鈴木　弘康（山形四） 会計　平尾　幸治（滝　山）

確かな経営に資する校長会活動に

副会長　東海林　和　夫

大きな教育改革の流れの中で，昨年度末に新学習指導要領が告示され，そして，４月下旬には21年度からの移行措置の内容が発表されました。いよいよ，教育改革のうねりが教室の入り口までに達してきた感がいたします。

児童生徒・保護者・地域の現状の中で，そのうねりをどう受け止めるのか，まさに校長の力量が一層問われることとなりました。今こそ，不易と流行を見極め，質の高い経営を進めるために，校長自ら資質の向上を図りながら，確かなリーダーシップを発揮することが求められています。

地区の校長会では，各校における実践交流が行われ，また，各市町や各校の情報交換などもあり，校長にとっては貴重な研修の機会となっています。

県連小の活動が，地区校長会の活性化を一層促進し，校長の研修の広がりと深まりを促し，各校の着実な経営実践に結びつくよう，微力ながら精一杯努めますので，よろしくお願いいたします。

感性ひびき合う交流

副会長　那　須　栄　一

山形県の目標が感性教育から，いわゆる“いのちの教育”に変わって４年目，10年計画の半ばにさしかかった。私は校長になって10年になるが，一貫して「感性ひびき合う交流」を経営のバックボーンにし，学校を内外に開き，地域ぐるみで心を通わせながら交流を深め，子どもたちの育ちを豊かにしていくことを目指してきた。

いみじくも，今年度から“いのちの教育”を一層確かなものにしていく視点で“やまがた教育「C」改革”が具体的に進められる。「人はコミュニケーションによって心を通わすことではじめて人間になれる」というキーワードも示された。あたりまえと言えばあたりまえなのだが。

実は，本校の「学校是」は３年前から「あたりまえのことをあたりまえに」である。「C」改革と重なる部分が多いという思いが強い。これを機に，校長としてこれまでの実践を吟味し，地域に発信しながら，“やまがた教育「C」改革”を通して，信頼される創意ある学校を築いていきたい。

対策委員	学校経営研究委員	研修委員	生徒指導委員	学校安全研究委員	学校体育・健康研究委員
○江口　照芳(山形二)	○海野　丈芳(山形六)	○阿部　慶子(山形八)	○本木　康夫(山形九)	○吉田志津夫(蔵王一)	○小川　潔(東　沢)
鈴木　雅孝(本　庄)	佐々木　博(　南　)	片桐　理子(西郷一)	池野　仁(　東　)	重澤百合子(中　山)	神谷　恒司(西郷二)
加藤　高志(津　山)	鈴木　伸一(天童部)	安達　幸司(大　寺)	大泉　徹(成　生)	熊澤　篤夫(寺　津)	奥山　淳一(荒　谷)
月光　善信(川土居)	村松　洋一(寒河江)	長岡　信悦(宮　宿)	熊谷　昌彦(水　沢)	柏倉　真之(高　松)	富樫　誠(西五百川)
有路　宏司(豊　田)	菊地　宏哉(富　並)	伊勢　牧子(大　富)	矢萩　健蔵(長　瀞)	大類　公男(上　柳)	大坪　伸二(戸　沢)
法関　淳一(有　屋)	小幡　昭悲(千　湯)	阿部　敏彦(升　形)	安孫子　誠(堀　内)	高野　博(安楽城)	齋藤　宏(萩　野)
山口　和夫(窪　田)	高橋　修一(三沢東部)	辻　雅人(松　川)	板垣　正明(興　譲)	大宮　英俊(広　幡)	佐藤　清二(上　郷)
金子　正美(東　沢)	中村　元(大　塚)	高橋　正幸(宮　内)	星　俊之(中　川)	小林宏一郎(糠野目)	會田　昭広(時　沢)
鈴木　道雄(伊佐沢)	渡部　恭子(添　川)	竹田　久次(荻　桑)	影山　長助(鷹　山)	鈴木　雅明(東　根)	向田　俊一(沖　庭)
近藤　直志(鶴引東)	池田　幹夫(鶴引西)	鈴木　健児(藤　島)	渡部登美雄(羽黒一)	鈴木　健(余目三)	布川　和朗(鶴引南)
浅井　良(塚　成)	畠中　善之(八　幡)	伊藤　志郎(南平田)	渡部　俊明(新　堀)	山澤　勉(蔵　岡)	大場　光菊(南遊佐)
	早坂　良(山形七)	丸山　信也(高　畠)	草苅　和男(寒中部)	柏倉　善三(宮　生)	大澤　実(赤　湯)
平尾　幸治(滝　山) 齋藤　和夫(山形三)	齋藤　和夫(山形三) 板坂　憲助(山大附属)	渡部　和生(山形十) 荒澤　賢雄(蔵王二)	板坂　憲助(山大附属) 齋藤　昭憲(みはらし)	大宮とき子(明　治) 平尾　幸治(滝　山)	荒澤　賢雄(蔵王二) 大宮とき子(明　治)

退職会員代表挨拶

前山形市立第四小学校長　渋　谷　光　夫

只今は感謝状と記念品を頂きまして誠にありがとうございます。皆様と一緒に充実した研修と活動をできたことに心から感謝申し上げます。退会して２カ月あまり，私達の新生活を第二の職場で再出発したり，家庭で自分なりに有意義に暮らしている方など多様です。このように元気で明るく過ごしております。また，制限速度の交通標識をあまり気にせず，自分の車がこんなにもスピードが出るんだと新発見した仲間もおります。しかし先日県外で事件を起こした元校長の新聞見出しにドキッとし，その後元校長の信頼を損なわぬように，安全運転に心掛けております。さらに新聞やテレビで学校や子どものニュースに目が止まり，それらの活躍ぶりにうれしくなっている自分がいます。まだまだ教師という性分が抜けないようです。時はまさに社会の大変革期，混乱期です。この厳しい時に各校長や，校長会の役割と責任はますます重要になってきております。子どもの夢や良識ある教職員の情熱と成就感を失わせてはいけません。私達退職者のこれからは，健康に留意して生涯学習と社会奉仕への出番です。皆さんの学校や教職員の応援団として支援，協力を惜しまない覚悟です。県連小の命は研修と発信です。山形県連合小学校長会が，３年後に開かれる全連小山形大会に向かってさらに大きく大きく羽ばたくことを願っております。本日は誠にありがとうございました。

平成20年度　**山形県連合小学校長会年間計画(案)**

山形県連合小学校長会　TEL:023-634-8555　FAX: 023-632-5748　Email:y-kren@atlas.plala.or.jp

月	理事会・会長会関係 理事会・総会・会長会 等 (◆宿泊、♠小・中合同委員会)	専門委員会 対策	学経	研修	生徒	安全	体育	東北連小関係	全連小関係	関係団体その他
4	4(金) 幹事会議1 11(金) 会計監査　山形 ◆24・25(木・金) 第1回理事会 山形	4回	4回	5回	4回	4回	4回			1(火) 辞令交付式 22(火) 全国一斉学力テスト 23(水) 県中理事会1　山形 23(水) 公立学校長会議　最上地区 25(金) 公立学校長会議　村山地区
5	1(金)♠小・中合同対策幹事会 9(金)最上大会・分科会打合せ会 宣言文起草委員会　山形 12(月)♠小・中合同対策委員会 22(木) 幹事会議2	☞会報122号発行						23(金) 第1回理事会 〃 事務担当者会 仙台	27(火) 第199回理事会 東京 28(水) 第60回総会 東京・イイノホール	7(水) 公立学校長会議　庄内地区 8(木) 公立学校長会議　置賜地区 21(水)・22(木)全中総会(東京) 30(金) 県中校長会研究協議会・総会
		① 12 (月)	① 14 (水)	① 9 (金)	① 15 (木)	① 16 (金)	① 23 (金)			
6	5(木) 第1回地区会長会　新庄 5・6(木・金)第62回・最上大会 新庄		② 19 (木)					12(木) 第1回合同 専門委員会　仙台	6(金) 事務担当者 連絡協議会　東京 10(火) 合同部会合同委員会 30(月) 広報担当者 連絡協議会　東京	20(金) 附小公開研究会 20(金)県PTA総会 24(火)県小中教育研究会理事・評議員会　山形 26・27(木・金) 東北中総会大会　白石 28(土) 日本教育会全国教育大会　宮崎
7	9(水)♠小中合同対策幹事会 17(木)♠小中合同対策委員会 17(木)♠小中合同対策幹事会	② 17 (木)						2(水) 第2回 理事会 宮城 3・4(木・金)第48回 研究協議会　宮城	8(火)第1回会長会 東京	18(土)県PTA研修大会　鶴岡市 26(土)～8/5(火)全連小海外教育事情視察
8	8(金)♠経営学習会・Ⅰ 20(水)幹事会議3 29(金)第2回 理事会　山形			② 5 (火)	② ♠ 7 (木)	③ 4 (月)				7/31(木)～8/1(金)全国女性校長会研究大会 7/31(木)～8/2(土)全国教頭会研究大会　愛媛 23・24(土・日) 全国PTA研究大会
9	5(金)♠「お願い」提出　山形	☞会報特集号発行				12 (金)	② 5 (金)		26(金) 対策・調研 担当者会　東京	7・8(金・土) 東北PTA研究大会　盛岡
10	28(火)♠経営学習会・Ⅱ山形	☞会報123号発行		③ 9 (木)	③ 8 (水)		③ 10 (金)	17(金) 第2回 教育課程委員会　仙台	22(水) 第200回理事会 23・24(木・金) 第60回 研究協議会香川大会	18(土)県PTA研修大会　鶴岡市 30・31(木・金) 全日中宮崎大会 30・31(木・金)東北教頭研究大会　秋田
11	18(火)幹事会議4 21(金) 第2回地区会長会　山形			③ 6 (木)		④ 7 (金)	④ 7 (金)	20(木) 第3回 理事会　仙台	27(木)第2回会長会	14(金)県中理事会3 13(木)14(金)県教頭会研究大会　村山市
12			④ 10 (水)	④ 5 (金)	④ 11 (木)					
1	22(木)幹事会議5 30(金)♠小中合同対策幹事会									
2	5(木)幹事会議6 ◆19・20(木・金)第3回理事会 山形	☞研究紀要52集発行						6(金)第4回 理事会　仙台	17・18(火・水) 第201回理事会 東京	17・18(火・水)県中理事会4 13(金)県教頭会理事会3
3	26(木)幹事会議7	☞会報124号発行 ☞生徒指導委員会報発行						5(木)会計監査　仙台		

◎平成21年度予定　・第63回県連小研究協議会・田川大会＝6月11日～12日(木・金)
・第49回東北連小研究協議会福島大会＝7月9日～10日(木・金)
・第61回全連小熊本大会=10月22日～23日(木・金)

平成20年度　**各地区学校数調べ**

地区名	学校数 独立校	併設小本務校	併設中本務校	合　計	併設校名 (＊は小本務校)
山　形	36	1	1	38	＊蔵王第三、山寺
上　山	9	0	0	9	
東村山	17	1	1	19	＊鳥海、作谷沢
西村山	29	0	0	29	
北村山	34	0	1	35	鶴子
最　上	39	0	3	42	角川、沼台、肘折
米　沢	18	0	0	18	
東置賜	22	0	1	23	玉庭
西置賜	19	0	4	23	白沼、叶水、 小国北部、中津川
田　川	50	0	0	50	
飽　海	36	0	0	36	
合　計	309	2	11	322	

＊小本務校(2校)　……　蔵王第三小、鳥海小

《備考》

＊休校・廃校・統合について

小国町立小玉川小学校　　休校

朝日町立和合小学校　　廃校

山形県連小 会報

特集号
発行日　平成20年10月10日
発行者　山形県連合小学校長会
千葉榮一
山形市木の実町12－37
県教育会館内

第62回山形県連合小学校長会（研究協議会）・最上大会

「研修・提言・挑戦」の最上大会

大会実行委員長　森　洋一

第62回山形県連合小学校長会研究協議会最上大会にご参集を賜り、心から感謝申し上げます。

本年度より、第１回の理事会をもって、総会にかえることとなり、本大会は研究協議会とすることになり初めての会となりました。

本大会を研修の場として充実・発展させようと長年にわたって努力いただいた諸先輩方の思いに応えようと、会長と共に実行委員会一同努めてまいりました。

昨年度以来、山形県においては第５次山形県教育振興計画の着実な推進のため、コミュニケーションを核として、学級経営、授業、家庭・地域とのかかわりにおける教育活動全般を見直し、改善することにより、本県教育の「新生」を図るということで「Ｃ」改革を推進してきております。このことも踏まえ、「いのち」そして「まなび」と「かかわり」に沿ったパネルディスカッションを設定しました。

また、最上大会のキーワードを「研修・提言・挑戦」とし、各分科会においては校長としての責務と使命の重大さを深く自覚するとともに豊かな人間性を根幹に据え、活発な協議が展開されました。

帰路に着く各校長先生の表情には、三つ目のキーワード「挑戦」が滲み出ていて、大変頼もしく感じた所であります。

アンケートに見る評価は「研修Ⅰ」69%「研修Ⅱ」34%が（よい）の回答で、ホームページ開設については「見た51%」「見なかった39%」の結果でした。

大会の運営にあたっては、文科省の講演講師が直前になって変更になるということもありましたが、万全を期して準備・対応に取り組んだ最上地区小学校長会全員の誠意と努力を感じていただければ幸甚であります。

次期「田川大会」の成功を心から祈念し、お礼の言葉といたします。誠にありがとうございました。

研修Ⅰ

パネルディスカッション

山形の教育「いのち」「まなび」「かかわり」in最上

○パネラー【いのち】　三條典男氏
（三條医院院長　山形県性に関する相談嘱託医）
○パネラー【まなび】　阿部和生氏
（前戸沢村教育委員会教育長）
○パネラー【かかわり】　栗田和則氏
（農林家　暮らし考房主宰）
○コーディネーター　齋藤彰氏
（真室川町立真室川小学校長）

『山形の教育「いのち」「まなび」「かかわり」in最上』とし、未来に心をつなぎ、いのち輝く子どもの育成に関わって、それぞれの立場でご専門の３人のパネラーの方々においでいただきました。パネラーの皆様をご紹介いたします。はじめに新庄市三條医院の院長、三條典男様。産婦人科心療内科がご専門で禁煙のご指導や性に関する相談医師としてもご活躍されている先生でございます。次は前最上郡戸沢村教育長、阿部和生様。教育庁在職中に学者融合主事の専門職員を全国に先駆けて戸沢村に設置し、学校と連携した地域活動の活性化を図ってこられました。そして最上郡金山町在住で、暮らし考房を主宰する農林家の栗田和則様です。県グリーンツーリズム推進協議会の会長としても著名で、青少年や多くの人々と貴重な関わりを持ちながら新しい農業、農村づくりに貢献されています。コーディネーターは真室川町立真室川小学校齋藤彰校長です。それではコーディネーターの齋藤先生よろしくお願いいたします。

皆さんこんにちは。只今紹介いただきました真室川小学校の齋藤と申します。本日のパネルディスカッションのコーディネーターという役をいただきました。本当に大きな大役をいただいたなと思っております。大変緊張しております。心臓がばっくんばっくんしておりまして、今にも飛び出すんじゃないかなと思っているところです。しかし引き受けた以上、充実したパネルディスカッションにしていきたいと思っております。頼りにするのは３人のパネリストの皆さんです。３人の皆さんの話し合いが盛り上がって、活発な意見交換ができればと思っています。次に頼りにするのはフロアにいらっしゃる皆さんです。フロアの方からも適切な質問、意見を頂戴して話し合いがさらに深まっていけばと思っております。３人のパネリストの皆さん、そしてフロアの皆さんどうぞよろしくお願いします。

さて、今日のテーマでありますけども、司会者からもありました。ここにありますように、『山形の教育「いのち」「まなび」「かかわり」in最上』というテーマで進めていきます。今年は五教振４年目。各学校でも様々な実践がなされて、大きな成果も現れているところだと思います。そこで今日は五教振の３つの柱に関わって最上地区で活躍しておられる３人の方々から色んな話のご提言をいただき、学校とは違った角度から考えていきたいと思っています。それでは本日のパネルディスカッションの進め方を説明いたします。

最初に３人のパネリストからおよそ10分程度で提言をいただきます。さらに必要とあれば２、３分の補足をお願いします。その後に３人の意見交換又はフロアからの質問やご意見を頂戴して、話し合いを進めていきます。90分という時間しかありません。効率的な進行をしたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。それでは最初に「いのち」に関わってのお話を、山形県性に関する相談委託医でもあります、三條医院院長、三條典男先生よりお伺いします。よろしくお願いします。

どうもこんちには。今日は並み居る人生の諸先輩方の前で、私のような若輩者が「いのち」について話すということで、実はコーディネーターの齋藤先生以上に心臓がバクバクしております。時間が10分しかありませんので、早速進めさせていただきますが、元より私はこの新庄市で医師をやっておりますので、それでいのちについてお話せよというご命令だと思うんでありますけれども、「いのち」というのは医師から見ますと、実は皆さんがお考えいただく以上に悩ましい言葉であります。ここ25年間ほど、最上地方で医師としてやってきました上でその25年前当時、それから現在と性とか心の問題に色々関わりながら気付いた点について、少しお話をさせていただきますが、私から申し上げたいのは、「こうですよ。」というお話ではなくて、「こういうことがあります。どうかお教え下さい。」そういうような話になるかと思います。

まずそれで「いのち」とはいうことなんでありますけれども、ここに出しましたのは心臓の絵で、それからこちらに脳、それからハート型、マンガのような絵で甚だ申し訳ないんですけれども、医師としては心臓が動いていたらそこに「いのち」があるのかという問題があります。これは皆様方も移植などの問題で、ニュースで色々とお目にするのではないかと思います。あるいは脳死と

第48回東北連小宮城大会（仙台秋保温泉）
平成20年７月３日（木）～４日（金）

＜香川県アルファあなぶきホール・大ホール：2000 人＞

第６０回全連小香川大会
平成２０年１０月２３日～２４日
全体会場・大ホール・小ホール・
分科会場等の様子スナップ（後藤）

全体会場（大・小ホール）

＜小ホール：四国地区 700 人＞
大型スクリーン視聴での参加

全体会場～分科会場～宿泊地　全て、ＪＲ高松駅周辺で、徒歩移動可能。

分　科　会　場　　（サンポートホール　高松）

＜第３分科会（現職教育）＞

＜第４分科会（生徒指導）＞

もったいないような、広々とした、素晴らしいホール

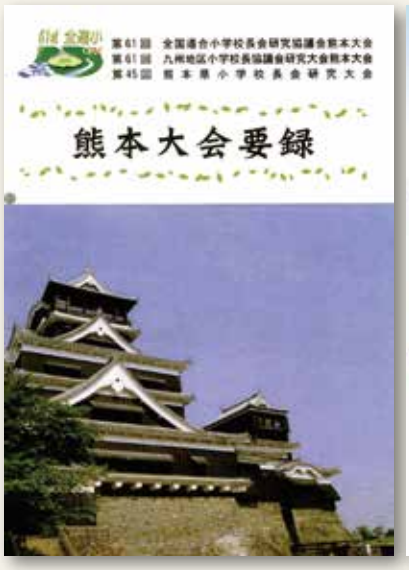
＜第５分科会（人権教育）＞

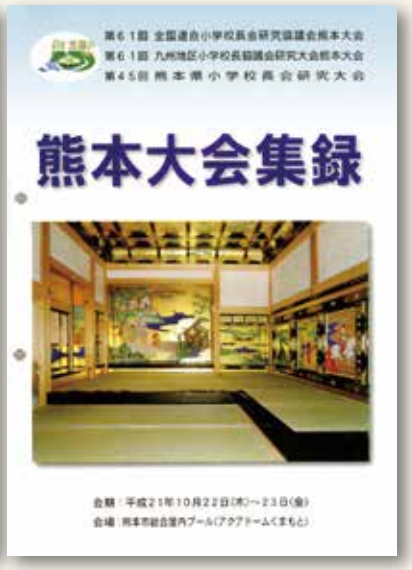
○かがわ国際会議場（シンボルタワー６階）
＜第８分科会（国際理解教育）：フラット床面＞

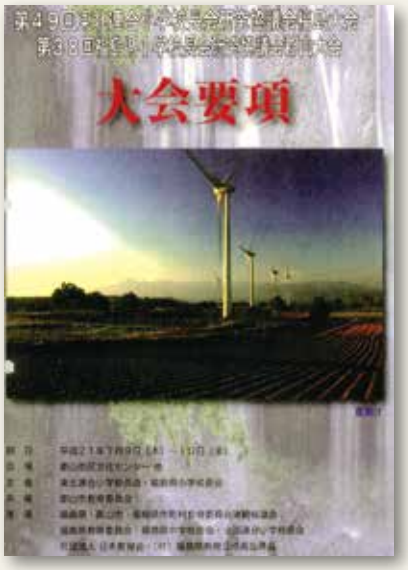
県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
千葉榮一	317	46	30

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
田川大会 庄内町響ホール	福島県 郡山市	熊　本

平成21年度
2009







山形県連小会報

第125号
発行日　平成21年5月31日
発行者　山形県連合小学校長会
千葉榮一
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第1回理事会報告

課題解決に向けて ―本格的準備の年―

今年度第1回目の理事会が4月24日，大手門パルズを会場に開催されました。千葉榮一会長はじめ，後藤，大類，森，小形，難波の5氏が副会長に選出され，本年度の新体制が整い，充実した協議がなされました。本号では，新任者の挨拶と役員等についてお伝えします。

千葉会長のあいさつ

新学習指導要領の移行措置が始まった。「生きる力」をはぐくむという趣旨に変更はないものの，教科を横断した言語活動の重視など，新たな取組みが求められている。県連小にとっては，移行措置の確実，円滑な実施とともに，二つの大きな課題の解決に向けた本格的準備の年となる。

☆課題1〈全連小山形大会に向けて〉

2月には，平成23年の全連小全国研究協議会山形大会の大綱を全連小理事会に提案しなければならない。そのためには，7月の東北連小理事会にその骨格を示さなければならない。当面は，山形市校長会を中心として旧東南村山地区校長会が原案を検討していくことになる。最終的には全県体制で運営していくことになるが，急ピッチで準備を進めなければならない。

☆課題2〈県研究協議会1日開催へ〉

23年度以降の県研究協議会は，1日開催の方向が示されている。そのような形で実施するためには，研究協議会のあり方の見直しが必要であり，それに伴う諸課題（感謝状贈呈，開催地，分科会の構成等々）への対応も検討しなければならない。それらを見直すことは同時に，県連小の組織及び運営のあり方の検討の必要も出てくることを意味する。22年度になれば全連小の全国研究協議会山形大会の運営細部に係る業務が膨大になる。県連小の組織及び運営の検討は今年度内に行わなければ24年度からの実施は不可能になる。

上記二つの重大課題を並行して検討しなければならない。県連小としての大きな転換点の年となる。会員全員の，未来に向けた真摯な議論を期待したい。

退職会員代表あいさつ

前 山辺町立山辺小学校長
熊谷宗英

こんにちは。年1回，県内全小学校の校長が一堂に会する貴重な場に退職会員をお招きいただき，感謝状を賜りましたこと恐縮に存じます。ありがとうございました。

退職会員を代表して一言ご挨拶申し上げます。私事になりますが，ここ庄内は校長としての出発の地です。10年前初めて家を離れ，不安・緊張でいっぱいの私を温かく迎えてくれた赴任校，鶴岡市立三瀬小学校の児童・教職員・地区の皆様，ご指導いただいた庄内の校長先生方・教育委員会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

自然いっぱいの三瀬で竹炭での河川浄化，ビオトープ作り，クロメダカやホタルの飼育など，自然体験の充実や読書指導に楽しく取り組ませていただきました。

鶴岡・田川だけでなく，庄内の校長会の校長先生方からは「まごころで努めれば心が通じ合う，地域の人と先生方と夢を語り合い，共に学校教育を創ってみろ。」と励まされました。学校経営では試行錯誤の毎日でしたが，いろんな方から時宜を得たアドバイスをたくさんいただきました。先輩の校長先生方から「うちの学校に来てみろ。」と声をかけられました。不安に思っていること，やりたいことをたくさん聞いていただきました。今思えば，足がふらついている私を見かねて心配されての暖かい心遣いだったと思います。新米校長が3年間頑張れたのも，庄内の校長先生方のご指導のおかげだと思っています。その後も校長として希望を持ち続けて頑張れたのも，校長会で学んだからだと思っています。校長会は私を鍛えてくださいました。支えでもありました。

今，心の通じ合い・繋がり・信じ合いを土台にした学校経営がなされるようになりました。夢や希望を育み，日々の小さな幸せに喜びを見出し，生きることの充実を感じる学校の日々，児童にとっても先生方にとっても日々の学校生活が豊かな人生そのものであり，幸せを感じられる学校を創っていきたいと思います。方法論・技術論・狭い学力論に終始しないで，生きることはどういうことか，夢や希望を育む子どもたちを育てる学校経営はどうあればいいかを追求していきたいと思います。

退職して口にされる決まり文句に「いい時辞めたな。」があります。安堵感でいっぱいだと思いますが，もう自分が期待されることはないんだという一抹の寂しさも感じているんだと思います。私たちは退職後，それぞれの人生を希望を膨らませながら歩み始めました。残された人生を充実したものにするために「ありがとう」と言える生き方をしていければな，というふうに思っております。

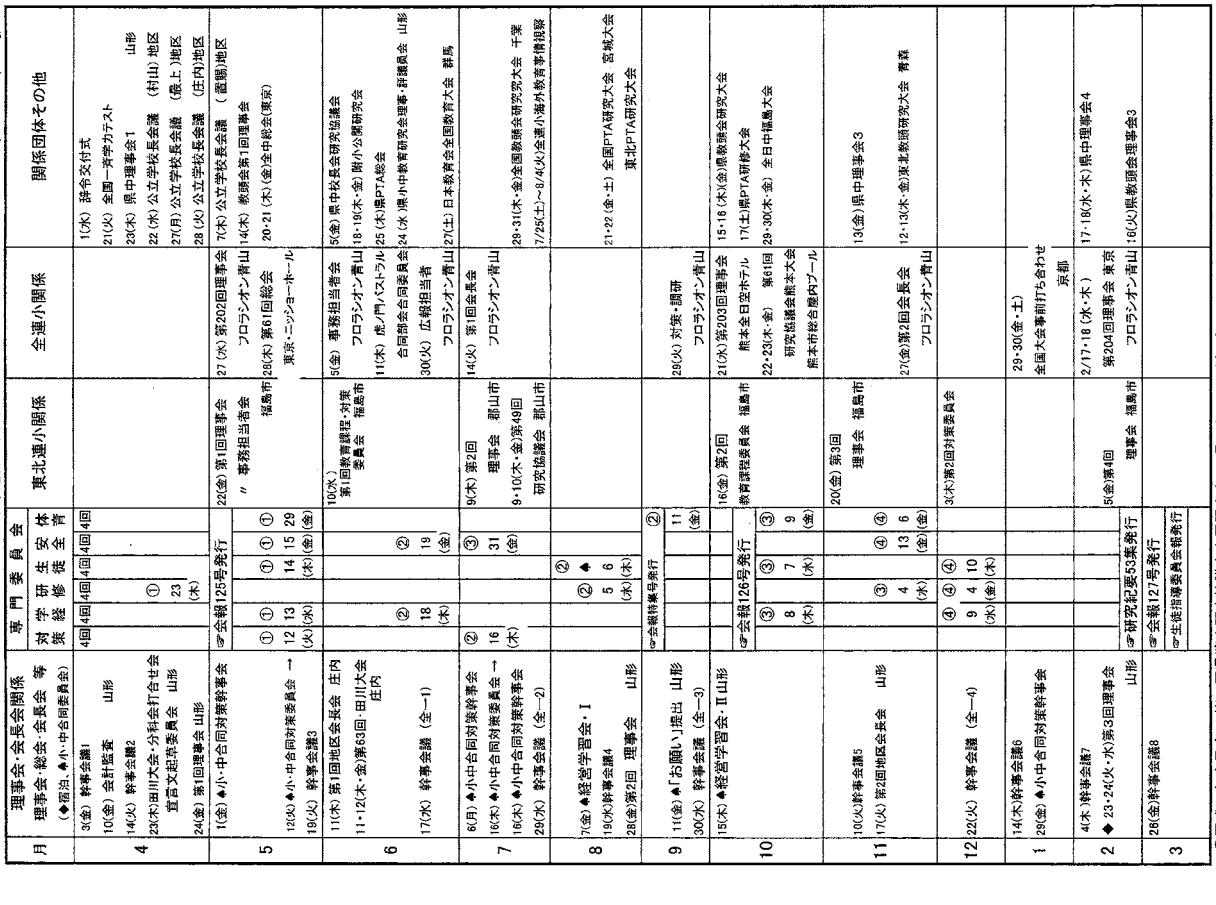
これまでのご恩意に感謝します。いつまでも皆さんを応援しています。課題が山積していますが，元気にご活躍されますようお祈りしております。諦めず・恐れず共に歩めば自ずと道は開けると思います。ありがとうございました。

平成21年度　山形県連合小学校長会役員一覧

会　長	千葉　榮一(山　一)	023-622-0651	
副会長	後藤　一昭(山形五)	大類豊太郎(楯　岡)	森　洋一(新、庄)
	小形　義和(東　部)	難波　信昭(朝暘一)	
監　事	髙橋　修一(津　山)	髙橋　正幸(宮　内)	佐藤　純子(広　野)

事務局
〒990-0044 山形市木の実町12-37 県教育会館(大手門パルズ内 4F)
℡ 023-634-8555 Fax 023-632-5748 E-mail:y-kren@atlas.plala.or.jp
事務局長　田口　由美子

役名 / 地区	理事	対策委員	学校経営研究委員	研修委員	生徒指導委員	学校安全研究委員	学校体育・健康研究委員
山　形 38	◎後藤　一昭(山形五) 023-622-0655 冨樫　彰三(山形西) 023-645-0390	阿部　慶子(山形八) 023-631-2140	海野　丈芳(山形六) 023-622-0656	須藤　吉雄(南　) 023-632-3660	小林　正次(山形九) 023-681-3600	吉田志津夫(蔵王一) 023-688-2210	小川　潔(東　沢) 023-629-2119
上　山 9	◎大沼　修一(上　山) 023-672-1400 鈴木　雅孝(本　庄) 023-674-3268	酒井　雄一(宮　生) 023-674-1406	樋渡　善(西郷一) 023-672-1404	三條　義昭(中川小) 023-679-2234	池野　仁(東　) 023-674-2816	吉田　康之(中　山) 023-676-2112	神谷　恒司(西郷二) 023-672-1405
東村山 19	◎安達　幸司(山　辺) 023-664-5005 村形　啓行(高　擶) 023-655-2051	工藤　昭広(蔵　増) 023-654-2304	鈴木　伸一(天童南部) 023-654-1750	庄司　健二(千　布) 023-654-2307	高橋　修一(津　山) 023-654-2309	熊澤　篤夫(寺　津) 023-654-2305	奥山　淳一(荒　谷) 023-654-2310
西村山 29	◎草苅　和男(寒河江中部) 0237-86-8321 佐藤　藤彰(南　部) 0237-86-2443	横山　稔(谷地中部) 0237-71-1104	多田　秀人(柴　橋) 0237-86-2445	工藤　直樹(西　里) 0237-71-1100	熊谷　昌彦(西　山) 0237-74-2312	柏倉　真之(高　松) 0237-87-1022	富樫　誠(西五百川) 0237-67-2369
北村山 35	◎大類豊太郎(楯　岡) 0237-55-2411 高宮　洋悦(尾花沢) 0237-22-0044	鈴木　美和子(荻　袋) 0237-25-2030	竹村　健一(東根中部) 0237-43-8000	野口　信子(高　橋) 0237-22-1616	有路　宏司(袖　崎) 0237-58-2011	大類　公男(名木沢) 0237-25-2032	大坪　伸二(戸　沢) 0237-56-2112
最　上 40	◎森　洋一(新　庄) 0233-22-4067 阿部　敏彦(富　沢) 0233-45-2811	渋間　淳一(有　屋) 0233-52-2038	小幡　昭徳(牛　潴) 0233-55-2809	高野　博(安楽城) 0233-63-2351	門間　今朝徳(向　町) 0233-43-2266	横山　巌(戸　沢) 0233-72-2502	齋藤　宏(萩　野) 0233-25-2303
米　沢 18	◎小形　義和(東　部) 0238-22-8047 島津　真一(西　部) 0238-22-8068	山口　和夫(窪　田) 0238-37-5274	小林　敏洋(　関　) 0238-38-2319	辻　雅人(松　川) 0238-22-8088	板垣　正明(興　譲) 0238-22-8040	大宮　英俊(広　幡) 0238-37-5279	佐藤　清二(上　郷) 0238-28-3409
東置賜 23	◎大澤　実(赤　湯) 0238-43-2069 丸山　信也(高　畠) 0238-52-1050	廣居　安子(梨郷) 0238-47-4332	大沼　篤(屋　代) 0238-52-0072	島津　正道(和　田) 0238-56-3003	井上　久明(小　滝) 0238-41-2620	小林宏一郎(糠野目) 0238-57-3206	會田　昭広(時　沢) 0238-52-3452
西置賜 23	◎風間　孝(平　野) 0238-88-2704 大道寺高明(飯豊一) 0238-72-2277	眞木　道雄(伊佐沢) 0238-88-2710	渡部　恭子(添　川) 0238-74-2006	五十嵐英治(豊　田) 0238-88-9314	熊野　昌昭(長　井) 0238-84-1701	大村　享夫(蚕　桑) 0238-85-2249	向田　俊一(沖　庭) 0238-62-2304
田　川 48	◎難波　信昭(朝暘一) 0235-22-0441 齋藤　雅志(立　川) 0234-56-2525 佐藤　清雄(羽黒二) 0235-62-2148	池田　幹夫(櫛引西) 0235 -57-2106	渡部登美雄(羽黒一) 0235-62-2678	坂本　慶治(横　山) 0235-66-2214	梅木　道男(西　郷) 0235-76-2307	鈴木　健(余目三) 0234-43-2619	田中　利幸(押切小) 0235-66-2421
飽　海 35	◎田中　利明(松　陵) 0234-33-0627 村上幸太郎(高　瀬) 0234-72-2206	冨樫　春夫(浜　田) 0234-22-9535	佐藤　正夫(亀　城) 0234-22-0455	伊藤　志郎(南平田) 0234-52-2009	渡部　俊明(新　堀) 0234-93-2002	山澤　勉(蕨　岡) 0234-72-2241	小林　光(黒　森) 0234-92-2019
担当理事			佐藤　藤彰(南　部) 0237-86-2443	冨樫　彰三(山形西) 023-645-0390	高宮　洋悦(尾花沢) 0237-22-0044	鈴木雅孝(本　庄) 023-674-3268	村形　啓行(高　擶) 023-655-2051
幹　事	幹事長　鈴木　弘康(山形四)023-623-6011	平尾　幸治(滝　山) 023-631-2248	齋藤　和夫(山形三) 023-622-0653	渡部　和生(山形十) 023-643-4102	飯野　恭伸(山形二) 023-622-0652	村山　敏悦(大　郷) 023-681-8472	荒澤　賢雄(蔵王二) 023-688-2565
317	会　計　平尾　幸治(滝　山) 023-631-2248	飯野　恭伸(山形二) 023-622-0652	片桐　理子(宮　浦) 023-645-1479	荒澤　賢雄(蔵王二) 023-688-2565	渡部　和生(山形十) 023-643-4102	齋藤　和夫(山形三) 023-622-0653	村山　敏悦(大　郷) 023-681-8472



山形県連小 会報

特集号
発行日　平成21年9月1日
発行者　山形県連合小学校長会
千葉 章一
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第63回　山形県連合小学校長会研究協議会　田川大会

「豊かな研修」に思いを込めて

大会実行委員長　難波 信昭

第63回山形県連合小学校長会研究協議会　田川大会に、遠路ご参集を賜り、心から感謝を申し上げます。

今、新学習指導要領の内容の周知や先行実施による教育課程の見直し、教員免許更新制度等、重要な課題が山積し、否応無しの対応が迫られています。今さらながら校長には、「いのち輝く子ども」の育成を目指した特色ある学校経営の充実、教育改革への対応、危機管理等、信頼され支持される学校経営の構築が期待されています。

これまでの歴史と伝統を省み、県連小の「研修が命」の命題を受け、校長並びに校長会の『豊かな研修』につなげるために、本大会で特に思いを込めたことは次の三つです。一つは、田川の特色を生かした朗読・講演を実施すること、二つは、分科会研究協議題について、各地区校長会の研究実践から具体的な提言をいただくこと、三つは、提言を自校の経営実践に生かすことです。そこで大会のキーワードを「研修」「提言」「実践」といたしました。

アンケートに見る評価は、「よい・どちらともいえない」を合わせると、「大会運営69.0％」、「朗読90.0％、講話100％」、「提言94.0％」との結果でありました。大会運営については、厳しいご意見をいただきました。全体会の時間配分のことについてご指摘をうけたものと思われますが、昨年度から万全を期して準備に取り組んできた田川小学校長会員48名の誠意と努力に免じてお許し願えれば幸いです。今後の課題として引き継ぎたいと思います。

校長先生方の積極的な参加により、新しい時代の要請に応える小学校教育の推進を図るために、より具体的な提言がなされ、実践につながる心豊かな充実した大会にすることができたものと自負いたしております。

次期「東置賜大会」の成功を心から祈念し、お礼のことばといたします。誠にありがとうございました。

研　修　Ⅱ

講演

「ゼロからの出発」
～クラゲに魅せられて～

鶴岡市立加茂水族館
館長 村上 龍男氏

皆さん、こんにちは。加茂水族館の村上です。私は水族館の運命と共に過ごしてきました。そういったことを少しお話してみたいと思います。水族館はちょうど4月18日で45年ですが、私は43年ここで過ごしております。その内の42年間は館長でした。これは鶴岡市が昭和39年に建てました。当時お客さんが20万人ちょっと。そこに私が入ったわけです。鶴岡市の経営で、私も市の職員だったのですが、翌年売られてしまった。当時の市長が庄内観光公社を設立して、今「ホテル鶴光閣」ひとつ残っていますが、当面お金もない、仕事もないので水族館を与えたんです。飼育係もいないし、私も含めて3人しかいなかったので、お金もあまりかからず当時1,000万を超す利益が上がっていた。昭和40年前後です。今恐らく10倍くらいの価値とすると億というお金が儲かっていた。そこに売った。私も込みで売られて8,150万円でした。

振り返れば本当にいろんなことがありました。その落差が大きければ大きいほど物語としては面白い。だから訴える力がある。そして行き着く先が、下村　脩先生のノーベル賞効果でした。ノーベル賞ほど知名度、訴える力が大きいものはない。日本中隅から隅まで「加茂水族館」の存在が知れ渡っていったわけです。テレビ報道になったのが10月8日。それまで「オワンクラゲ」は目立たないところに展示してあり、これは大変だと、朝から目立つところに展示しました。下村先生は70万匹から緑色蛍光タンパク質を取り出し、大変なご苦労をされたわけですが、それを知ったら、私がどん底からクラゲで立ち直ったこととダブって見えて、他人事じゃなかったんです。

私はお祝いの手紙と電報を打ちました。東北の片田舎の私の手紙なんか読んでくれないと思っていましたら、10日くらいして電話がきてびっくりしました。「下村　脩です。」と。誰かがいたずらしていると思った。「ご本人でしょうか。」と聞いたら、「ああそうですよ。」とのんびりした声。「あなたのところのクラゲは光らないんですって。」「繁殖したものなので光りません。」と言ったら、光る方法を教えてくれた。そして三重大学の先生がその物質をくれるからもらえと。電話番号も教えてくれた。実際に電話しました。「加茂水族館の村上という者です。」向こうはやはりぴんとこない。「実は、下村　脩先生に言われまして。」と言ったらあとはもうべこべこですよ。私がまるで下村先生になったような、「なんでもやります。」という感じで光らせる物質を送ってくれました。0.5cc入っている粉薬みたいなものを5つ。それが定価がついている。本当に先生にも困りますよね、常識を知らない。タダでくれてやるものに定価付けてはだめですよ。1つに10万円ですよ。それを使ったらすぐに光ったわけです。それが朝日新聞の「青えんぴつ」に載ったものですから日本中からお客様が殺到しました。

下村　脩先生のおかげで2万5,000人、1人で大体売上げ1,000円ですから、2,500万円。教育界お金ないんですよね。私のところは去年お金が余っちゃって、鶴岡市に1,500万寄付しました。鶴岡市が買い戻したのは平成14年。それからの7年間に鶴岡市に寄付したのは6,000万円。今のクラゲ展示に6,000万、クラゲレストランも3,000万かかった。全部自力でやったんです。だから、「どうだ。」と私は胸を張りたいんです。

これが「オワンクラゲ」です。緑がぼうっと光るのですが、このクラゲはクラゲを食べて生活しているから餌が難しい。そして春先から現れ今頃が終わりです。先生の受賞が決まったのが10月でしたので、日本中どこを探してもこのクラゲは泳いでいない。うちは繁殖させて展示してました。これが「オワンクラゲ」のポリープです。受精卵が付くと、この先から2㎜くらいの小さいクラゲが離れていきます。それを育てるのが至難の業で、日本中どこでも通年展示はできない。それをうちは4年くらい前から、繁殖させて、展示を普通にやっていた。私が「繁殖させたものを展示しています。」と手紙やったので電話をいただいた。そのおかげで2,500万儲かった。出発点は、うちの若い人達が飼育困難なものも克服して、ごく普通に展示していたということにあると思います。

3月に私、下村　脩先生にお会いしました。24日に東京に来られて、国際フォーラムで1,500人入る会場で講演されたとき、お礼を申し上げました。そして「なんで、私みたいな見ず知らずの水族館の館長に電話くれたんですか。」と聞きました。「あなたのところのクラゲが光らないと言うから光らせてあげようと思った。それだけですよ。」と、ごく簡単なものでした。

これが国際フォーラムで、私が一番端に座っています。隣に東大、東北大、名古屋大の先生。どなたがノーベル賞をもらってもいいほどの研究発表でした。私は

「参加と充実」

第49回東北連小福島大会（郡山市）
平成21年７月９日～10日

７／９（第１日目）　開・閉会式，講演，分科会打合せ

７／１０（第２日目）　分科会研究協議，次回開催県

分科会の様子③

分科会の様子④

平２１：第61回全連小熊本大会

アクアドームくまもと には、全国２９９１名、県内から３６名参加。　　開会行事：向山会長挨拶

平成21年10月22日～23日

＜おいしいお弁当＞

分科会場・シンポジュウムの様子

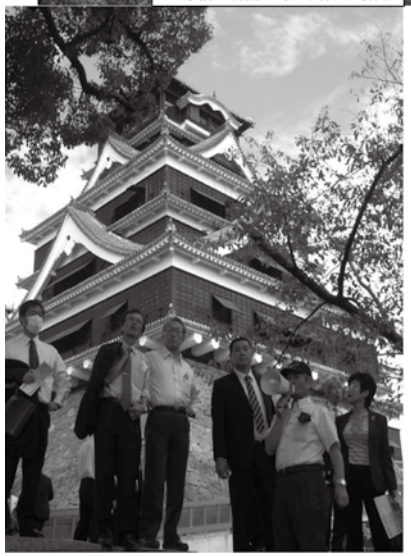
◎シンポジュウム「自己の確立・かかわり合い・夢と希望」・山下泰裕 氏（柔道金メダリスト）他

全連小熊本大会を満喫！

平成21年10月22日～24日

加藤清正築城の熊本城（烏城）

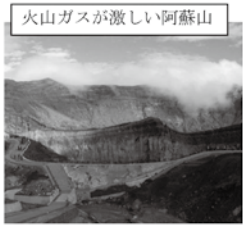
５年前の懐かしいメンバーです。５人で更に一泊し、天草に足を伸ばしました。(H27.2.10)



天草：崎津天主堂

熊本と言えば　馬刺しと焼酎

火山ガスが激しい阿蘇山

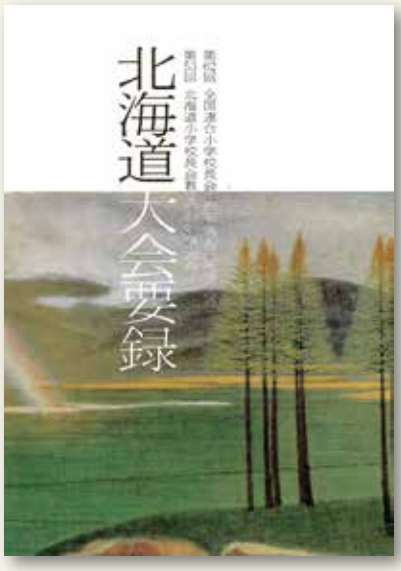


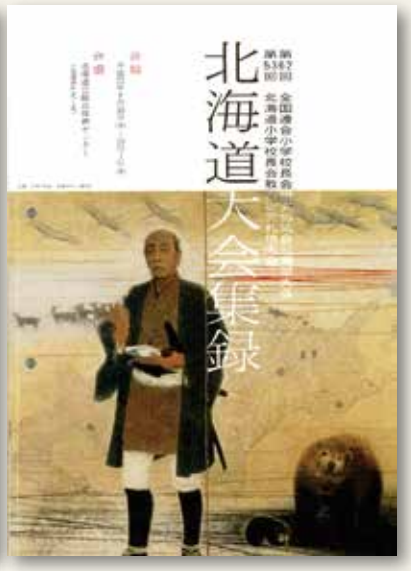
県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
鈴木弘康	313	30	33

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
東置賜大会 高畠町「まほら」	岩手県 盛岡市	北海道

平成22年度

2010





平成22年度　山形県連合小学校長会役員一覧

会　長	鈴木　弘康(山形四)	Tel. 023-623-6019			
副会長	白鳥 樹一郎(山形一)	大類豊太郎(楯　岡)	森　洋一(新　庄)		
	小形　義和(米沢東部)	浅井　良(琢　成)			
監　事	酒井　雄一（宮　生）	芳賀　彰（白　岩）	五十公野良一（鮎貝）		

事務局
〒990-0044 山形市木の実町12-37 県教育会館(大手門パルズ内 4F)
Tel　023-634-8555　E-mail：y-kren@atlas.plala.or.jp
Fax　023-632-5748　○事務局長:後藤 一昭　事務局員:櫻井 正志

役名 / 地区	理　事	対策委員	学校経営研究委員	研修委員	生徒指導委員	学校安全研究委員
山　形	◎白鳥樹一郎(山形一) 023-622-0651	佐藤　幸雄(桜　田)	佐々木　博(蔵王一)	佐藤　孝一(鈴　川)	手塚　秀雄(出　羽)	鈴木　雅孝(蔵王二)
38	小川　潔(山形八) 023-631-2140	023-624-5083	023-688-2210	023-622-2158	023-684-7321	023-688-2565
上　山	◎大沼　修一(上　山) 023-672-1400	遠藤　充(本　庄)	山口　誠(上山/南　)	三條　義昭(中川小)	池野　仁(上山/東)	吉田　康之(中　山)
9	神谷　恒司(西郷二) 023-672-1405	023-674-3268	023-673-3131	023-679-2234	023-674-2816	023-676-2112
東村山	◎村形　啓行(高　擶) 023-655-2051	工藤　昭広(蔵　増)	大泉　徹(長　岡)	塩野　藤(成　生)	高橋　修一(津　山)	多田　徹(大　寺)
19	安達　幸司(山　辺) 023-664-5005	023-654-2304	023-655-2059	023-654-2303	023-654-2309	023-664-5100
西村山	◎草苅　和男(寒河江小) 0237-86-4235	横山　稔(谷地中部)	安孫子　誠(川土居)	菊地　宏哉(寒河江南部)	柏倉　真之(高　松)	八矢　好幸(北谷地)
29	佐藤　藤彰(寒河江中部) 0237-86-8321	0237-54-2102	0237-74-2003	0237-86-2443	0237-87-1022	0237-71-1112
北村山	◎大類豊太郎(楯　岡) 0237-55-2411	笹原　幸悦(冨　本)	竹村　健一(東根中部)	野口　信子(高　崎)	小松克彦(大石田/豊田	長南　完治(上　柳)
34	高宮　洋悦(尾花沢) 0237-22-0044	0237-25-2030	0237-43-8000	0237-44-2320	0237-35-2206	0237-28-2118
最　上	◎森　洋一(新　庄) 0233-22-4067	門脇　昭(安楽城)	髙橋　正彦（東法田)	伊東　守(中　田)	梅津　広全(大　蔵)	齋藤　宏(北　辰)
39	阿部　敏彦(富　沢) 0233-45-2811	0233-63-2351	0233-43-2799	0233-52-7060	0233-75-2210	0233-22-3529
米　沢	◎小形　義和(東　部) 0238-22-8047	山口　和夫(窪　田)	樋口　哲弘(関　根)	辻　雅人(万　世)	板垣　正明(興　譲)	大宮　英俊(広　幡)
18	島津　真一(西　部) 0238-22-8068	0238-37-5274	0238-35-2114	0238-28-5404	0238-22-8040	0238-37-5279
東置賜	◎大澤　実(赤　湯) 0238-43-2069	伊藤　功(大　塚)	大沼　篤(屋　代)	中野　和栄(犬　川)	井上　久明(小　滝)	小林宏一郎(糠野目)
22	丸山　信也(高　畠) 0238-52-1050	0238-42-4722	0238-52-0072	0238-42-2674	0238-41-2620	0238-57-3206
西置賜	◎大道寺高明(飯豊一) 0238-72-2277	眞木　道雄(伊佐沢)	五十公野 良一(鮎貝)	五十嵐英治(長井豊田)	小関　晃一（平　野)	大村　享夫(荻　桑)
22	鈴木　雅明(荒　砥) 0238-85-2267	0238-88-2710	0238-85-2030	0238-88-9314	0238-88-2704	0238-85-2249
田　川	◎伊藤　政良(朝暘三) 0235-22-0318	池田　幹夫(東　郷)	三浦　洋介(藤　島)	坂本　慶治(横　山)	梅木　道男(黄　金)	田中　利幸(押切小)
48	本間　立(朝暘一) 0235-22-0441	0235 -66-4111	0235-64-2156	0235-66-2214	0235-22-5742	0235-66-2421
鮑　海	◎浅井　良（琢　成) 0234-22-9731	畠中　善之(松　陵)	佐藤　正夫(亀　城)	本間　茂希(松　山)	保科　元(内　郷)	柴田　公利(田　沢)
35	小松　恒彦(蕨　岡) 0234-72-2241	0234-33-0627	0234-22-0455	0234-62-2233	0234-62-2101	0234-54-2742
担当理事			佐藤　藤彰（寒河江中部)	小川　潔（山形八)	高宮　洋悦（尾花沢)	神谷　恒司（西郷二)
			0237-86-8321	023-631-2140	0237-22-0044	023-672-1405
幹　事	幹事長 齋藤　和夫(山形三) 023-622-0653	飯野　恭伸(山形二) 023-622-0652	加藤　雄一(村木沢) 023-643-2240	髙木　祐治(双　葉) 023-643-3012	豊島　孝宏(山形/南) 023-632-3660	村山　敏悦(大　郷) 023-681-8472
313	会　計 小林　正次(山形九) 023-681-3600	豊島　孝宏(山形/南) 023-632-3660	片桐　理子(宮　浦) 023-645-1479	小林　正次(山形九) 023-681-3600	村山　敏悦(大　郷) 023-681-8472	髙木　祐治(双　葉) 023-622-0653

平成22年5月31日　山形県連小会報　第128号（1）

山形県連小会報

第128号
発行日　平成22年5月31日
発行者　山形県連合小学校長会
鈴木弘康
山形市木の実町12-37
県教育会館(大手門パルズ)

第1回理事会報告
立ち位置確かに，足場を強く

今年度第1回目の理事会が4月23日大手門パルズで行われました。鈴木弘康新会長はじめ，白鳥，大類，森，小形，浅井の5氏が副会長に選出され，本年度の体制が整いました。本号では，新任者挨拶，本年度の全連小山形大会の進捗状況，理事研修会，及び県教育委員会の講話等についてお伝えします。

鈴木会長のあいさつ

1．はじめに

昭和22年に県連小が発足して64年目。第22代目の会長指名を受けました。

2．全連小山形大会

大会副主題は，「誇りと志を胸に，ともに夢に向かう，いのち輝く子どもを育てる学校経営」です。ここ3カ年の流れでは，香川大会の「夢への挑戦」を起点に，熊本大会では集団力学的な「かかわり合い」を加え，さらに，北海道大会では，人間としての根っこの部分ともいえる「ふるさとへの誇り」を加えてきました。

それらを受けて，大会実行委員会では，これまで2年有余の間，第5次山形県振興計画の基本精神である「いのち輝く　人づくり」をベースに構想してまいりました。

「夢や希望」を，ずばり「なりたい自分」に置き換えて，それを実現していく「誇りと志」，それらを縦軸に据え，さらに「つながり」を横軸に据えて，ともに夢に向かう，その「いま」に子どもの「いのち」が輝くとしたところです。

いのちの縦軸と横軸とが交わる点に，子どもたち一人ひとりがきらんと立つこと。それを，「立ち位置確かで，足場の強い」子どもととらえ，校風など，変わらずに大切にしてきたものの中でこそ育つとしています。これは，全連小が掲げる大会主題に対する教育県山形からの回答でもあります。

立ち位置の問題は，先行き不透明な時代，学校経営に当てはめることができます。今こそ，「いのち輝く学校経営」を旗頭に，校長は，自ら志を高く掲げ，子どもたちが誇りにできる学校を築いていこうではありませんか。立ち位置確かに，足場を強く。ぶれない教育理念の確立とその経営に邁進してまいりましょう。

千葉前会長あいさつ

県連小の抱える大きな課題を2つ。

① 全連小山形大会の準備

1月の全国大会打合せでは大会副主題等の再検討という事態もあったが，4月10日の常任理事会において了解を得た。これに基づいて進めることになる。

② H24年度以降の県連小の組織・運営

枠組みはできたが，細部，中味はこれからである。課題解決に向けて，理事各位の地道な努力とご協力をお願いする。

退職会員代表挨拶

前　山形市立第一小学校長
千葉榮一

ただ今は、多くのご来賓の皆様方のご臨席のもと、鈴木会長様より感謝状をいただき、誠にありがとうございました。このように会長様から直接感謝状をいただくのは、今年が最後となるわけですが、時代の流れとはいえ、後輩の皆さんに申し訳ない思いもあり、複雑な心境でもあります。そのような思いも含めて、退職者会員を代表して御礼の挨拶を一言述べさせていただきます。

今年、鶴岡市に藤沢周平記念館が開館しましたが、それを記念して「乳のごとき故郷」というエッセイ集が刊行されました。その中に、「聖なる部分」というエッセイが収められています。それは、「作文と教育」昭和63年9月号に初めて載せられ、平成7年、「故郷へ贈る六部は」に再録され、そして、今回改めて収録というふうになったものです。

このエッセイで、藤沢周平は、「多分教育とは、どのような形であれ、生徒の心と体を育むという運命から逃れない職業なのだろう。そこに教師という職業の、他の職業とは異なる聖なる部分があるように思われる。」と述べ、さらに、「最近の教育の諸問題が、そのあたりの感覚の欠落が原因をなしているとしたら、教育は由々しき事態をむかえていると言わざるを得ないように思う。」こんなふうに述べています。

今、社会はさまざまに揺れ動き、行き先の見えにくい状態になっていますが、教育においては、昭和63年に藤沢周平が危惧したような状況と同じとなってはならない、というよりは、教育こそ子ども達の今と未来のための「聖なる部分」を大切にするものであってほしい、と切に願うところです。そのためにも、先生方には誇りと志を胸に凛として立つ学校の経営者であるということを期待したいと思います。退職した者が老婆心のようなことを申し上げ、大変心苦しいのですが、校長先生方への期待と激励と受け止めていただいて、ご容赦をお願いしたいなと思います。

最後に来年に控えた全連小山形大会の大成功と県連小、そして、校長先生方のさらなるご活躍をお祈りし、御礼の言葉にかえさせていただきたいと思います。本日は、誠にありがとうございました。

第63回全国連合小学校長会研究協議会 山形大会について

全連小山形大会実行委員会
事務局次長 小林正次

第63回全国連合小学校長会研究協議会山形大会は、第51回東北連合小学校長会研究協議会・第65回山形県連合小学校長会研究協議会を兼ねて平成23年10月20日・21日の2日間、山形市で開かれます。

山形大会のシンボルマークは、紅花色で山形の「Y」を表し、三本線の緑・青・橙はそれぞれ大地の恵み、日本海と最上川の恵み、山形の文化を表しています。また、Yの上の広がりは学びの広がり、夢や未来への挑戦、そして、いのちの輝きを表しています。

山形大会には全国から約3,000人の会員が参加します。全体会会場は霞城公園内にある山形県体育館です。1日目の午前中に開会行事・全体会、午後から分科会、2日目に再び一堂に会してシンポジウムと閉会行事を行います。13の分科会会場は歩いていける範囲に設定しました。県体育館のある霞城公園は、現在、城址公園として整備が進められ、石垣も復元されています。全国から来られた方々には、十分に山形らしさを味わっていただけるものと考えています。

山形大会の副主題は『誇りと志を胸に、ともに夢に向かう、いのち輝く子どもを育てる学校経営』です。5教振のいのち輝く人づくりをベースに構想しました。夢や希望の実現を縦軸に、心のつながりを横軸に据え、ともに夢に向かう誇りと志によって子どもの「いのちが輝く」のです。この縦軸と横軸が交わる点に子どもたち一人一人がきちんと立つこと、それが「立ち位置確かな、足場の強い子ども」です。この子どもは、私たち校長の明確な教育理念の中で育ちます。

山形大会実行委員会は本部役員と事務局員で構成し、本部役員は実行委員長・副実行委員長・実行委員です。事務局は事務局長・事務局次長・4つの各部長・副部長、事務局員が務めます。各地区校長会長が実行委員になります。昨年度から山形市校長会、今年度は上山市・天童市・中山町・山辺町の東南村山各市町の校長の66人体制で準備を進めているところです。もちろん来年度は全県317人体制で取り組んでいきます。一部の校長会に任せっきりにすることなく、全地区の校長会が大会の成功のために力を合わせることが大切です。今後、各地区にお願いする仕事を具体的に示しますのでよろしくお願いします。

既に活動し始めていることが2つあります。1つめは6月に北海道で開催の全国大会への参加です。北海道大会で学んだことを山形大会に活かすとともに、山形らしさを付け加えて充実した研究協議会にしていけるようにお願いします。2つめが分科会での研究発表です。西置賜地区校長会・最上地区校長会・飽海地区校長会のみなさんが研究に取り組み始めました。山形からの発信をどうぞよろしくお願いします。

最後になりますが、この山形大会の意義は山形の教育と山形らしさの発信と考えています。発信内容は大会副主題に込められた願いと各分科会で深められる研究協議、山形の自然・文化・歴史、そして私たち山形の校長の心意気です。25万人都市でも全国大会が開けること、そして全国の校長先生方にたくさんのお土産を持って帰っていただける、そんな有意義な大会を成し遂げる私たちの心意気を示したいものです。山形でこの大会が開催されるのは48年ぶり2回目です。この巡り合わせに感謝し、全国から参加される校長先生方が山形大会に来たことを喜び合い、満足して帰れるよう心一つにして取り組んでいきましょう。

山形県連小 会報

特集号
発行日　平成22年9月1日
発行者　山形県連合小学校長会
鈴木弘康
山形市木の実町12-37
県教育会館（大手門パルズ）

第64回　山形県連合小学校長会研究協議会　東置賜大会

「研修　提言　協働」の大会

大会実行委員長　**大　澤　　実**

第64回山形県連合小学校長会研究協議会東置賜大会に、遠路ご参集を賜り、心から感謝申し上げます。

本大会を研修の場として充実・発展させようと努力いただいた諸先輩方の思いに応えようと、２日間にわたる本研究協議会の最終年度としまして実行委員会一同努力してまいりました。

今、次年度より新学習指導要領の完全実施による教育課程の見直しや教員免許更新制度等、課題が山積しています。私たち校長には、「いのち輝く子ども」の育成をめざした特色ある学校経営、教育改革への対応、信頼される学校経営の構築が期待されています。 これまでの県連合小学校長会の歴史に顧み、「研修が命」の命題を受け、私たち校長が『豊かな研修』につなげるために、本大会で特に大切にしたことは次の三つです。一つ目は、東置賜の特色を生かした朗読・民話の語り・講演を実施すること。二つ目は、分科会研究協議会において、これまでの各地区校長会の研究実践から、協議題解決につながる具体策を提言していただくこと。三つ目は、提言を自校の経営実践に生かし、その良さを発信しながら学校・子ども達を支えてもらうことです。そこで大会のキーワードを「研修・提言」そして「協働」といたしました。

アンケートに見る評価は、「よい」と評価された方が「口演92%」、「提言92%」、「大会の運営全般91%」等の結果でありました。

校長先生方の積極的な参加により、次年度に開催される第63回全連小山形大会につなげるために、より具体的な提言がなされ、心豊かな充実した大会にすることができました。次期「全連小山形大会」の成功を心から祈念し、お礼の言葉といたします。誠にありがとうございました。

研　修　Ⅱ

講　演

「高畠ワインのワインづくり」

高畠ワイン㈱代表取締役社長
奥山徹也氏

みなさん、こんにちは。ただいまご紹介頂きました奥山です。あんまり褒められると赤面の至りで、決して大したことをやってる訳ではありません。（中略）

私は、千葉県出身と言いましたけど、実は高校１年まで会津でした。会津高校に１年入って、２年生の時には親の勧めの関係で、千葉県に転校して、千葉東高校を卒業して山形へ来たという経緯がございます。（中略）

それでは、ワインのことを話す前に、今アルコール業界のことについて少しお話したいと思います。

先ほど、私が来る前に、速報値で５月のビール類の販売数量の統計がきておりました。1992年に統計をとり出して以来過去最低と、前年対比－８.４％という状況のようです。今年の２月も過去最低で、５カ月連続、今年の年頭から続けて全部マイナスでございます。これは、当然のことで、いろんな統計をみてみますと、給料が減少していくような中で、何を一番最初に節約しますか、という問いには、もう半分ぐらいの人がまず一番最初にお酒を節約しますという風に答えています。ですから、アルコール業界は、まことに不況の真っ只中、ワインもごたぶんにもれず厳しい中にある。考えてみますと、日本の社会は少子高齢化ですから、どんどんどんどんアルコールの絶対消費は減っています。その構成の中でも、チュウハイだとか、発泡酒など、こういうものが若干伸びていて、後は全部マイナスというのが今の状況です。ちょっと変わったところで、ハイボールが定着して、ウイスキーがちょっと伸びていますが、ほとんどのアルコール類はマイナスです。特に警察によると、酒飲み運転の規制がお常に厳しくなりました。罰則規定もお常に厳しくなりましたし、つい最近では、WHOが、酒の被害に関する規制を強化すべきだというような発表もしております。ですから、酒の将来は決して明るくはない、ということだけは間違いありません。（中略）

ところで、今日はワインの話をするわけですけど、ぶどうの原産地は、コーカサス地方といわれています。今のグルジア共和国の辺りです。あの辺でぶどうが作られて、それからメソポタミアのシュメール人たちが、世界で最初にワインを作ったと言われています。だいたい8000年～１万年ぐらい前に作ったと言われています。このシュメール人はメソポタミアですから、今のイラクの北の方でワインが作られたんです。ここから中東を経て、ギリシャに入って、ローマへいって、ローマからガリヤ、今のフランスの南の方へ入っていって、ヨーロッパ全般に渡った、片方は、中東からエジプトに入って、あるいは、エジプトでは独自のワイン作りが行われていたのではないかという話もありますが、一応定説としては、そういうことが言われている。

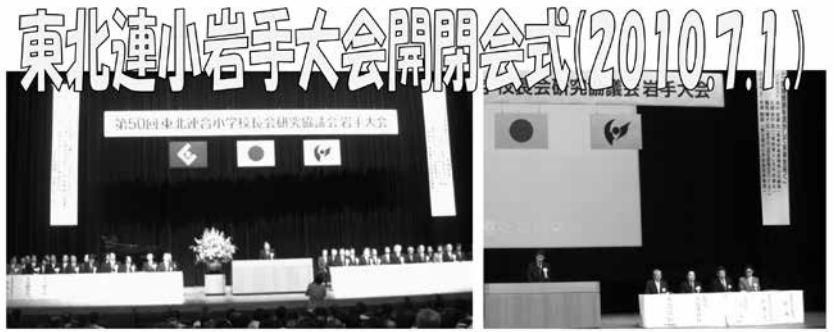
最初は、ワインというのは、とにかく普通の人が飲めるものではないんですね。非常に高価なものなので、しかも最初のころは、ワインを作ると、沈殿物が沈む。どぶろくのようなものです。下に不純物が積もって、その上ずみだけを、王様とか偉い人が飲む。あるいは神様とかに捧げる。その捧げて残ったものを庶民が飲む。ですから、決しておいしいものではなかった。あるいは、ずっと中世になってからもそうですけど、ワインはある意味では薬なんですね。みんなだいたい栄養失調という状態ですから、ワインをちょっと飲むと元気になるんです。非常に高カロリーだし、非常に栄養価の高い飲み物です。ですから、庶民が普通に飲ませてもらえたのは、だいたいワインを絞ったかすです。かすに水を入れて、ややワインの成分が残っているようなものを飲む。また、沈んでいた方に蜂蜜をかけて飲むとかですね。そのへんが上等な方で、もう普通の庶民は、絞ったかすに水を入れて飲むというようなことが、ごく一般的なことでした。

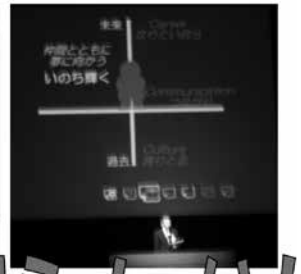
飲まれ方も非常におもしろいです。たとえばこういう話があります。

紀元前２世紀ぐらいに、初めて作ったワインを直接飲むようになったのです。これは、ガリヤ人が、ワインをそのまま飲んだという記録が残っているそうです。普通ワインは、どういう風に飲んだかというと、ギリシャ人あたりは、大きな金杯のような杯、大杯を金などで作って、それを回し飲みしたんです。水で割るだけでなくて、いろんなものを入れるんです。私は、変だと思ったものがあるんですけど、たとえば、ワインにチーズだとか、小麦粉を溶せて、あるいはオリーブオイルなどを溶せて、それを水で割って回し飲みするんです。すごく何なんだろうと思ったのは、松やにを入れるというのがあるんです。これはどんな味がしたんだろうなあと本当に思いました。それから、ワインと一緒に食べてるものがおもしろい。すごく苦いアーモンドとか、生の玉ねぎとか、そんなものを食べながら、ワインを飲んだという記録が残っています。この習慣というのは、ローマにいっても、最初は水で割ってワインを飲んでいた。そして、家族とはあまり飲まなかった。ところが、これが家族と一緒に食事の時に飲むような習慣ができたのは、どうもシーザーの時代ぐらいと言われています。だいたい、初めて一家団欒の食事、そして、ワインというような形が、ローマのシーザーの時代にできたという風に言われています。こんどガリヤというフランスの南の方に入っていくわけです。フランスの一番南マルセイユに入っていくわけです。到達したのは、だいたい紀元前６世紀頃と言われています。ガリヤというのは、ローマの植民地です。それから、ローマ人は一生懸命そこでぶどうを作ります。ほぼ、300年ぐらい。３世紀ぐらいには、ぶどうの作られる範囲は、もうヨーロッパでは一番北のほうまでワイ

県連小東置賜大会（H22.6/10～11）

第50回東北連小岩手大会（盛岡市）平成22年７月１日～２日





第６２回 全国連合小学校長会研究協議会北海道大会
第５３回 北海道小学校長会教育研究札幌大会

平成22年9月30日（木）

シンポジウム
『ふるさと 夢と希望そして挑戦』
（シンポジスト）
小菅正夫氏
林沼博彦氏
植松努氏
（コーディネーター）
有馬守一

少年よ大志を抱け

次期開催地 山形県
鈴木会長の挨拶

＜加藤先生制作の素晴らしいプレゼンテーション＞

①あき 竹城 氏（女優）山形県米沢市出身。ＮＨＫ大河ドラマ「天地人」で、直江兼続の妻お船の侍女役を好演。 ②根岸 吉太郎 氏（映画監督）山形市内にある東北芸術工科大学映像学科長。松たか子主演の「ヴィヨンの妻」で昨年 モントリオール最優秀監督賞受賞。 ③奥山 清行氏（カーデザイナー）山形市出身。フェラーリ・エンツォ等を制作し、世界的に有名になる。山形市内に「山形工房」を開く。

H22全連小北海道大会（9/30-10/2）

＜秋晴れの中、一路新千歳空港へ＞

＜閉会行事：鈴木会長が堂々と挨拶＞

美瑛町立美馬牛小視察

＜熱心な教育研究視察～壮大な美瑛町へ＞

アルテピアッツア美唄

砂川パーキングでバイキング昼食

旭山動物園コース

県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
鈴木弘康	304	36	38

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
全連小山形大会 〈日本全国から3,000名の参加〉 （県体育館を全体会場、市内ホテルにて分科会）		

平成23年度
2011

平成23年度　山形県連合小学校長会役員一覧

会　長	鈴木 弘康（山形四）		
副会長	白鳥 樹一郎（山形一）	草苅 和男（寒河江）	齋藤　渉（日　新）
	丸山　信也（高　畠）	本間　立（朝暘一）	
監　事	山澤 勉（天童市立山口小）	赤木 雄一（東根市立長瀞小）	山口 和夫（米沢市立西部小）

事務局
〒990-0044 山形市木の実町12-37 県教育会館(大手門パルズ内 4F
Tel　023-634-8555　Fax　023-632-5748
E-mail：y-kren@atlas.plala.or.jp
○事務局長：後藤 一昭　　事務局員：岩田 継生

地区＼役名	理　事	対策委員	学校経営研究委員	研修委員（調査研究委員）
山　形 38	◎白鳥樹一郎（山形一）023-622-0651 山口 吉則（山形十）023-643-4102	佐藤 幸雄（桜　田） 023-624-5083	佐々木　博（蔵王一） 023-688-2210	佐藤 孝一（鈴　川） 023-622-2158
上　山 8	◎神谷 恒司（西郷二）023-672-1405 池野　仁（上　山）023-672-1400	酒井 雄一（宮　生） 023-672-1406	山口　誠（上山/南） 023-673-3131	三條 義昭（中川小） 023-679-2234
東村山 19	◎加藤 高志（天童北部）023-654-2654 大泉　徹（長　岡）023-655-2059	阿部 善和（鳥　海） 023-666-2212	山口 歌子（天童南部） 023-654-1750	塩野　譲（成　生） 023-654-2303
西村山 29	◎草苅 和男（寒河江）0237-86-4235 芳賀　彰（白　岩）0237-87-1024	工藤 正年（宮　宿） 0237-67-2306	松澤　哲（溝　延） 0237-71-1102	石塚 直樹（西　根） 0237-86-2444
北村山 31	◎佐藤 淳一（楯　岡）0237-55-2411 高宮 洋悦（尾花沢）0237-22-0044	遊佐 靖彦（鶴　子） 0237-28-2126	竹村 健一（東根中部） 0237-43-8000	大坪 伸二（東　郷） 0237-44-2224
最　上 35	◎齋藤　渉（日　新）0233-22-0497 阿部 敏彦（富　沢）0233-45-2811	姉崎 秀悦（富　長） 0233-32-2769	高橋 正彦（大　蔵） 0233-75-2210	伊東　守（中　田） 0233-52-7060
米　沢 18	◎板垣　正明（興　譲）0238-22-8040 高橋　美香（東　部）0238-22-8047	山口 和夫（西　部） 0238-22-8068	大江 昌信（三沢西部） 0238-31-2113	遠藤　誠（北　部） 0238-22-8066
東置賜 22	◎丸山　信也（高　畠）0238-52-1050 髙橋　正幸（赤　湯）0238-43-2069	伊藤　功（大　塚） 0238-42-4722	會田 昭広（二井宿） 0238-52-1004	平田　裕（小　松） 0238-42-3151
西置賜 21	◎鈴木　雅明（荒　砥）0238-85-2267 佐藤 健治郎（小　国）0238-62-2018	竹田 俊章（伊佐沢） 0238-88-2710	五十公野 良一（鮎貝） 0238-85-2030	高井 耕次（飯豊二） 0238-72-2066
田　川 48	◎本間　立（朝暘一）0235-22-0441 矢口　研一（朝暘四）0235-22-8343	遠藤 龍見（朝暘五） 0235 -22-0514	三浦 洋介（藤　島） 0235-64-2156	坂本 慶治（押　切） 0235-66-2421
飽　海 35	◎齋藤 眞里子（港　南）0234-22-1005 佐藤　弘（南遊佐）0234-28-2803	畠中 善之（松　陵） 0234-33-0627	佐藤 茂穂（宮野浦） 0234-31-2287	本間　茂希（松　山） 0234-62-2233
担当理事			大泉　徹（長　岡） 023-655-2059	佐藤　淳一（楯　岡） 0237-55-2411
幹　事	幹事長　齋藤 和夫(山形三) 023-622-0653	豊島 孝宏(山形/南) 023-632-3660	村山 敏悦（大　郷） 023-681-8472	高木 祐治（双　葉） 023-643-3012
304	会　計　◎小林 正次(山形六)　681-3600 村山 敏悦(大　郷)　681-8472	伊勢 牧子(山形/東) 023-642-5259	加藤　雄一（村木沢） 023-643-2240	小林 正次(山形六) 023-681-3600

山形県連小会報　第131号（1）　平成23年5月31日

山形県連小会報

第131号
発行日　平成23年5月31日
発行者　山形県連合小学校長会
鈴木弘康
山形市木の実町12－37
県教育会館(大手門パルズ内)

第1回理事会報告

原点に立ち帰りながら　二兎を追う年に

今年度第1回の理事会が4月22日、大手門パルズ（県教育会館）で行われました。鈴木弘康会長はじめ、白鳥、草苅、齋藤、丸山、本間の5氏が副会長に選出され、本年度の体制が整い、充実した協議がなされました。本号では、新任者の挨拶と役員等についてお伝えします。

鈴木会長のあいさつ

1．はじめに

東日本大震災をどう捉えていくか考えていました。自然への畏敬の念と感謝をあらためて感じているところです。子どもたちには、右手に楽しいこと、左手に震災を考えていこうと話をしています。また、文明の利器を使うには、覚悟が要ることも痛感しています。

ところで「希望学」という学問では、「希望」を「Wish for something to come true by action.」と定義しています。明日をもっといい日にするために、何をするか具体的に考え、実現のために情報を収集し、実際に行動するという意味です。大震災の後の県連小もそうありたいと考えています。

2．この度の不祥事を受けて

考えさせられたことが2つあります。一つは教職は聖職であり天職だ、ということです。そしてそれは一定の禁欲を伴うものであるということです。それを私たちは忘れてはなりません。二つ目は同僚性です。未来の教育界を担う若者をみんなで守る、という意識を大切にしていかなければならないという気持ちを新たにしました。

3．原点に立ち帰りながら、二兎を追う年

今年は兎年。県連小では二兎を追う年になりそうです。一つは、校長として新教育課程実施の年、五教振7年目にあたり、いのちの尊さと人間としての生き方を原点に立ち返って考え、教育の中で畏敬と感謝の念を子ども達に考えさせていく絶好の年と捉えたいと思っています。また、震災、食育を通した「いのち」の教育を一層力強く推進していく年でもあります。

二つ目は、全連小山形大会を304人の力を結集して成功に導くとともに、県連小の組織と運営の改革の総仕上げの段階の年です。

そして、三つ目には、東北連小事務局を兼ねることもあり、東北復興に向けた対話の中で「新たな知」を築いていく年でもあると考えています。

立ち位置柵かに足場を強くして、山形大会をこれからの県連小の力にする1年にしていきましょう。

平成23年度　山形県連合小学校長会年間計画

山形県連合小学校長会　Tel:023-634-8555　FAX: 023-632-5748　Email:y-kren@atlas.plala.or.jp

月	山形県連小関係 理事会・総会・会長会　等 （◆宿泊、♠小・中合同委員会）	専門委員会 対策	研修	調研	学経	全連小山形大会 実行委員会 運　営　会　議	東北連小関係 ◎会報の発行	全連小関係
4	5(火) 幹事会議① 13(水) 会計監査　　山形 18(月) 幹事会議② 22(金) 第1回理事会　　山形	4回	4回	4回	2回	12(水) 4月運営会議（市） （市）：同日山形市校長会		15（金）常任理事会①
5	6(金) ♠小中合同対策幹事会① 10(火) ♠小中合同対策委員会①→ 17(火) 幹事会議③ 31(月)◎県連小会報 第131号	① 10 (火)	① 18 (水)			6(金) 5月運営会議① 26(木) 5月運営会議②	20(金) 第1回理事会 〃　事務担当者会 大手門パルズ	24（火)常任理事会② 24（火)第208回 理事会　フロラシオン青山 25(水) 第63回総会 東京・ニッショーホール
6						16(木) 全連小山形大会拡大実行 委員会ー県内全ての校長集合 （於：ビッグウィング）10:30～16:00 30(木)6月運営会議	3(金) 第1回教育課程・対策 委員会　　山形市 大手門パルズ ◎東北連小会報　第124号	1(水)　事務担当者会 8(水)　合同都会合同委員会 10(金)～11(土)　常任理事会③　引き継ぎ会 28(火)　広報担当者 フロラシオン青山
7	5(火) ♠小中合同対策幹事会② 13(水) ♠小中合同対策委員会② → 13(水) ♠小中合同対策幹事会③	② 13 (水)				20(水)7月運営会議		12（火)役員懇談会/常任理事会④ 東海大学校友会館 13(水)第1回会長会：フロラシオン青山
8	(　)全連小表敬訪問予定 9（火)♠経営学習会・Ⅰ　(ゆさ) 19(金)幹事会議④ 26(金)第2回　理事会　　山形		② 3 (水)			1(月)8月運営会議		
9	8(木)♠「お願い」提出　山形					6(火)　9月運営会議		21(水)常任理事会⑤ 27(火) 対策・調研合同会議：東京
10	19(水)全連小常任理事会⑥ 19(水)全連小理事会・レセプション 20・21(木・金) 第63回全連小 研究協議会山形大会 ◎21.22 教育研究視察					7(木)10月運営会議①（市） 18(火)10月運営会議② 19(水)　リハーサル	19(水) 第2回理事会 メトロポリタン山形 20・21(木・金)　第51回東北 連小研究協議会山形大会 山形県体育館他	19(水)常任理事会⑥ 19(水)第209回理事会 メトロポリタン山形 全連小研究協議会山形大会 山形県体育館他
11	2(水)幹事会議⑤ 8(火)♠　経営学習会Ⅱ				① 4 (金)	11(金)11月運営会議（市）	9(水) 第2回教育課程 委員会　大手門パルズ 18(金) 第3回理事会 大手門パルズ	15(火)常任理事会⑦　F 青山 25(金)第2回会長会　　F 青山
12	2(金) 第1回地区会長会　　山形			① 16 (金)		9(金)12月運営会議（市）	7(水)第2回対策委員会 大手門パルズ ◎会報125号(青森担当)	16(金)常任理事会⑧
1	12(木)幹事会議⑥ 26(木) ♠小中合同対策幹事会④					13(金) 1月運営会議（市）		20(金)常任理事会⑨ 27・28(金・土)　　ルビノ京都 全国大会事前打ち合わせ
2	9(木)幹事会議⑦ ◆ 23・24(木・金)第3回理事会 ヒルズサンピア山形			② 1 (水)	② 8 (水)	10(金) 2月運営会議（市）	3(金)第4回理事会 引き継ぎ会：大手門パルズ	2（木) 各種委員会報告　　F 青山 15（水)　常任理事会 ⑩ 15・16 (水・木)第210回　理事会　F 青山
3	9(金)◎県連小会報 第132号 22(木)幹事会議⑧					9(金) 3月運営会議（市）	2(金)　会計監査　大手門P ◎東北連小会報　第126号	13(火)常任理事会⑪

県・東北・全国共に研究協議会は、同日開催

・第63回全連小山形大会　　平成23年10月20日～10月21日(木・金)

＜２月１０日（木）事務局運営会議のスナップ＞

山形大会関係の全ての資料を整理しながら、各種業務を行っています。HPも毎月更新中！

全連小山形大会
新事務局の愛称

「ネっづぐ　アっづぐ」

「粘　強」(NEZZUGU)という、２０１１モンテディオ山形のクラブスローガンにあやかって、新しい事務局の愛称を『ネっづぐ アっづぐ』と命名しました。全国大会の要録・集録を一挙展示。電話・ＰＣ・冷蔵庫も完備。会議の合間に熱いコーヒーや番茶、冷たいたウーロン茶を飲みながら、**ネっづぐ アっづぐ 語ってください！**（旧おしどり）

＜素晴らしい秋晴れの中、山形県体育館には、全国から３０００名を越す校長先生方が集まりました。＞

＜開会行事―全連小露木会長・鈴木弘康実行委員長のあいさつ。　全連小山形大会がスタートしました。＞

＜「つや姫」を使った美味しい山形の弁当に舌鼓。

１３の分科会・分散会では、熱のこもった活発な討論が。＞

＜２日目シンポジュウム＆閉会行事。福島・宮城・岩手の校長先生方全員が起立し、感謝の意を表しました。＞

2011年（平成23年）10月21日（金曜日）　山　形　新　聞

より良い学校めざし

全国連合小学校長会研究協議会山形大会が20日、山形市で始まった。全国から小学校長約3千人が集まり、21日までの日程で教育課題や学校経営について研究を深める。

全国から約3千人の小学校長が集まり、教育課題や学校経営について考えた大会＝山形市・県体育館

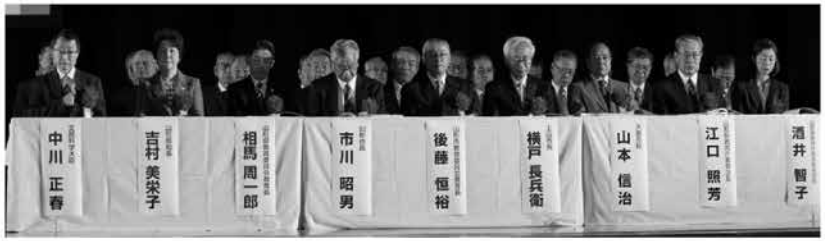
全国の小学校長会　山形で研究協議会開幕

同市の県体育館で行われた開会式では、露木昌仙全国連合小学校長会長（東京・台東育英小）が「被災地域に大きなエールを送る大会にしたい」、鈴木弘康山形大会実行委員長（山形四小）が「子ども同士、教師同士が向き合える学校でありたい」などとあいさつ。徳久治彦文部科学省大臣官房審議官、吉村美栄子知事、相馬周一郎県教育長、市川昭男山形市長が祝辞を述べた。

20日は校長の職責、教育課題、生徒指導など13の分科会・分散会ごとに「明確なビジョンを掲げた学校経営」「情報活用能力、情報モラルを高める教育活動」「外国語活動完全実施に当たっての課題」といった視点で研究発表、意見交換が行われた。

21日は県体育館でシンポジウムを行い、「夢を実現する誇りと志、いのち輝く人生」をテーマに、米沢市出身の女優あき竹城さん、山形市出身の工業デザイナー奥山清行さん、東北芸術工科大学長の根岸吉太郎さんが意見を交わす。

2011年（平成23年）
10月21日
金曜日



開会の挨拶：砂川副会長

文部科学大臣挨拶：官房審議官：徳久治彦氏

相馬教育長のご挨拶

吉村県知事のご挨拶

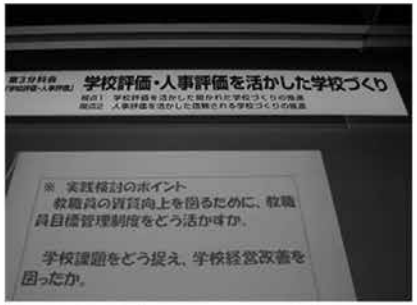
市川市長
歓迎のご挨拶

分科会スナップ（第1～第3）

＜第１分科会；校長の職責：ホテルメトロポリタン山形＞

＜第２分科会；組織・運営：山形テルサ＞

＜第３分科会；学校・人事評価：山形テルサ＞　※グループ討議に入る前は、名刺交換で自己紹介！



※実物投影機・色別カード・付箋紙等を駆使しての全体討議・グループ討議！

第４～第５分科会

＜第４分科会　；　教育課程Ⅰ　及び　教育課程Ⅱ　：　山形国際ホテル＞　※実物投影機が大活躍

＜第５分科会；現職教育：山形グランドホテル＞※分科会場には、紅花色の役員先導で、歩いて移動しました。

＜第６分科会；生徒指導：大手門パルズ＞　※グループ討議は、ロビーでも熱っぽく！

＜第７分科会；人権教育：山形市中央公民館大ホール＞　※前後の座席を利用して小グループの話し合い

＜第８分科会；健康教育：山形県郷土館―文翔館＞　※大正５年(1916年)建築の旧県庁舎・旧県議会議場。

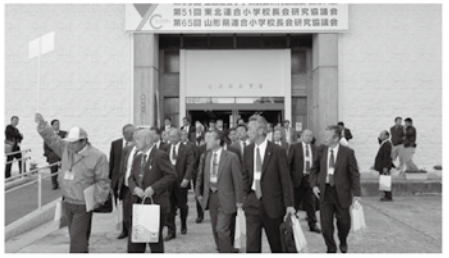
―山形県を代表する建造物、重要文化財（国指定）の山形県郷土館「文翔館」：議場ホールでは、ルネッサンス様式の椅子に座わり、落ち着いた雰囲気の中で、そして、熱い＆熱い討論を繰り広げました！―

＜第９分科会；環境教育：ホテルキャッスル＞　※全国からの素晴らしい実践発表と熱心な意見交換が。

＜第１０分科会；家庭・地域・異校種等との連携：山形県生涯学習センター（遊学館）＞

＜特別分科会；教育課題Ⅰ及び教育課題Ⅱ：山形国際ホテル＞　美味しいお弁当も！

＜開会行事の後は、山形の美味しい食材一杯の「お弁当」。　そして、分科会場には歩いて移動。＞



山形大会2日目のスナップ(10/21・金)

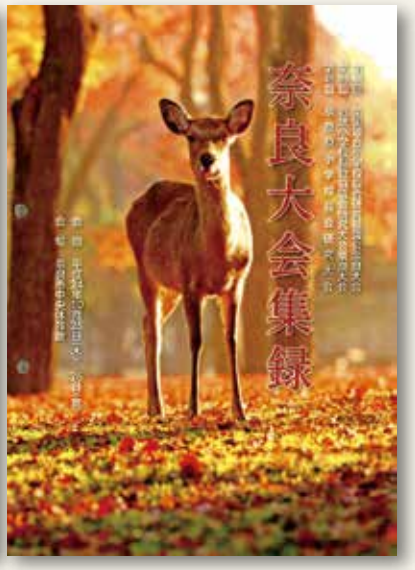
＜２１日早朝より、コングレスバッグを片手に、大手門をくぐり県体育館に向かう校長先生の列。＞

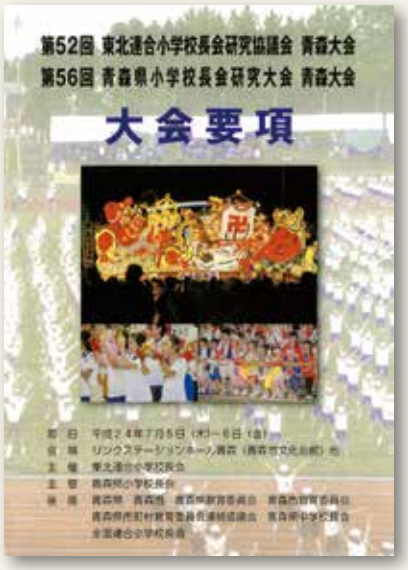
＜シンポジュウム「夢を実現する誇りと志、いのち輝く人生」。　そしてフィナーレへ！＞

県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
江口照芳	293	34	50

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
〈10分科会構成〉 北村山地区　担当 会場をビッグウィングに固定する	青森県 青森市	奈　良

平成24年度
2012





山形県連小 会報

第 133 号
発行日　平成24年５月31日
発行者　山形県連合小学校長会
江口照芳
山形市木の実町12－37
県教育会館(大手門パルズ)

今年度第１回目の理事会が４月26日（木）、県教育会館で行われました。新年度の方針、組織、運営について活発な協議がなされました。本号では、新会長、副会長のご挨拶と、新年度の組織を中心にお知らせいたします。

江口新会長のあいさつ

熱き情熱と識見豊かな鈴木弘康会長のあとを引き継ぐには、あまりにも非力ですが、精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

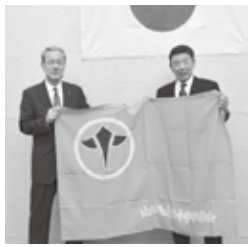
私自身、全国大会に向けて１番大変な３年間、現場を離れていたことを大変残念に思いますし、また申し訳なくも感じております。別の立場で応援させていただきましたが、多くの成果と共に、山形らしさを発信できたと感じているところです。

今年度、たくさんの課題はあるとか思いますが、まずは全国大会での成果を実践に活かす、ということが大事かと思います。「下山の思想」ではありませんが、じっくりと山を下りながらそれぞれの学校経営を振り返り、改めて学校経営の方針、ビジョンをしっかりと職員に示し、進むべき方向を明確にすることだと思います。

また、積み上げてきました実践力、マネジメント能力に磨きをかけていくためにも、さらに研鑽に励みたいものです。

２つめは、教職員の資質能力の向上です。資質は持って生まれたもので難しいが、能力は高めることができると言われています。これが校長にとって１番の大きな仕事ではないかと思います。学校経営の基盤は何と言っても教員一人一人の指導力、担任力の向上だと思います。そのためにも、中堅教員、ミドルリーダーの力を借りながら、ＯＪＴによる研修の活性化を図っていきたいものです。

最後は、信用失墜行為の絶無です。ご案内のとおり、一昨年来、不祥事が絶えない状況にあります。そのため、教育・学校に対する信頼が大きく揺らいでいるのでは、と危惧しているところです。



今年度も新年度早々、大きな事故が発生してしまいました。まずは、指導すべき管理職自身が身をもって範を示すことが大事ですが、是非、校内倫理委員会を機能させると共に、定期的な研修やチェックシートの活用、そして同僚性の醸成など、それぞれの学校で一丸となって取り組んでいきたいものです。

今年度は「山形教育の日」の制定も進められるようです。普及実践の山形、教育県山形の継承をという相馬教育長さんの思いにも是非応えていきたいものです。

また、今年度から研究協議会も１日開催になり、いろんな意味で量から質への転換を図る年になるのではないかと思います。１年間どうぞよろしくお願い致します。

理事会での主な報告、議題

(1) 新役員選出
(2) 新入会員の確認
(3) 本会理事、専門委員会の委員の確認及び活動方針
(4) 平成24年度県連小行事計画
(5) 第66回（北村山地区担当）、第67回（米沢地区担当）県連小研究協議会について
※上山の学校数減少による分科会割り当てについては、これから調査研究委員会で検討していく。
(6) 平成23年度県連小収支決算報告
※領収書のあり方について検討していく。
(7) 平成24年度県連小活動方針について
(8) 平成24年度県連小収支予算について
※県の会費1000円減を各地区の集金に反映させていただきたい。
(9) 県連小・全連小関係執筆依頼について
(10) 全連小奈良大会、東北連小青森大会の参加について

平成２４年度　山形県連合小学校長会役員一覧

会長	江口 照芳（山形一）				
副会長	山口 吉則（山形十）	神谷 恒司（西郷二）	中嶋 晴幸（新庄）		
	丸山 信也（高畠）	畠中 善之（松陵）	板垣 剛則（大久保）		
監事	青柳 由起子（寺津）	佐藤 美奈子（白岩）			

事務局　〒990-0044
山形市木の実町12-37 県教育会館(大手門パルズ内 4F
Tel　023-634-8555　Fax　023-632-5748
E-mail：y-kren@atlas.plala.or.jp
事務局長：後藤 一昭

地区	役名	理事（◎地区代表）	対策委員	学校経営研究委員	調査研究委員
山形 37	◎山口 吉則（山形十）	023-643-4102	佐藤 幸雄（桜田） 023-624-5083	佐々木 博（蔵王一） 023-688-2210	佐藤 幸一（鈴川） 023-622-2158
	渡部 和生（山形五）	023-622-0655			
上山 8	◎神谷 恒司（西郷二）	023-672-1405	最上 博之（上山/東） 023-674-2816	山口 誠（上山/南） 023-673-3131	三條 義昭（中川） 023-679-2234
	池野 仁（上山）	023-672-1400			
東村山 18	◎大泉 徹（長岡）	023-655-2059	新宮 尚彦（成生） 023-654-2303	櫻井 洋子（千布） 023-654-2307	會田 昭広（相模） 023-664-5254
西村山 24	◎板坂 憲助（寒河江）	0237-86-4235	八矢 好幸（溝延） 0237-71-1102	武田 幸一（西根） 0237-86-2444	前田 雅孝（谷地西部） 0237-71-1108
北村山 31	◎佐藤 淳一（楯岡）	0237-55-2411	平山 茂（神町） 0237-47-0035	長谷川 義隆（荻袋） 0237-25-2030	大坪 伸二（東郷） 0237-44-2224
最上 32	◎中嶋 晴幸（新庄）	0233-22-0467	澁江 学美（北辰） 0233-22-3529	加藤 昭男（堀内） 0233-35-2009	伊藤 進（明安） 0233-52-2037
	阿部 敏彦（向町）	0233-43-2266			
米沢 18	◎板垣 正明（興譲）	0238-22-8040	棚村 正（南原） 0238-38-2306	大江 昌信（三沢西部） 0238-31-2113	遠藤 誠（北部） 0238-22-8066
東置賜 22	◎丸山 信也（高畠）	0238-52-1050	清野 均（亀岡） 0238-52-0539	原田 寧（中郷） 0238-42-3616	高橋 秀一（犬川） 0238-42-2674
	高橋 正幸（赤湯）	0238-43-2069			
西置賜 20	◎熊野 昌昭（長井）	0238-84-1701	竹田 俊幸（伊佐沢） 0238-88-2710	山川 英俊（李森） 0238-85-2249	渡部 恭子（豊田） 0238-88-9341
田川 48	◎木間 立（朝暘一）	0235-22-0441	遠藤 龍見（朝暘五） 0235-22-0514	三浦 洋介（藤島） 0235-64-2156	安在 彰（立川） 0234-56-2525
飽海 35	◎畠中 善之（松陵）	0234-33-0627	本間 茂希（富士見） 0234-24-6791	村上 千景（中平田） 0234-22-3006	鈴木 敦正（広野） 0234-92-3003
	佐藤 弘（南遊佐）	0234-28-2803			
担当理事	幹事長 飯野 恭伸（山形四）	023-622-0653	伊藤 牧子（山形/東）	板坂 憲助（寒河江）	板垣 正明（興譲）
	会計 畠島 孝宏（山形二）	023-681-3600	畠島 孝宏（山形二） 023-642-5259	0237-86-4235	0238-22-8040
幹事 293			023-681-3600	田中 利幸（南山形） 023-688-2430	酒井 智子（山形三） 023-622-0653
				加藤 雄一（蔵王二） 023-688-2565	髙木 祐治（大郷） 023-681-8472

平成24年度　山形県連合小学校長会年間計画　(H24.4.26.)　　7-(5)-ア

山形県連合小学校長会 TEL:023-634-8555 FAX: 023-632-5748 y-kren@atlas.plala.or.jp

月	山形県連小関係 理事会・総会・会長会　等 (◆宿泊、♠小・中合同委員会)	専門委員会 対策	調研	学経	東北連小関係（紫）	全連小関係(予定)
4	5(木)　幹事会議① 10(火)　会計監査　　山形 19(木)　幹事会議② 26(木)　第1回理事会　　山形	4回	4回	4回		19(木) 常任理事会①
5	※ 1(火)♠小中合同対策幹事会① 11(金)♠小中合同対策委員会① 15(火)　幹事会議③ 31(木)　◎県連小会報 第133号	① 11 (金)	① 1 (火)	① 30 (水)	18(金) 第1回理事会 〃　事務担当者会 青森市アラスカ会館	24(木)常任理事会② 24(木)第211回 理事会　F青山 25(金) 第64回総会 東京・ニッショーホール
6	8(金) 第66回県連小研究協議会 (北村山地区担当) 於：山形市ビッグウイング				13(水) 第1回教育課程委員会 〃　〃　対策委員会 青森市アラスカ会館	1(金)　事務担当者会 11(月)　合同部会合同委員会 15(金)～16(土)常任理事会③ 引き継ぎ会
7	3(火)♠小中合同対策幹事会② 13(金)♠小中合同対策委員会② → 13(金)♠小中合同対策幹事会③	② 13 (金)			4(水) 第2回理事会・レセプション 5～6 (木・金)　第５２回 東北連小研究協議会青森大会 青森市文化会館・ホテル青森他	3(火)広報担当者会　F青山 10(火)役員懇談会-東海大学校友会館 11(水)第1回会長会：F 青山
8	7(火)♠経営学習会・Ⅰ（ゆさ）　→ 17(金)幹事会議④ 31(金)第2回　理事会　　山形 ※（県大会事務引継会・事前打ち合わせ会）	③ 7 (火)	② 1 (水)			7/28-8/7　海外教育事情視察
9	1(土)　◎県連小会報研究協議会特集号 13(木)♠「お願い」提出　山形			※ ② 25 (火)		27(木) 対策・調研合同会議：F青山
10	1(日)　◎県連小会報　第１３４号 24(水)レセプション：ホテル日航奈良 25～26(木・金) 第64回　全連小 研究協議会『奈良大会』 ◎26－27 教育研究視察				11(木) 第2回教育課程委員会 青森市アラスカ会館	24(水)第212回理事会 レセプション 25・26(木・金) 第64回　全連小 研究協議会『奈良大会』 奈良市中央体育館他
11	8(木)♠　経営学習会Ⅱ（ゆさ）　→ 20(火)幹事会議⑤	④ 8 (木)	③ 1 (木)	③ 13 (火)	22(木) 第3回理事会 青森市アラスカ会館	29(木)第2回会長会　　F 青山
12					5(水)第2回対策委員会 青森市アラスカ会館	
1	16(水)幹事会議⑥ 22(火)♠小中合同対策幹事会④		④ 25 (金)	④ 30 (水)		25～26(金/土)全国大会事前打合会 ルビノ京都
2	7(木)幹事会議⑦ ◆21・22(木・金)第３回理事会 ヒルズサンピア山形				1(金)第4回理事会・引き継ぎ会 青森市アラスカ会館	1(金)各種委員会報告会　F 青山 14～15(木/金)第213回　理事会 F 青山
3	8(金) ◎県連小会報 第135号 22(金)幹事会議⑧				6(水)会計監査 青森市アラスカ会館	

平成24年度 各地区学校数調べ　7－(1)

山形県連合小学校長会

地区名	平成23年度 独立校	併設小本	併設中本	合計	平成24年度の学校数 独立校	併設小本務校	併設中本務校	合計	休校・統合・新設する学校
山　形	36	1	1	38	35	1	1	37	山形市立双葉小→西山形小へ統合
上　山	8	0	0	8	8	0	0	8	変更なし
東村山	17	1	1	19	17	0	1	18	山辺町立鳥海小→大寺小へ統合 (中中→山辺中へ)
西村山	29	0	0	29	24	0	0	24	①西川町（睦合、西山、水沢、沼山川土居小）の５校が → 新設校「西川小」に ②大江町立三郷小→左沢小へ統合
北村山	31	0	0	31	31	0	0	31	変更なし
最　上	34	0	1	35	31	0	1	32	①最上町立満沢小→向町小に統合 ②真室川町（安楽城・差首鍋・平枝）の３校が →新設校「真室川あさひ小」に
米　沢	18	0	0	18	18	0	0	18	変更なし
東置賜	22	0	0	22	22	0	0	22	変更なし
西置賜	17	0	4	21	17	0	3	20	小国町立白沼小→小国小へ統合 (白沼中→小国中へ)
田　川	48	0	0	48	48	0	0	48	変更なし
飽　海	34	1	0	35	34	1	0	35	変更なし
合　計	294	3	7	304	285	2	6	293	※前年度より１１校減

山形県連小会報

特集号
発行日　平成24年８月20日
発行者　山形県連合小学校長会
江口照芳
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第66回 山形県連合小学校長会研究協議会開催される

大会日程

（６月８日㈮　山形市　国際交流プラザ）

9：30　◇受　付
10：00　◇全体会
○役員紹介
1　開会のあいさつ
佐藤　淳一　実行委員長（北村山地区）
2　国歌・県民歌斉唱
3　会長あいさつ
江口　照芳　会長
4　来賓あいさつ
山形県教育委員会教育長
相馬周一郎　様
5　来賓紹介
飯野　恭伸　幹事長
6　閉会のあいさつ
板垣　正明　次回実行委員長（米沢地区）
○諸連絡
10：40　◇研　修
講演：「心にひびくメロディーを求めて」
講師：作曲・編曲家　若草　恵　氏
12：10　◇昼　食　　各分科会会場で
13：10　◇分科会研究協議
16：00　◇閉　会

講　演

演題
「心にひびく　メロディーを求めて」

講師　若草　恵　氏

皆さんこんにちは。若草でございます。私の父は斉藤久と言いまして、県内で作曲をやってました。

私は、真室川町という秋田との県境で生まれました。昭和24年生まれです。ちょうど私が生まれた頃は戦後ですので本当にカバンも無く、学校に行くのにも風呂敷包みで持って行ったような記憶があります。

真室川町には、小学３年までいまして小学４年から父の仕事の関係で山形市に移りまして、高校卒業まで山形市におりました。私がどうして音楽を今仕事としているのかというのも、生まれた時からの環境が関係ありますのでその辺をお話させていただければと思います。

父が作曲をやっていましたので、私は生まれた時から音楽を聴いてたんですね。それが父はたぶん童謡とか歌謡曲とかを作曲してましたので、ごっちゃ交ぜにいろんな音楽を聞いて育ちました。ですので、物心ついた時から自分は将来音楽をやりたいなという漠然とした思いがあったんでしょうね。自分の頭の中でメロディーが鳴っていたりする時が度々ありまして、できれば音楽を一生の仕事としたいなと思ったのが小学４年の頃だと思います。未だに覚えているんですが、「将来何になりたいですか。」と聞かれ、女性だったらスチュワーデスとか、男性だったら総理大臣とか博士とか皆さんがそういうふうに言っている中で一人だけ「作曲家になりたいです。」と言ったら皆が何で作曲家なんだみたいな顔をしたという思い出があります。

その時も本当に時々頭の中に童謡のようなものが浮かんで、なんとか勉強したいなと思って父に言いましたら、父は若い時は県庁に勤めていて父の家系が政治的な家系だったので、県庁に勤めて将来はそういうふうになるんだというふうにお爺ちゃんが思っていたのを裏切って途中で音楽をやり始めたらしいんですね。それで県庁を勝手に辞め勘当されちゃったんですよ。作曲では当時はほとんど食べられません。母と結婚した頃は極貧生活に近かったです。それなので僕が「作曲をやりたい。」と言ったら、「作曲では飯が食えない。絶対反対だ」と、ずっと父に反対され続けました。でも、どうしても自分はやりたいという思いはあって、父に隠れていろんな音楽を聴いたり、いろんな曲を作ったりしてました。

中学になった時ブラスバンド部に入りましたら、最初はパーカッションをやらせられたんですね。どうもパーカッションは自分が求めているものじゃないなと。そこそこ２カ月くらいで辞めてしまってですね、また悶々としてたら、父が、どうしても音楽をやりたいならフルートを買ってあげようみたいな話があってフルートを買ってくれたんです。それを自分で吹いているうちに、これすごく面白いなとっても素敵な楽器だなと思って、じゃあこれを持ってもう一度ブラスバンド部に入ろうと思ってブラスバンド部に入りまして、そのまま高校３年までずっとブラスバンド部でフルートをしていました。

ただその間、ずっと音楽の勉強をして音楽大学に入って一生の勉強として仕事としてやっていきたいという思いがありました。でも、父はどうしても許してくれなかったんですね。音楽大学に入るには、小さい頃からピアノをきちっとやってそれなりの和声なり、ソルフェージュなり、聴音な

全体会：江口照芳 会長挨拶　　開会の挨拶：佐藤淳一実行委員長　　村上幸太郎教育次長ご挨拶

研修（講演）

昨年統合した大石田小学校の校歌披露式のＶＴＲも交えて

８分科会のスナップ

研究協議会（一日目程）会場：山形市国際交流プラザ

２階受付＆来賓駐車場風景

第52回東北連小　青森大会

・平成24年7月5日～6日

・リンクステーションホール青森

全連小奈良大会（H24.10.25-26）

クォルバスやトイレの混雑状況，青草色の実行委員の皆さんお疲れ様でした。

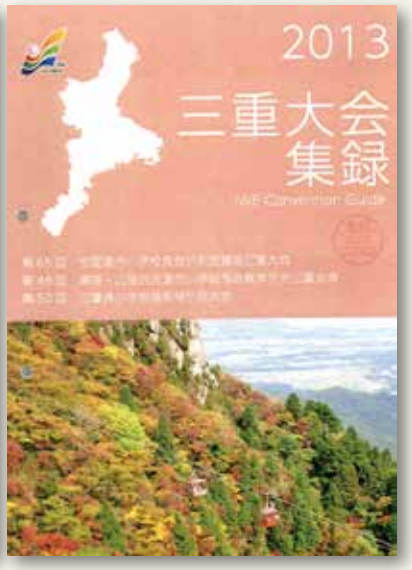
山形県懇親会（ホテルメトロ THE21）

江口照芳会長挨拶、　進行：飯野恭伸幹事長

県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
飯野恭伸	276	38	29

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
飽海地区　担当	秋田県 秋田市	三　重

平成25年度 2013



平成２５年度　　山形県連合小学校長会　役　員　一　覧　　8-(3)･(4)

会　長	飯野　恭伸（山形四）
副会長	荒澤　賢雄（山形一）塩野　譲（天童北部）　沼澤　稔（日新） 平田　裕（長井）　矢口　研一（朝暘四）
監　事	三條 義昭（上山南）志田 紀子（三泉）井上 博人（長瀞）

事務局　〒990-0044
山形市木の実町12-37 県教育会館（大手門パルズ 4F）
Tel 023-634-8555　Fax 023-632-5748　(5/31版)
E-mail : y-kren@atlas.plala.or.jp
事務局長 ： 後藤　一昭

役名 / 地区	理事　(◎地区代表)	対策委員	学校経営研究委員	調査研究委員	特別委員会 学校安全副読本編集委員
山　形 37	◎荒澤 賢雄（山形一）023-622-0651 酒井 智子（山形三）023-622-0653	佐藤　孝一（山形六） 023-622-0656	渋谷　健一（山形八） 023-631-2140	大沼　智(山形七) 023-644-3434	大宮 英俊(西山形) 643-3011 栗田 公利(高　瀬) 686-2264
上　山 6	◎池野　仁（上 山）023-672-1400	犬石　秀実（中　川） 023-679-2234	岡村　廣（西郷一） 023-672-1404	村上　宏幸（西郷二） 023-672-1405	吉田　康之（宮　川） 023-674-2816
東村山 18	◎塩野 譲(天童北部) 023-654-2654 庄司 健二（山辺）023-664-5005	新宮　尚彦（成　生） 023-654-2303	志田　祐二（長　崎） 023-662-2226	加藤　昭男（寺　津） 023-654-2305	長岡　佳孝（高　擶） 023-655-2051
西村山 22	◎板坂 憲助(寒河江) 0237-86-4235	安孫子　一彦(本郷東) 0237-62-2821	武田　幸一（西　根） 0237-86-2444	奥山　淳一（北谷地） 0237-71-1112	阿部　雄宏（大　谷） 0237-68-2011
北村山 29	◎佐藤 淳一（楯岡）0237-55-2411	笹原　幸悦（大　森） 0237-48-3500	長谷川 義隆（荻　袋） 0237-25-2030	結城　重敏（上　柳） 0237-28-2118	瀧浪　敦（大石田） 0237-35-2227
最　上 26	◎沼澤　稔（日新）0233-22-0497 阿部 敏彦(向町) 0233-43-2266	姉崎　秀悦（大　蔵） 0233-75-2210	大場　喜一（月　楯） 0233-43-2597	伊藤　進（明　安） 0233-52-2037	本多　諭(赤　倉) 0233-45-2810
米　沢 18	◎山口　和夫（西部）0238-22-8068	棚村　正（窪　田） 0238-37-5274	大江 昌信（三沢西部） 0238-31-2113	遠藤　誠（北　部） 0238-22-8066	丹野　宣秀（三沢東部） 0238-32-2014
東置賜 21	◎髙橋　正幸（赤湯）0238-43-2069	清野　均（亀　岡） 0238-52-0539	原田　寧（中　郡） 0238-42-3616	髙橋　秀一（犬　川） 0238-42-2674	髙橋　聡（屋　代） 0238-52-0072
西置賜 18	◎平田　裕（長 井）0238-84-1701 大村 亨夫（飯豊一）0238-72-2277	竹田　俊章（伊佐沢） 0238-88-2710	上川　英俊（蚕　桑） 0238-85-2249	鈴木　雄次（荒　砥） 0238-85-2267	舟上　良美(白鷹東根) 0238-85-2250
田　川 48	◎矢口 研一（朝暘四）0235-22-8343 五十嵐 良克(東郷) 0235-66-4111	升川　繁敏（加　茂） 0235 -33-3016	須田　まき（横　上） 0235-66-2214	鷲田　啓一（西　郷） 0235-76-2307	齋藤　明夫（楯引西） 0235-57-2106
飽　海 33	◎本間 茂希(富士見) 0234-24-6791	佐藤　弘（松　陵） 0234-33-0627	小松　恒彦（ 泉 ） 0234-26-3206	鈴木　教正（松　原） 0234-23-8080	井上　信也（新　堀） 0234-93-2002
担当理事			板坂　憲助（寒河江） 0237-86-4235	本間　茂希（富士見） 0234-24-6791	
幹　事 276	幹事長　豊島　孝宏(山形二) 023-622-0652	伊勢　牧子（ 山形東 ） 023-642-5259	田中　利幸（南山形） 023-688-2430	髙木　祐治（大　郷） 023-681-8472	髙橋　政吉（大曽根） 023-643-2134
	会　計　加藤　雄一（蔵王二） 023-688-2565	加藤　雄一（蔵王二） 023-688-2565	松澤　哲（本　沢） 023-688-2420	髙橋　政吉(大曽根) 023-643-2134	加藤　雄一（蔵王二） 023-688-2565

平成25年５月31日　　山形県連小会報　　第136号　(1)

山形県連小会報

第136号
発行日　平成25年５月31日
発行者　山形県連合小学校長会
飯野　恭伸
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

県連小　第１回理事会報告

学び合う　高め合う　支え合う校長会に

今年度第１回目の理事会が４月26日大手門パルズで開催されました。飯野恭伸新会長はじめ、荒澤、塩野、沼澤、平田、矢口の５氏が新副会長に選出され、今年度の体制が整いました。本号では新任者挨拶、理事研修会、及び教育委員会の講話等についてお伝えします。

飯野新会長のあいさつ

江口前会長には高い識見と豊かな発想のもと、県連小活動を力強くリードしていただきました。後任として精一杯務めさせていただきます。

小学校長会は全国、東北、各都道府県すべて連合組織です。山形県連合小学校長会も11の地区校長会の連合体です。地区の歴史や文化、児童の実態、教育風土といった特色、独自性をふまえた各地区校長会の主体性を十分尊重していくことが大前提です。同時に、山形県の子どもたちの望ましい成長を助け支えていくためには、確固たる理念のもとに、共に教育力を高めていこうとする連携と協力に基づいた固く強い組織力が極めて大切です。

県内の小学校数はピークの昭和28年の568校から、今年度は半分以下の276校となりました。

会員数が激減している状況にあっても、わたしたち校長会はその使命と責任を自覚し、これまで積み上げてきた多くの成果と果たしてきた役割を継承し発展させていくことが責務であると考えます。

今年度の県連小の課題を３点。

１つは、わたしたち校長の最大の研修の場である研究協議会の更なる充実と今後の副主題についての方向付けです。

今年度は米沢地区校長会のみなさんの担当により一人一人の会員にとって充実した研修となるよう、調査研究委員会との連携を図りながら運営を進めていただくよう期待とお願いを申しあげます。

また、今年度開催される全連小三重大会から新たな主題のもと研究協議が進められます。今年度中には新たな副主題についての検討を始め、方向付けをしていく必要があります。

２つは、各専門委員会活動の一層の充実です。

対策委員会は、教育諸条件の整備が少しでも推進されるよう実りある活動が期待されます。

調査研究委員会は、最大の研修の場である研究協議会運営の主体です。一日開催となり研修時間は短くなっても、中身の濃い質的な充実をめざす研究協議の場であって欲しいと願っています。

また、学校経営研究委員会は新しい研究テーマのもと、２年次計画の大事なスタートの年となります。

各委員会活動が無理なく、実効あるものとなるよう重点化と焦点化を図りながら進めていくことが大事です。そのためにも、各地区の研修活動の一層の充実と積極的な情報提供による連携を一層図っていくことを期待します。

３つは、県連小会員の急激な減少に伴う組織体制と運営の見直しです。近い将来、現状のままの体制と活動内容を維持していくことが困難な時がやってきます。今の内から問題点を明らかにし、将来を見すえた改善の方策を検討していくことが必要です。

県連小活動が次代を担う子どもたちの育成に資するものとなるよう、変化に対応しながら、確実に、そして着実にその歩みを前に進めることが肝要です。

県内11の地区が方向性を一にして取り組みを進めていきたいと考えます。

あらためて、会員の皆さまのご協力とご支援をお願いして挨拶といたします。

山形県連小 会報

特集号
発行日　平成25年８月20日
発行者　山形県連合小学校長会
飯野恭伸
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第67回 山形県連合小学校長会研究協議会開催される

大会日程

（６月21日㈮　山形市　国際交流プラザ）

9：30　◇受　付
10：00　◇全体会
　○役員紹介
　　1　開会のあいさつ
　　山口　和夫　実行委員長
　　2　国歌・県民歌斉唱
　　3　会長あいさつ
　　飯野　恭伸　会長
　　4　来賓あいさつ
　　山形県教育委員会教育長
　　菅野　滋　様
　　5　来賓紹介　豊島　孝宏　幹事長
　　6　大会宣言　大沼　智　調査研究委員長
　　7　閉会のあいさつ
　　本間　茂希　次期実行委員長
　○諸連絡
10：30　（休　息）
10：40　◇研　修
　講演『日本の太陽系探査』
　　～「さきがけ」から「はやぶさ」まで～
　講師　上杉　邦憲　氏
12：10　◇昼食・休憩
13：10　◇分科会
15：50　◇閉　会

講　演

演題
「日本の太陽系探査 ～「さきがけ」から「はやぶさ」まで～」

講師　上杉邦憲　氏

お早うございます。ご紹介ありがとうございました。上杉でございます。今日は「日本の太陽系探査」という題名でお話をしたいと思います。

最初に、皆様も太陽系のことはよくご承知だと思いますが、今日のお話のなかでは、例えば小学校で子どもさん達に教える時に、小学生のお子さん達から質問を受ける場合のことを念頭に置きながら、こんなことがヒントになるかなと思うようなことも含めて、お話をしたいと思います。

太陽系という話をすると必ず幾つ惑星があるかというのが出てきます。ご承知のように「水・金・地・火・木・土・天・海」までですね。昔は、冥王星が入っていたのが、７年前に惑星のランクから落とされたということがありました。もう一つよく覚えておくと役に立つのが、いくつかの数字です。太陽と地球の距離、これを１天文単位（１ＡＵ）と言いますが、約１億5000万キロです。面白いのは、地球がどれ位の速さで太陽の周りを回っているかということで、これなかなか言われないと気が付かない。実に１秒間に30キロというものすごいスピードで太陽の周りを飛んでいるんですね。この地方で言いますと、山形から村山あたりまで大体30キロだと思うんですが、１秒でそれぐらい地球が動いていることになります。もう一つ大事な単位として光の速さ、これが意外に遅いといえば遅いですね。光の速さというとちょっと考えると無限みたいに思ってしまうんですが、もちろん有限で、秒速30万キロです。ですからちょうど地球の公転速度のたった１万倍でしかない。ということで太陽から地球へ光が届くのに、この１億5000万を割りますと500秒掛かる。ですから、私達が今見ている太陽の光というのは、500秒前、約８分半くらい前の光を見ているということになります。このことは後の話で実は大事な数字になります。光速は電波の速度と同じですから、地球から遠い所へ、例えば太陽まで電波を送ろうとするとそれだけで500秒掛かるということを意味します。それから、よく出てきますのが地球の半径。だいたいこれが6378キロという値で、こんな数字がよく使われます。

次にその太陽系をどうして探査するのということがよく質問で出ます。太陽系というのはどうやって出来たのだろうか、それから、いつ生まれて、どう変わってきたのだろうか、そして地球はどうやって生まれたのか、地球の上にしか生命は無いのだろうか、そんなことを調べるために太陽系を調べていきたいなということになるわけです。

先ほどの絵にも出てきましたけれども、小惑星、太陽系の中には惑星とは別に、よくご承知のように火星と木星の間には小惑星と呼ばれる小さな星がたくさんあります。これとは別に他の所にも小惑星がたくさん回っています。一番多いのはこの火星と木星の間にありますが、これより内側に地球の側まで飛んでくる小惑星もあります。実は、これが地球にぶつかるのではないかというのが時々話題になったりしますけれども、太陽系の子ども達の中にはそういう小惑星があるわけです。ではどうして太陽系の中で小惑星を探査するのでしょうか？

太陽系は46億年前に生まれたと言われていますが、実はこの小惑星というのは大きな惑星になりきれずに小さなままで飛んでいるというもので、出来た時の状態を維持していることから、太陽系の化石ともいわれています。そうなりますと地球上でいろんな昔のことを調べるのに化石を調べるのと同じ意味で、太陽系の化石といわれる小惑星を調べることによって、どうやって太陽系や地球が生まれたかが分かってくるということで小惑星を探査したいというわけ

開会：山口和夫実行委員長

飯野恭伸　会長挨拶

村上幸太郎教育次長ご挨拶

講演：上杉邦憲氏：日本の太陽系探査「さきがけ」から「はやぶさ」まで

○幹事長豊島孝宏・調研委員長大沼智・次期飽海地区会長本間茂希/美味しい弁当/米沢地区実行委員(18名)

１０分科会（13:10～15:50）の熱心な討論

①経営・ビジョン

①のグループ討議

②組織・運営

②&④のグループ討議

③評価・改善

④知性・創造性

⑤豊かな人間性

⑦研究・研修

⑨学校安全

⑩健全育成

⑪健康・環境

⑫自立と社会性

１０分科会の協議題のもと、各地区の提言・発表、そして、グループによる活発な討論等が繰り広げられた。

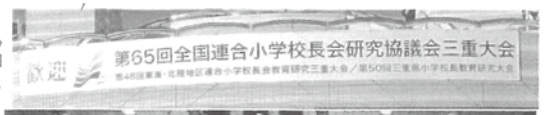
平成25年度　山形県連合小学校長会年間計画

山形県連合小学校長会 TEL:023-634-8555 FAX: 023-632-5748 y-kren@atlas.plala.or

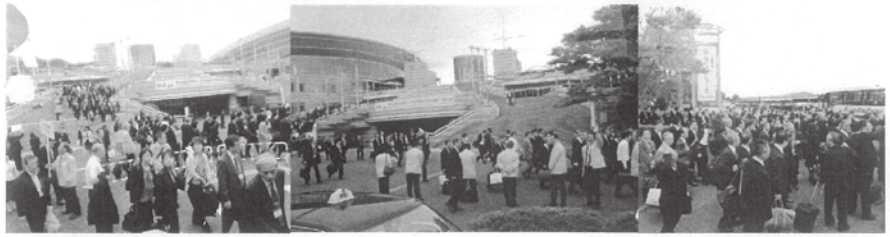
月	山形県連小関係 理事会・幹事会・会長会　等 (◆宿泊、♠小・中合同委員会)	専門委員会 対策	調研	学経	東北連小関係	全連小関係
4	5(金)　幹事会議① 10(水)　会計監査　　山形 17(水)　幹事会議② 26(金)　第1回理事会　　山形	4回	4回	4回	※県内公立学校長会 4/23庄内　5/8置賜　5/9最上　5/10 村山	
5	9(木)♠小中合同対策幹事会① 15(水)　幹事会議③ 29(水)♠小中合同対策委員会① → 31(金)　◎県連小会報 第136号	① 29 (水)	① 2 (木)	① 22 (水)	17(金) 第1回理事会 〃　事務担当者会 ホテルメトロポリタン秋田	23 (木)第214回 理事会　F青山 24(金) 第65回総会 東京・ニッショーホール
6	※6/7 県中大会 (天童ホテル) 21(金) 第67回県連小研究協議会 (米沢地区担当) 於：山形市ビッグウイング 25(火)♠小中合同対策幹事会②				13(木) 第1回教育課程委員会 〃　〃　対策委員会 ホテルメトロポリタン秋田 ※6/27-28 東北中宮城大会	3(月)　事務担当者会　F青山 11(火)　合同部会合同委員会 F青山
7	※3(水)県小中教研 2(火)♠小中合同対策委員会② → 2(火)♠小中合同対策幹事会③	② 2 (火)			10(水) 第2回理事会レセプション ◆11～12 (木・金) 第53回 東北連小研究協議会秋田大会 秋田キャッスルホテル他	1(月)広報担当者会　F青山 8(月)役員懇談会―東海大学校友会館 9(火)第1回会長会：F 青山
8	7(水)♠経営学習会　→ 16(金)幹事会議④ 30(金)第2回　理事会　　山形 ※ (県大会事務引継会)	③ 7 (水)	② 1 (木)	② 27 (火)		7/27-8/2 海外教育事情視察 (ニュージーランド)
9	1(日)　◎会報：研究協議会特集号 13(金)♠「お願い」提出　山形					26(木) 対策・調研合同会議：F青山
10	1(火)　◎県連小会報　第１３７号 ◆17～18(木・金) 第65回　全連小 研究協議会『三重大会』		③ 4 (金)	③ 9 (水)	9(水) 第2回教育課程委員会 ホテルメトロポリタン秋田	16(水)第215回理事会 E.為羽アネックス 17・18(木・金) 第65回　全連小 研究協議会『三重大会』 三重県営サンアリーナ他
11	8 (金)♠　経営懇談会 (仮称)　→ 20(水)幹事会議⑤	④ 8 (金)			※11/7-8東北教頭会山形大会：テルサ 22(金) 第3回理事会 ホテルメトロポリタン秋田	28(木)第2回会長会　　F 青山
12	※ (12/12 県大会事前打合せ会)		④ 12 (木)	④ 10 (火)	4(水)第2回対策委員会 ホテルメトロポリタン秋田	
1	15(水)幹事会議⑥ 22(水)♠小中合同対策幹事会④					
2	10(月)幹事会議⑦ ◆ 20・21(木・金)第３回理事会 於：ヒルズサンピア山形				7(金)第4回理事会・引き継ぎ会 ホテルメトロポリタン秋田	4 (火) 各種委員会報告会　F 青山 12～13 (水/木)第216回　理事会 F 青山
3	7(金) ◎県連小会報 第１３８号 25(火)幹事会議⑧				5(水)会計監査 ホテルメトロポリタン秋田	

＜※県連小の会議場は大手門パルズ＞

全連小三重大会



◎１０月１５日（火）夕方、大型台風２６号接近のため、明日の山形及び東北新幹線は運休と発表される。
１６日（水）午後３時過ぎにようやく運転再開なるも、松阪のホテル到着は、１１時を過ぎていました。
しかし、１７日の大会当日は良い天気に恵まれ、参加者３３名は、元気に開会式に臨みました。



県連小懇親会

台風の影響で翌日 17 日に延期となりましたが、有意義な懇親会になりました。

第３回理事会

（ヒルズサンピア山形）

飯野会長 挨拶
＆４人の副会長

（H26.2.20-21）

豊島幹事長

県教委からのご指導

２日目は、理事研修会

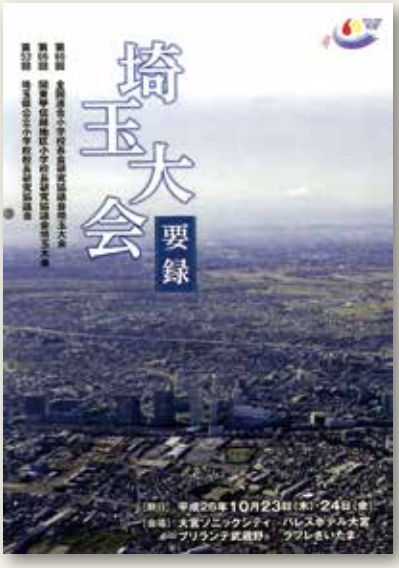
各地区理事より、活発な意見が出ました。（会報参照）

平成２５年度 強力な県連小幹事会

県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
荒澤賢雄	266	27	46

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
米沢地区　担当	宮城県 白　石	埼　玉

平成26年度
2014



山形県連小 会報

第 139 号
発行日　平成26年５月31日
発行者　山形県連合小学校長会
荒 澤 賢 雄
山形市木の実町12－37
県教育会館(大手門パルズ)

県連小　第１回理事会報告

共に支え合い 組織力を発揮する校長会に

今年度第１回目の理事会が４月25日大手門パルズで開催され、新年度の方針、組織、運営について活発な協議がなされました。本号では、新任者挨拶、理事研修会の内容、教育委員会の講話等についてお伝えします。

荒澤新会長のあいさつ

識見豊かな、飯野恭伸前会長には、県連小の進むべき方向性をお示しいただきながら、力強く私達をリードしていただきました。後任者として、精一杯努めてまいります。よろしくお願いいたします。

山形県内のすべての小学校、県内11地区に組織されている各地区校長会の連合体として存在しているのが山形県連合小学校長会です。山形県の小学校教育の振興と、県内のすべての児童が心豊かにたくましく成長するために、各学校、各地区校長会と緊密な連携と協力体制を構築しながら、県連小として一つにまとまり、取り組みを充実させてまいりたいと存じます。特に、現在、教育内容と教育に関わる環境の改革が早急に実施されようとしています。今こそ、県連小としての組織力を十分に発揮しなければならない時であると捉えているところです。諸課題に対する共通理解を図り、進むべき方向性を定め、共に手を取り合って課題解決に努めたいものです。

今年度の県連小の課題を３点申し上げます。

課題の第１点目は、県連小の組織と活動内容の見直しについてです。今年度は、昨年度の第３回理事会でご承認いただきましたように、専門委員会の組織と活動内容を抜本的に整理・統合していきたいと考えております。現在、いじめの問題や体罰問題、インターネットに起因する問題など生徒指導上の喫緊の課題への対応が迫られています。また、山形県の第６次教育振興計画を見据えた研修活動の充実という新たな側面も大事にしなければならない時期に入ってまいりました。このような観点を踏まえ、県連小の組織力の強化を目指して、専門委員会の組織と活動内容を再構築していきたいと考えています。

課題の２点目は、平成29年度に予定されております東北連小山形大会へ向けた準備についてです。準備委員会で大会の大枠についてご検討いただいた後、本年度秋には、山形市小学校長会の校長先生方を中心にした実行委員会へ移行し、具体的な準備を進めてまいりたいと存じます。全連小山形大会を大成功に導いたという自信と誇り、そして、その時の計画・運営の貴重な経験等をフル活用し、準備を進めてまいりたいと思います。

課題の第３点目は、もうすでに足下にまで来ている国の教育改革への対応についてです。早急な教育改革に対して、私達も、教育現場の実情や現場目線での要望を適時に発信していくことが求められます。昨年度、全国学力・学習状況調査の結果公表についての意見書を全連小と県連小会長連名で県教委に提出しました。今年度も、行政機関や関係機関に提言すべき時は、適時に提言していきたいと考えています。その際は、各地区校長会へ意見の聴取をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

課題解決のためには、県連小という組織の凝集性を高めていくことが第一に求められます。改めまして、各地区校長会と会員の校長先生方のご理解とご協力をお願い申し上げ、挨拶といたします。

平成２６年度　山形県連合小学校長会　役　員　一　覧

会　長	荒澤　賢雄(山形一)
副会長	酒井智子(山形三)　佐藤　淳一(鮭　岡)　高野　博(新　庄) 平田　稔(長　井)　池田公夫(浜　田)
監　事	吉田　康之(宮　川)　元木　満(天童北部)　阿部　雄宏(大　谷)

地区＼役名	理　事　(◎地区代表)	対策委員	学校経営研究委員	調査研究委員
山　形 37	◎酒井　智子(山形三) 023-622-0653 田中　淳(山形五) 023-622-0655	佐藤　幸一(山形六) 023-622-0656	渋谷　健一(山形八) 023-631-2140	大沼　智(山形七) 023-644-3434
上　山 6	◎三條　義昭(上山南) 023-673-3131	犬石　秀実(中　川) 023-679-2234	岡村　慶(西郷一　) 023-672-1404	村上　宏幸(西郷二) 023-672-1405
東村山 18	◎庄司　健二(山　辺) 023-664-5005	武田　喜美男(天童中部) 023-654-2301	長谷川　良和(豊　田) 023-662-2058	加藤　昭男(寺　津) 023-654-2305
西村山 22	◎板坂　憲助(寒河江) 0237-86-4235	奥山　淳一(北谷地) 0237-71-1112	冨樫　雅人(幸　生) 0237-87-1127	武田　幸一(南　部) 0237-86-2443
北村山 26	◎佐藤　淳一(楯　岡) 0237-55-2411 元木　正史(東　根) 0237-42-1200	井上博人(長　瀞) 0237-42-0321	渡辺　修(大石田南) 0237-35-5147	武田　徹(富　並) 0237-57-2254
最　上 25	◎高野　博(新　庄) 0233-22-4067 伊東　守(日　新) 0233-22-0497	長南　宏治(鮭　川) 0233-55-2607	髙橋　正彦(真室川あさひ) 0233-63-2351	髙橋　幹弥(有　屋) 0233-52-2038
米　沢 18	◎須崎　登志(興　譲) 0238-22-8040	辻　雅人(米沢南部) 0238-22-8044	三森　聡(六　郷) 0238-37-5282	樋口　哲弘(万　世) 0238-28-5404
東置賜 21	◎島津　正道(南　陽) 0238-52-1050	清野　均(亀　岡) 0238-52-0539	原田　寧(中　郡) 0238-42-3616	小林　孝(犬　川) 0238-42-2674
西置賜 17	◎平田　稔(長　井) 0238-84-1701 大村　亨夫(飯豊一) 0238-72-2277	牛澤　敏宏(平　野) 0238-88-2704	山川　英俊(白　鷹) 0238-85-2249	鈴木　正人(飯豊二) 0238-85-2267
田　川 45	◎矢口　研一(朝陽四) 0235-22-8343	井川　繁敏(加　茂) 0235 -33-3016	須田　まき(櫛　山) 0235-66-2214	鷲田　啓一(西　郷) 0235-76-2307
鮭　海 31	◎池田　公夫(浜　田) 0234-22-9535 加藤　博之(西荒瀬) 0234-34-2004	佐藤　弘(松　陵) 0234-33-0627	小松　恒彦(　泉　) 0234-26-3206	鈴木　教正(松　原) 0234-23-8080
担当理事	加藤　雄一(蔵王二) 023-688-2565	田中　利幸(南沼原) 023-643-3010	元木　正史(東　根) 0237-42-1200	板坂　憲助(寒河江) 0237-86-4235
幹　事 266	幹事長　高木　祐治(山形二) 023-622-0652 会　計　田中　利幸(南沼原) 023-643-3010	池田　友子(村木沢) 023-643-2240	最上　博之(山形九) 023-681-3600	田所　昭裕(明　治) 023-681-8473

事務局　〒990-0044
山形市木の実町12-37 県教育会館(大手門パルズ 4F)
Tel 023-634-8555　Fax 023-632-5748
E-mail：y-kren@atlas.plala.or.jp
事務局長：後藤 一昭

平成26年度　山形県連合小学校長会年間計画

山形県連合小学校長会 Tel:023-634-8555 FAX: 023-632-5748 y-kren@atlas.plala.or

	山形県連小関係 理事会・会長会・幹事会等 （◆宿泊、♠小・中合同委員会）	専門委員会 対策	専門委員会 調研	専門委員会 学経	東北連小関係	全連小関係
4	4(金) 幹事会議① 10(木) 会計監査　山形 17(木) 幹事会議② 25(金) 第1回理事会　山形	4回	4回	4回	＊4月30日(水)県内公立学校長会予定	
5	1(木)♠小中合同対策幹事会① 8(木)♠小中合同対策委員会① 14(水) 幹事会議③（飽海地区事前打合） 30(金) ◎県連小会報 第139号	① 8 (木)	① 1 (木)	① 21 (水)	◆ 16(金) 第1回理事会 〃 事務担当者会 （仙台市ホテル白萩）	◆ 22（木)第217回 理事会　F青山 23(金) 第66回総会 東京・ニッショーホール
6	13(金) 第68回県連小研究協議会 （飽海地区担当） 於：山形ビッグウイング 24(火)♠小中合同対策幹事会②				11(水) 第1回教育課程委員会 （仙台市ホテル白萩） ※対策委員会は１２月へ	2(月) 事務担当者会　F青山 10(火) 合同部会・合同委員会 F青山
7	10(木)♠小中合同対策委員会② 10(木)♠小中合同対策幹事会③	② 10 (木)			2(水)第2回理事会レセプション ◆3～4（木・金）第54回 東北連小研究協議会宮城大会 白石市・小原周辺ホテル他	1(火)広報担当者会　F青山 ◆ 10(木)役員懇談会-東海大校友会館 11(金)第1回会長会：F 青山
8	6(水)午前：幹事会議④ 6(水)午後：♠経営懇談会 29(金)第2回 理事会　山形 （研究協議会事務引継会）	③ 6 (水)	② 1 (金)	② 26 (火)		7/27-8/2 海外教育事情視察 （ニュージーランド）
9	1(日)◎会報：研究協議会特集号 12(金)♠「お願い」提出　山形					25(木) 対策・調研合同会議：F青山
10	1(水) ◎県連小会報　第140号 ◆23～24(木・金) 第66回 全連小 研究協議会『埼玉大会』 31(金) 幹事会⑤		③ 7 (火)	③ 9 (木)	8(水) 第2回教育課程委員会 （仙台市ホテル白萩）	22(水)第218回理事会プリランテ武蔵野 ◆23・24(木・金) 第66回全連小 研究協議会『埼玉大会』 大宮ソニックシティー他
11	7（金)♠午後 経営学習会 （※11/5 公立小中校長会予定） 14（金) 地区会長会① 於：山形国際ホテル	④ 7 (金)			※１１月理事会は削除	27(木)第2回会長会　F 青山
12	（12/2:H28研究協議会/西置賜事前打合会）		④ 2 (火)	④ 9 (火)	3(水)第１回対策委員会 （仙台市ホテル白萩）	
1	15(木)幹事会議⑥ 22(木)♠小中合同対策幹事会④					
2	10(火)幹事会議⑦ ◆ 19・20(木・金)第３回理事会 於：ヒルズサンピア山形				6(金)第３回理事会・引き継ぎ会 （仙台市ホテル白萩）	4（水）各種委員会報告会　F 青山 ◆12～13（木/金)第219回理事会 F 青山
3	6(金) ◎県連小会報 第141号 24(火)幹事会議⑧				6(金)会計監査 （仙台市ホテル白萩）	

＜※県連小の会議場は大手門パルズ＞

平成２６年度 各地区学校数調べ

	地区名	平成２５年度 学校数 独立校	併設小本務校	併設中本務校	合計	平成２６年度予定の学校数 独立校	併設小本務校	併設中本務校	合計	±
1	山　形	35	1	1	37	35	1	1	37	0
2	上　山	6	0	0	6	6	0	0	6	0
3	東村山	17	0	1	18	17	0	1	18	0
4	西村山	22	0	0	22	22	0	0	22	0
5	北村山	29	0	0	29	26	0	0	26	-3
6	最　上	26	0	0	26	25	0	0	25	-1
7	米　沢	18	0	0	18	18	0	0	18	0
8	東置賜	21	0	0	21	21	0	0	21	0
9	西置賜	17	0	1	18	16	0	1	17	-1
10	田　川	48	0	0	48	45	0	0	45	-3
11	飽　海	32	1	0	33	30	1	0	31	-2
	合　計	271	2	3	276	261	2	3	266	-10

＜◎平成２６年４月より、休校・閉校・統合する予定の学校について＞

5. 北村山：尾花沢市立名木沢小・福原中部小・寺内小・荻袋小の４校統合
→ 尾花沢市立福原小学校（仮称）

6. 最　上：金山町立金山小・中田小の２校統合　→ 金山町立金山小学校

9. 西置賜：小国町立小国小・沖庭小の２校統合　→ 小国町立小国小学校

10. 田　川：（ちょうようだいし）
・鶴岡市立朝暘第四小・湯田川小・田川小の ３校統合 → 鶴岡市立朝暘第四小学校（ちょうようだいよん）
・鶴岡市立朝日小・朝日大泉小の２校統合 → 鶴岡市立あさひ小学校

11. 飽　海：
・酒田市立亀城小学校・港南小学校の２校統合 → 酒田市立亀ヶ崎小学校
・遊佐町立西遊佐小学校・稲川小学校の２校統合 → 遊佐町立藤崎小学校

山形県連小会報

特集号
発行日　平成26年８月20日
発行者　山形県連合小学校長会
荒澤賢雄
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第68回 山形県連合小学校長会研究協議会開催される

大会日程

（６月13日㈮　山形市　国際交流プラザ）

9：30　◇受　付
10：00　◇全体会
　○役員紹介
　　1　開会のあいさつ
　　池田　公夫　実行委員長
　　2　国歌・県民歌斉唱
　　3　会長あいさつ
　　荒澤　賢雄　会長
　　4　来賓あいさつ
　　山形県教育委員会教育長
　　菅野　　滋　様
　　5　来賓紹介　髙木　祐治　幹事長
　　6　大会宣言　大沼　　智　調査研究委員長
　　7　閉会のあいさつ
　　板坂　憲助　次期実行委員長
　○諸連絡
10：40　（休　息）
11：00　◇研修Ⅰ
　講演『いま、日本を読む』
　講師　佐高　　信　氏
12：25　◇昼食・休憩
13：30　◇研修Ⅱ
　分科会協議
16：00　◇閉　会

講　演

演題
「いま、日本を読む」

講師　佐高　　信　氏

佐高でございます。ご紹介いただきましたように酒田の生まれで、山形以外で講演する時には「酒田の佐高です。」とか、訳の分からない紹介で始めるんですけれども。今日は校長会ということですね。私のような人間を育てた方が良いのか悪いのか、そのへんの基本的な問題もあるかと思いますが。

私が酒田東高時代に、佐藤善一先生という忘れられない恩師に巡り合いました。鶴岡南高の校長から酒田の教育委員長もやられた先生で、もうお亡くなりになりましたけれども。その先生の所に、大学時代とかしょっちゅう出入りしていたんです。その先生のことを思う時にいつも、物事が見えるということはどういうことなのかということを考えました。どういうことかといいますと、大学に入って帰って来ると先生の家に行くわけです。正に座っている後ろが全部本棚みたいな感じの先生だったんです。そうすると、最初は「たくさん本があるな。」、「すごい量だな。」と“量”しか見えないんですよね。ところが、自分がいろいろと本を読んでいく間に、ただ“量”としてしか見えていなかった本棚の本が、自分が読んだ本なら「あっ、この本があるのか。」と、つまり、“本”という一群の中にその一冊が違って見えてくる。一冊が取り出されるわけですよね。そして、その本の隣にある本、先生がこの本の隣にこの本を置いているのかと。自分がいろんな本を読んでいくうちに、その本の見え方というのが違ってくるわけですね。「単なる本棚」、「ざっと本が並んでいる」ということだったのが、そうではなくて本当に本が立体的に浮き上がってくるというか、自分なりにある本を読んで、もちろんその先生の話の中にもいろんな本が出てくるわけですけれども、そういうなかで“本棚”というのは単なる“本棚”ではなくなっていく。

そしてまた、その佐藤善一という先生と本との関係も見えてくる。最初、先生が持っている本のほとんどを読んでいなかった時には見えなかったものが見えてくるということですよね。そうすると、眼鏡を掛けているようなもので、それなりの自分なりの見方の眼鏡というのは、そしてまた段々と合わなくなっていけばそれも変えなければならない。だから物事が見えるとか見えないということは、自分なりの視力というものと関わって違って見えてくるんだなということを、その本棚の風景というものが物事の見える・見えないということと関わって思い出されてくるわけです。

私の友達でアメリカの大学に留学した男がいまして、その子ども達が向こうの学校に入るわけですね。日本の学校とちょっと違うんだなと思ったのは、「今日学校で作文を書かされた。」と、子ども達が帰ってきて父親に言ったというんですね。作文の題は「I'm different」という「私は他の人とここが違います」というのを書けと言われたと。例えば、髪の毛の色が違うとか、瞳の色が違うとか、いろんな違いがある。あるいは性格が違うとか、いろんな違いがありますけれども、ともかく「I'm different」他の人とここが違うということを書けと言われた。それを聞いた時に私は、日本の学校だけでなくて日本の社会といってもいいと思いますけれども、「I'm different」という方向ではなくて、どちらかというと「different」を消す方向で教育がなされてきたのではないかと。他の人と違わないようにというのがよく出てくる言葉ですよね。他の人と違わないよう

第68回 山形県連合小学校長会研究協議会

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
～誇りと志を胸に ともに夢に向かう いのち輝く子どもを育てる学校経営～

＜開会の挨拶：池田公夫実行委員長＞　＜会長挨拶：荒澤　賢雄会長＞　＜ご来賓の皆様＞

＜高木祐治幹事長＞　＜国歌・県民歌斉唱＞　＜ご来賓挨拶：中井義時教育次長＞　＜次期西村山：板坂先生＞

＜研　修　Ⅰ＞　講 演 「いま、日本を読む」　講 師：佐 高 信 氏：酒田市出身

午後からは　＜ 研 修 Ⅱ 分科会 ＞

第６分科会

第１分科会

第９分科会

第２分科会

第４分科会

第３分科会

第１分科会

第10分科会

第７分科会

第８分科会

社会・情報　山　形
2014年（平成26年）6月14日（土曜日）

県内の小学校長が研修に臨んだ研究協議会
＝山形市・山形国際交流プラザ

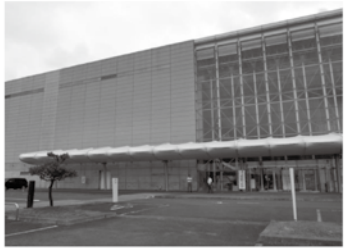
児童の健全育成 学校運営に意見

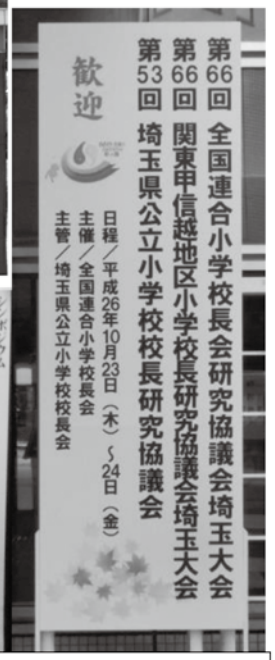
県連合小学校長会協

県連合小学校長会研究協議会（会長・荒沢賢雄山形一小校長）が13日、山形市の山形国際交流プラザで開かれ、県内の小学校長約260人が学校運営や児童の健全育成などについて意見を交わした。

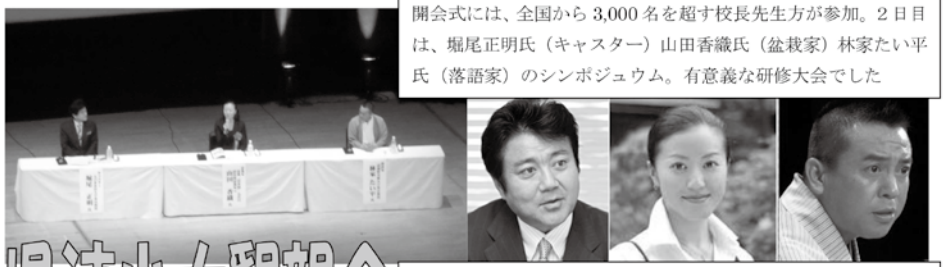
年1回の研修の場で、こちらで68回目。全体会では荒沢会長があいさつし、国の教育改革や学校現場で起きている諸問題に触れながら「県民の負託と信頼に応える確かな学校経営を推進していきたい」と強調した。安全で安心できる教育環境づくりと子どもに向き合う教育の充実などを掲げた大会宣言も発表した。

終了後、酒田市出身の評論家佐高信さんが講演。地域との連携やいじめ撲滅のための取り組みなどをテーマにした分科会も開いた。





開会式には、全国から 3,000 名を超す校長先生方が参加。２日目は、堀尾正明氏（キャスター）山田香織氏（盆栽家）林家たい平氏（落語家）のシンポジュウム。有意義な研修大会でした

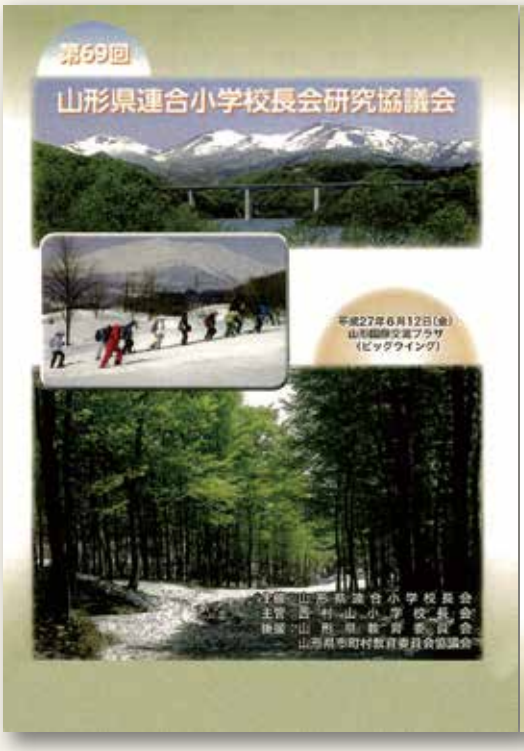


与野第一ホテルのレストランを「貸し切り」にして、県内２８名の校長先生方と、大いに酒を酌み交わしました。お疲れ様でした。

県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
高木祐治	260	43	50

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
西村山地区　担当	福島県 会津若松	山　口

平成27年度
2015



山形県連小会報

第 142 号
発行日　平成27年５月31日
発行者　山形県連合小学校長会
高木祐治
山形市木の実町12－37
県教育会館(大手門パルズ)

県連小　第１回理事会報告

組織改革から実行に移す年

今年度第１回目の理事会が４月24日（金）、大手門パルズで開催されました。新年度の方針、組織、運営について活発な協議がなされました。本号では、新会長、新副会長のご挨拶、理事研修会の内容、県教育委員会の講話等についてお知らせいたします。

髙木祐治新会長あいさつ

重責ではありますが、県連小の会員の一人として、役割分担の一つを受け持つ気持ちで精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「山形県連合小学校長会」は、山形県内全て260人の小学校校長、また、県内11地区に組織されている地区校長会の連合体として存在しております。会員である一人一人の校長が、その職責をよりよく果たせるようにすることを目的とした組織であり、自らの意志で研鑽を積むために集い、力を合わせていくことが、各学校経営の充実と県の小学校教育の振興につながるものと思います。諸課題に対する共通理解を図り、進むべき方向性を定め、協力し合いながら課題解決に努めたいものです。

今年度の県連小の課題を３点申し上げます。

１点目は、組織改革の実行の年であることです。昨年度より県連小として重視すべき点を確認し、組織改革を進めてまいりました。確認した点は、小中連携して教育諸条件の整備推進に向う対策活動の継続。全連小・東北連小と結びつき、校長の研修の機会となる県連小研究協議会の充実。そして、生徒指導上の課題に、小中連携した組織的な対応を行うことです。そこで、今年度は、新たに「対策委員会」「研修委員会」「生徒指導委員会」の３専門委員会としました。また、学校経営上の喫緊の課題について理事会で検討し、内容に応じていずれか１つの専門委員会に調査研究とまとめを依頼し、その結果を受け、県連小内と関係諸機関に提言として発信することを確認しました。

２点目は、平成29年度に予定されている東北連合小学校長会研究協議会山形大会へ向けた準備についてです。昨年度４月に準備委員会を立ち上げ、10月に実行委員会を開催し、山形・上山・東村山地区を主管地区として、準備が進んでおります。１月には第１回事務局会を開催し、各担当の部局で具体的に準備が始まりました。開催まで後２年となりますので、主管地区を中心とした運営面の準備はもとより、各地区でも研究発表への準備等、よろしくお願いいたします。また、本年度中に平成30年度からの県連小研究協議会の方向性を定めていきたいと考えております。

３点目は、県費負担教職員の人事評価についてです。地方公務員法の改正により「能力評価」、「業績評価」の両面から評価し、処遇への反映が28年度より始まります。今後、評価方法についての理解と共に、その在り方について注視していく必要があると思います。また、処遇にどのように反映するかは、多方面から意見をいただいてという方向のようですので、各地区校長会の意見をいただきながら、機会ある毎に県連小としての意見を伝えていきたいと思います。

課題解決に向けて、各地区校長会と会員の校長先生方のご理解とご協力を改めてお願い申し上げ、挨拶といたします。

平成２７年度　山形県連合小学校長会　役員一覧

(0424)

会長	高木 祐治（山形二）	023-622-0652
副会長	淡間 淳一（山形十） 前地 宏哉(寒河江) 高野 博(新 庄)	
	辻 雅人（米沢南部） 本田 淳(朝暘一)	
監事	吉田 康之(宮 川) 犬石 秀実(相 模) 五十嵐 健(尾花沢)	

事務局　〒990-0044
山形市木の実町12-37 県教育会館(大手門パルズ 4F)
Tel 023-634-8555　Fax 023-632-5748
E-mail：y-kren@atlas.plala.or.jp
事務局長：後藤 一昭

地区	役名	理事（◎地区代表）	対策委員	生徒指導委員	研修委員
1	山形 37	◎淡間 淳一（山形十）023-643-4102 松澤 哲（米 沢）023-688-2420	大宮 英俊（東 ）023-642-5259	柴田 公利（高 瀬）023-686-2264	齋藤 昭憲（南 ）023-632-3660
2	上山 5	◎三條 義昭（上山南）023-673-3131	金原 克之（上 山）023-672-1400	藤原 由美（中 川）023-679-2234	岡村 康（西郷一 ）023-672-1404
3	東村山 18	◎山澤 勉（長 岡）023-655-2059	武田 喜美男（天童中部）023-654-2301	山本 正博（大 寺）023-664-5100	浦山 健一（長 崎）023-662-2226
4	西村山 22	◎前地 宏哉（寒河江）0237-86-4235 児玉 康子（谷地中部）0237-71-1104	柏倉 正嗣（谷地西部）0237-71-1108	奥山 淳一（大 谷）0237-68-2011	武田 幸一（南 部）0237-86-2443
5	北村山 26	◎元木 正史（東 根）0237-42-1200	井上 博人（長 瀞）0237-42-0321	横尾 祐一（上 桜）0237-28-2118	青山 博文（大石田南）0237-35-5147
6	最上 23	◎高野 博（新 庄）0233-22-4067 伊東 守（日 新）0233-22-0497	永井 康博（月 楯）0233-43-2597	門脇 潤（真室川北部）0233-55-2821	長南 完治（鮭 川）0233-55-2607
7	米沢 18	◎辻 雅人（南 部）0238-22-8044 樋口 哲弘（西 部）0238-22-8068	神保 雅寿（三沢西部）0238-31-2113	神尾 正俊（愛 宕）0238-24-4000	土屋 宏（興 譲）0238-22-8040
8	東置賜 21	◎島津 正道（高 畠）0238-52-1050	山口 勲（大 塚）0238-52-4722	長濱 洋美（赤 湯）0238-43-2069	小林 孝（犬 川）0238-42-2674
9	西置賜 16	◎鈴木 雄次（荒 砥）0238-85-2267	牛澤 敏宏（平 野）0238-88-2704	向田 聡（鮎 貝）0238-85-2030	遠藤 倫夫（長 井）0238-84-1701
10	田川 43	◎本田 淳（朝暘一）0235-22-0441 五十嵐 良克（押 切）0235-66-2421	富樫 均（大 山）0235 -33-2570	阿部 真一（余目三）0234-43-2619	齋藤 直英（余目二）0234-43-2618
11	飽海 31	◎小松 恒彦（ 泉 ）0234-26-3206	松本 克則（遊 佐）0234-22-9731	阿彦 裕光（宮野浦）0234-31-2287	常原 慎一郎（一 條）0234-64-2031
担当理事			池田 友子（村木沢）0233-643-2240	大沼 篤（楯 山）0233-686-2006	田所 昭裕（明 治）0233-681-8473
	幹事長	田中 利幸（南沼原）023-643-3010	日高 伸哉（山附小）023-641-4444	最上 博之（山形九）023-681-3600	高橋 禎（山形一）023-622-0651
	会計	最上 博之（山形九）023-681-3600			
	幹事	会員数 260			

平成２７年度　**山形県連合小学校長会年間計画**　8 -(5)-ア

山形県連合小学校長会 ℡:023-634-8555 FAX: 023-632-5748 y-kren@atlas.plala.or.j

月	山形県連小関係 理事会・会長会・幹事会等 (◆宿泊、♠小・中合同委員会)	専門委員会 対策	研修	生指	H29山形大会事務局会	東北連小関係	全連小関係
4	3(金)幹事会議① 9(木) 会計監査　・16(木)幹事会議② 24(金) 第1回理事会 30(木)♠小中合同対策幹事会①	4回	4回	4回	② 16 (木)	30(木)山形県公立学校長会予定	
5	7(木)♠小中合同対策委員会① 11(月)西村山地区事前打合会（ビッグウィング） 14(木)幹事会議③ 29(金)　◎県連小会報 第142号	① 7 (木)	① 1 (金)	① 19 (火)		◆15(金) 第1回理事会 〃　事務担当者会 (福島グリーンパレス)	◆21(木)第220回 理事会 （KKRホテル東京） 22(金) 第67回総会 東京・ニッショーホール
6	12(金) 第69回県連小研究協議会 (西村山地区担当) 於：山形ビッグウイング 16(火)♠小中合同対策幹事会②午後				③ 25 (木)	10(水) 第1回教育課程委員会 (コラッセふくしま)	1(月)　事務担当者会 (KKRHT) 9(火)　合同部会・合同委員会 （KKRホテル東京） 30(火)広報担当者会 （KKRホテル東京）
7	※7(火)県小中教育研究会理事会 15(水)♠小中合同対策委員会②　※於ゆさ 15(水)♠　〃　対策小委員会/幹事会③	② 17 (金)	② 31 (金)			2(木)第2回理事会（午前） ◆2～3（木・金）第55回 東北連小研究協議会福島大会 会津若松市:会津風雅堂/東山温泉他	◆9(木)役員懇談会―東海大校友会館 10(金)第1回会長会 （KKRホテル東京）
8	5(水)午前：幹事会議④ 5(水)午後：♠経営懇談会 28(金)第2回　理事会　山形 (研究協議会事務引継会)	③ 5 (水)		＊午後 ② 7 (金)	④ 6 (木)		7/25-7/31 海外教育事情視察 (ニュージーランド)
9	1(火) ◎会報：研究協議会特集号 11(金)♠「お願い」提出　山形						25(金) 対策・調研合同会議 （KKRホテル東京）
10	1(水)　◎県連小会報　第143号 30(金)　幹事会⑤		③ 6 (火)	③ 8 (木)	⑤ 15 (木)	7(水) 第2回教育課程委員会 (コラッセふくしま)	21(水)第221回理事会(ホテルかめ福) ◆22・23(木・金) 第67回全連小 研究協議会『山口大会』 山口県スポーツ文化センター （アリーナ）
11	6（金)♠午後　経営学習会 20（金）地区会長会① 於：山形国際ホテル	④ 6 (金)					26(木)第2回会長会 （KKRホテル東京）
12			④ 1 (火)	④ 8 (火)		3(木)第1回対策委員会 (コラッセふくしま)	
1	14(木)幹事会議⑥ 21(木)♠小中合同対策幹事会④				⑥ 14 (木)		
2	9(火)幹事会議⑦ ◆25・26(木・金)第３回理事会 於：ヒルズサンピア山形				⑦ 18 (木)	5(金)第３回理事会・引継会 (コラッセふくしま)	2(火)各種委員会報告会 16(火)～17(水)◆第222回理事会 （KKRホテル東京）
3	14(月)◎県連小会報 第144号 24(木)幹事会議⑧					2(水)会計監査 (福島県小学校長会事務局)	

<※県連小の主会議場は大手門パルズ>

平成２７年度 各地区学校数

7-(1)

	地区名	平成２６年度 学校数 独立校	併設小本務校	併設中本務校	合計	平成２７年度の学校数 独立校	併設小本務校	併設中本務校	小中一貫校(中本務)	合計	
1	山形	35	1	1	37	35	1	1		37	
2	上山	6	0	0	6	5	0	0		5	※
3	東村山	17	0	1	18	17	0	1		18	
4	西村山	22	0	0	22	22	0	0		22	
5	北村山	26	0	0	26	26	0	0		26	
6	最上	25	0	0	25	22	0	0	1	23	※
7	米沢	18	0	0	18	18	0	0		18	
8	東置賜	21	0	0	21	21	0	0		21	
9	西置賜	16	0	1	17	15	0	1		16	※
10	田川	45	0	0	45	43	0	0		43	※
11	飽海	30	1	0	31	30	1	0		31	
	合計	261	2	3	266	254	2	3	1	260	−6

◎平成２７年４月より

No.2　上山市立西郷第二小学校 ――→ 上山市立南小学校に統合

No.6　新庄市立泉田小学校／新庄市立萩野小学校／新庄市立昭和小学校　３校統合し → 新庄市立萩野小学校として開校
※施設一体型の小中一貫校の予定。
総称：萩野学園（校長は１名、中学校籍）

No. 9　白鷹町立鷹山小学校 ――→ 白鷹町立荒砥小学校に統合

No.10　鶴岡市立三瀬小学校／鶴岡市立小堅小学校／鶴岡市立由良小学校　３校統合し → (新) 鶴岡市立豊浦小学校

※ No. 7　米沢市立上郷小学校浅川分校閉校→ 児童は本校へ。下記に山形新聞(H27.2.15)談話室を掲載。

〈2015年２月15日〉　（山形新聞　H27.2.15.(日)）

談話室

▼▽米沢市内の小学3年生が20年余り前、こんな詩を書いた。「教室は小さいけど、分校は大きい。」と謳い「ちっぽけでは、ないんだ。いろいろできるから、分校は、大きいんだ。浅川分校は、大きいんだ。」と締める。

▼▽上郷小浅川分校。米沢の北東に1873（明治6）年、浅川小として誕生し後に分教場となった。創立120年を記念し、この詩を含む文集「あさ川っ子」ができた1993年には、1～3年生41人がいた。現在は半分の20人。春に本校と統合し、141年の歴史を閉じる。

▼▽本紙月曜付地域面「わが心の学校」にもさまざまな思い出が載った。「みんなが家族みたいな雰囲気だった。閉校式では涙が止まらなかった」（金山小谷口分校）、「文化の拠点であり、憩いの場だった」（山形・高瀬小合の原分校）。かつての学舎に寄せる愛惜の念が迫る。

▼▽2年前、児童福祉施設・県立朝日学園（大江町）にできた藤田の丘分校を除いて、地域と共に歩んだ小学校の分校は県内から姿を消す。閉校式や記念誌の準備に励んでいるという浅川っ子たち。心に宿した分校の火種が、大きな灯となって行く手を照らしてくれますように。

山形県連小 会報

特集号
発行日　平成27年８月28日
発行者　山形県連合小学校長会
高木祐治
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第69回 山形県連合小学校長会研究協議会開催される

大会日程

（６月12日㈮　山形市　国際交流プラザ）

9：30　◇受　付
10：00　◇全体会
○役員紹介
1　開会のあいさつ
菊地　宏哉　実行委員長
2　国歌・県民歌斉唱
3　会長あいさつ
髙木　祐治　会長
4　来賓あいさつ
山形県教育委員会教育長
菅野　滋　様
5　来賓紹介
田中　利幸　幹事長
6　大会宣言
齋藤　昭憲　研修委員長
7　閉会のあいさつ
鈴木　雄次　次期実行委員長
○諸連絡
10：40　（休　息）
10：55　◇研修Ⅰ
講演『人間性豊かな社会を築く
オペラ的な生き方』
講師　熊谷　眞一　氏（大江町出身）
12：15　◇昼食・休憩
13：20　◇研修Ⅱ
分科会協議
16：00　◇閉　会

講　演

演題

「人間性豊かな社会を築く　オペラ的な生き方」

講師　熊谷眞一　氏

演題を「人間性豊かな社会を築く　オペラ的な生き方」としました。何か皆さんの心に触れる話ができればと思っております。

これまでの日本。つまり先の戦争が終わってからの70年というのは高度経済成長、所謂「坂の上の雲」を目指して進んできたわけです。その時は高収入に裏打ちされた地位や名誉を目指して、もっと教育に照らせばそれを達成する、より高い偏差値を目標に効率的に覚えることが良いとされてきたようです。その流れは今以て基本的には変わってはいないわけです。

人間の記憶は、パソコンには敵わない。そんなことは解りきっているにも拘わらず、相変わらずテストのための覚える教育に終始しているというのが残念ながら現状ではないかと思います。

しかし、おおよそ20年前に坂の上に立ったところが、その雲は白い雲ではなく黒い雨雲で、しかも一面霧の中。視界はゼロに等しいという状況に今あるわけです。ですから、その反対側にあるこれからの日本がどこを目指していくかと考えた時に、願わくば成熟社会に向かって周りの景色を見渡しながら、鳥の声を聞き、風のそよぎを感じ、草原に目を休ませゆっくりと下って行く為の方法を今急いで学ばなければいけないという局面にあることは疑いの余地もありません。

しかし、そうしたことは教科書にもマニュアルにもないんですね。今日では課題は自分で見つけるもの、そこからスタートするわけです。生徒自らがその課題を自分の頭で考えていろんな人の意見を聞き、取り込んだ多くの情報をその人なりの知恵に置き換えて、自分がすべきことを見つけ、それをやっていくという時代が正に今であります。これまで誰も体験したことのない時代にあって、私は何と言っても一番大事なのは、小学校の教育ではないかと思います。私たちの孫、子ども達にこれからの日本を委ねるしかないわけです。しかし、残された時間の中でその責任を果たすことが非常に難しいなとしみじみと感じています。少なくとも彼等を戦場に送ることだけは絶対にやりたくないと思うわけです。私は井上ひさしという方の弟子の一人です。やはり、今の日本の状況を見るにつけ心配で仕方ありません。私は、いろんな先生方の教えをいただきました。高校時代に鈴木重雄先生という方が担任で、その先生は「君達、大事なものが２つあるよ。一つは邪悪に対する心の清さ、もう一つは正義に対する判断力。」この２つの標語によって私はある種人間を創ってきたと思えるのです。

私は典型的な塩梅の世界、アナログの世界に生きています。例えば料理の世界は幾つかの素材の組合せなんです。一つの食材だけで食べたのではそれほどのものでない。ところがそこに補助線を引くんです。その補助線でもって料理というものは誕生するわけです。国の政治もある意味では教育も料理の一つで、この補助線を引くという作業は実は教わっていないのです。私達が教わったのは分析するということで、それぞれに補助線を引くという方法は誰も教えてくれなかった。つまり、こういう多様性というか、これが教育の中では非常に大事なんですが、私達が小学生の頃より今の小学生の方が多様性がないように思えて仕方ありません。私達の時には、年

H27.6.12.西村山担当
高木拓治会長挨拶
講演会講師：熊谷眞一氏
進行：田中利幸副会長
第1分科会
第2分科会
大会議室

第3分科会

第4分科会

第5分科会

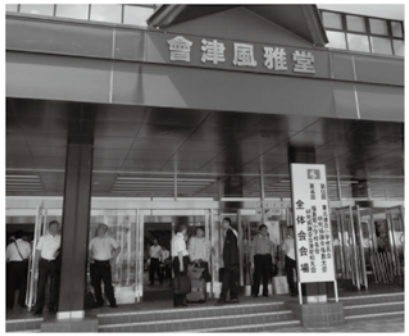
第6分科会

第7分科会

第8分科会

第9分科会

第10分科会



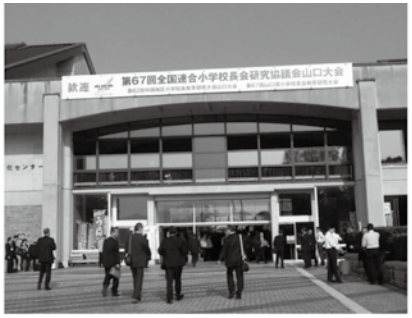
第５５回東北連小福島大会（会津若松市）開会行事：平成２７年７月２日（木）

＜記念講演・対談（「ならぬことはならぬ、今に生きる会津藩教育」　野口信一氏、松尾しより氏）＞

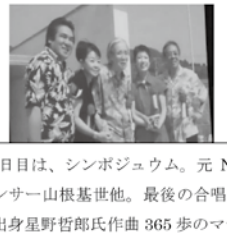
山形県内参加者全員１３０名による大懇親会
東山グランドホテル：7/2:木

＜7/3 金：閉会行事：　高木祐治・田中利幸理事＞

前夜(7/1:水)レセプションの様子：美味い地酒が３２本！ →平成２９年の山形大会に向けて、準備を進めています。



全連小山口大会（全体会場：山口市維新アリーナ）：湯田温泉ホテル喜良久に宿泊して、県連小 27 名の校長先生方が参加・研修を重ねました。懇親会は、ホテル「かめ福」にて、大いに懇親と研修を深めました。

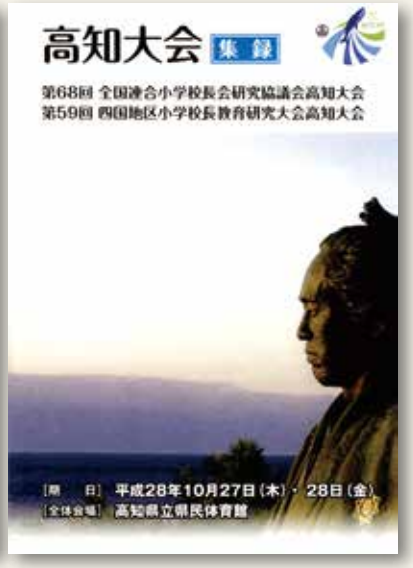


大会 2 日目は、シンポジュウム。元 NHK アナウンサー山根基世他。最後の合唱曲は周防町出身星野哲郎氏作曲 365 歩のマーチ

県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
田中利幸	254	48	45

研　究　協　議　会		
県　大　会	東北大会	全国大会
西置賜地区　担当	岩手県 盛岡市	高　知

平成28年度
2016



平成２８年度　　山形県連合小学校長会　　役　員　一　覧

会　長	田中　利幸（山形四）	023-623-6019
副会長	黒木　佳昭（山形八）　菊地　宏哉(寒河江)　高野　博(新　庄)	
	長濱　洋美（赤　湯）　松本　克則(琢　成)	
監　事	岡村　廣（上山南）　國井 由紀子(津山)　森山　仁（鶴子）	

事務局　〒990-0044
山形市木の実町12-37 県教育会館(大手門パルズ 4F)
Tel 023-634-8555　Fax 023-632-5748
E-mail : y-kren@atlas.plala.or.jp
事務局長 : 後藤　一昭

役名 / 地区	理　事	対策委員	生徒指導委員	研修委員
1 山形 37	黒木　佳昭（山形八）023-631-2140	加藤　昌宏（蔵王二）023-688-2565	渡辺　修（桜　田）023-624-5083	村上　宏幸（みはらしの丘）023-689-0181
2 上山 5	吉田　康之（宮　川）023-674-2816	丹野　芳弘（上　山）023-672-1400	籐原　由美（中　川）023-679-2234	須田　浩二（西郷一）023-672-1404
3 東村山 18	青柳由起子（山　口）023-656-2410	大谷　敦司（天童南部）023-654-1750	柏倉　充（千　布）023-654-2307	四釜　禎（蔵　増）023-654-2304
4 西村山 22	菊地　宏哉（寒河江）0237-86-4235	伊藤　順一（左　沢）0237-62-3273	村上　雄一（柴　橋）0237-86-2445	渡辺　聡（三　泉）0237-86-2451
5 北村山 25	細梅　雅弘(楯　岡）0237-55-2411	榎本　慎一（大　森）0237-48-3500	横尾　祐一（玉　野）0237-28-2113	青沼　敦子（富　本）0237-54-2102
6 最上 23	高野　博（新　庄）0233-22-4067	八鍬　利夫（有　屋）0233-52-2038	門脇　潤（真室川北部）0233-65-2821	笠原　正二（大　蔵）0233-75-2210
7 米沢 18	遠藤　誠（東　部）0238-22-8047	山崎　公彦（窪　田）0238-37-5274	大池　清人（万　世）0238-28-5404	情野　正（上　郷）0238-28-3409
8 東置賜 21	長濱　洋美（赤　湯）0238-43-2069	青山　雄二（玉　庭）0238-48-2030	山口　義宏（中　郡）0238-42-3616	淀野　秀樹（梨　郷）0238-47-4331
9 西置賜 16	遠藤　倫夫（長　井）0238-84-1701	舟山　良美（西　根）0238-84-1705	向田　聡（鮎　貝）0238-85-2030	竹田　俊章（手ノ子）0238-75-2644
10 田川 38	本田　淳（朝暘一）0235-22-0441	岡崎　津（黄　金）0235 -22-5742	阿部　真一（余目三）0234-43-2619	五十嵐 芳昭（鼠ヶ関）0235-44-2128
11 飽海 31	松本　克則（琢　成）0234-22-9731	大谷　智之（亀ヶ崎）0234-22-0455	阿彦　裕光（宮野浦）0234-31-2287	菅原　慎一郎（一　條）0234-64-2031
担当理事			細梅　雅弘(楯　岡）0237-55-2411	青柳 由起子（山　口）023-656-2410
幹事	幹事長 高橋　禎（山形一）023-622-0651	日高　伸哉（山附小）023-641-4444	遠藤　光男（出　羽）023-684-7321	田所　昭裕（明　治）023-681-8473
会員数 254	会　計 大沼　篤（楯　山）023-686-2006	瀧浪　敦（南山形）023-688-2400	大沼　篤（楯　山）023-686-2006	小松　和彦（東　沢）023-629-2119

平成28年5月31日　　山形県連小会報　　第145号　(1)

山形県連小会報

第145号
発行日　平成28年5月31日
発行者　山形県連合小学校長会
田中利幸
山形市木の実町12-37
県教育会館(大手門パルズ)

県連小　第１回理事会報告

共に学び合い 経営力を高める校長会に

今年度第１回目の理事会が４月22日（金）、大手門パルズで開催されました。新年度の方針、組織、運営について活発な協議がなされました。本号では、新会長、新副会長のご挨拶、理事研修会の内容、県教育委員会からの御指導等についてお知らせいたします。

田中利幸新会長あいさつ

高木祐治前会長には、会員数の減少を受け、多忙化の軽減と予算確保を視野に、会議のスリム化など運用面の見直しを行っていただきました。後任者として役割の重さを十分認識し、精一杯努めますので、よろしくお願いいたします。

山形県連合小学校長会は、山形県内各市町村、また県内11地区に組織されている各地区校長会の連合体として存在しており、それぞれに伝統や文化、受け継いでおられる考え方があります。会員の減少が進む中、その違いをよさとして考えを出し合い、力を合わせていくことが、各学校経営の充実と県の小学校教育の振興につながるものと考えます。

昨年12月、中教審は「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と題する答申を提出し、「教員は学校で育つ」との考えの下、「学び続ける教員像」を掲げています。学習指導要領の改訂など新たな教育課題に対応してのリーダーシップやマネジメント力を磨くためには、私たち校長も学び続けなければなりません。自らの意志で研鑽を積むために集い、情報交換を通して進むべき方向性を探る。「校長は県連小で育つ」と言えるよう、学び続ける校長を支える県連小でありたいと考えています。そこで、今年度の県連小の課題を３点申し上げます。

１点目は、専門委員会を中核とした活動の充実です。「喫緊の課題への組織的な対応力」と「発信する県連小」を目指しての組織改編を受け、対策、研修、生徒指導という新たな枠組みでスタートしました。新しい方針での調査研究の委託を受け、生徒指導委員会が行ってくださったネット接続機器使用についての提言をどう浸透していくかなど、取り組むべきことを取捨選択し、それぞれの専門委員会活動の充実を図ることが、課題であると考えます。

２点目は、来年度開催する第57回東北連小研究協議会山形大会に向けた準備です。２年前に県実行委員会を立ち上げ、山形地区、上山地区、東村山地区を主管地区として準備を進めてきました。昨年度は、担当各地区の代表者から成る事務局会を６回開催し、年度途中からより小回りの利く組織として正副部長会を立ち上げました。特に天童地区の校長先生方はじめ研究部の方々が、各分科会の趣旨文を何度も見直し充実したものにしてくださいました。いよいよ、開催まであと１年となりましたので、運営面の準備はもとより、各地区におかれまして、各分科会での研究発表への準備も、よろしくお願いいたします。

３点目は、第70回県連小研究協議会の充実です。今年度は、西置賜地区が主管くださり、16名という少ない会員数で準備を進めてくださっています。学び続ける機会の大切さを認識し研修を深めることが、担当くださっている地区の方々の労苦に報いる、最大の成果だと考えます。

課題解決に向け県連小という組織の凝集性を高められるよう、各地区校長会と会員の校長先生方のご理解とご協力をお願い申し上げ、挨拶といたします。

山形県連小会報

特集号
発行日　平成28年８月28日
発行者　山形県連合小学校長会
田中利幸
山形市木の実町12－37
県教育会館（大手門パルズ）

第70回 山形県連合小学校長会研究協議会開催される

大会日程

（６月10日㈮　山形市　国際交流プラザ）

9：30　◇受　付
10：00　◇全体会
○役員紹介
1　開会のあいさつ
遠藤　倫夫　実行委員長
2　国歌・県民歌斉唱
3　会長あいさつ
田中　利幸　会長
4　来賓あいさつ
山形県教育委員会教育長
廣瀬　渉　様
5　来賓紹介
髙橋　禎　幹事長
6　大会宣言
村上　宏幸　研修委員長
7　閉会のあいさつ
黒木　佳昭　H29年度実行委員長
高野　博　H30年度実行委員長
○諸連絡
10：40　（休　息）
10：55　◇研修Ⅰ
講演「目は世界に　心はふるさと
―次の世代に何を伝えるか」
講師　田勢　康弘　氏（ジャーナリスト）
12：30　◇昼食・休憩
13：30　◇研修Ⅱ
分科会
16：00　◇閉　会

講　演

演題
「目を世界に 心はふるさと ― 次の世代に何を伝えるか」

講師：ジャーナリスト　**田勢康弘氏**

プロフィール

1944年中国黒龍江省黒河で生まれる。西置賜郡白鷹町出身。

中学１年の３学期、父親の死にともない青森県から父母の出身地白鷹町へ移り、荒砥中学校（当時）に３か月在籍。以来、ずっと白鷹町出身と称している。

早稲田大学政治経済学部政治学科卒。日本経済新聞社で42年間、政治担当の記者、編集委員、論説委員、コラムニストをつとめる。

途中、ワシントン支局長。2006年から４年間、早稲田大学教授。それ以前に東大講師、米国ハーバード大学上席研究員。2008年から８年間ＴＶ東京系列で報道番組「田勢康弘の週刊ニュース新書」キャスター。

現在、ジャーナリスト、田勢康弘事務所代表、一般社団法人「心を伝える歌の木を植えよう会」代表、「日中ジャーナリスト会議」日本側 座長。

代表的著書に「政治ジャーナリズムの罪と罰」、「島倉千代子という人生」（ともに新潮社）、「総理の演説」（バジリコ社）等。

開会の挨拶

閉会の挨拶

第１分科会

第２分科会

第３分科会

第４分科会

第５分科会

第６分科会

第７分科会

第８分科会

第９分科会

第10分科会

平成２８年度　山形県連合小学校長会年間計画

山形県連合小学校長会 TEL:023-634-8555 FAX: 023-632-5748 y-kren@atlas.plala.or.jp

月	山形県連小関係 理事会・会長会・幹事会等 (◆宿泊、♠小・中合同委員会)	専門委員会 対策	専門委員会 研修	専門委員会 生指	1129 山形大会事務局会	東北連小関係	全連小関係	県中・教頭会 他団体その他
4	5(火)会計監査・幹事会議① 14(木)幹事会議② 22(金) 第１回 理事会 26(火)♠小中合同対策幹事会①	4回	4回 ① 27 (水)	4回	臨時正副部長会 14 (木)			1(金)辞令交付式 21(木)県中理事会①
5	9(月)西置賜事前打合会（BW）午前 9(月)♠小中合同対策委員会①午後 10(火)幹事会議③ 31(火)◎県連小会報 第145号	① 9 (月)		① 17 (火)	正副部長会 ③ 26 (木)	20(金)◆ 第1回理事会 〃　事務担当者会 (盛岡市：メトロポリタン盛岡)	24(火)◆ 第223回 理事会 (KKRホテル東京) 25(水)第６８回総会 東京・ニッショーホール	10(木)県教頭会理事会
6	10(金)第70回県連小研究協議会 (西置賜地区担当) 於：山形ビッグウイング 23(木)♠小中合同対策幹事会②				⑨ 23 (木)	8(水)第1回教育課程委員会 (盛岡市)	1(水)事務担当者会（KKRHT） 7(火)合同部会/合同委員会 (KKRホテル東京)	3(金)県中理事会② 〃　県中研究協議会
7	13(水)♠小中合同対策委員会② 13(水)♠〃対策小委員会/幹事会③ 於：悠湯の郷 ゆさ	② 13 (水)	② 29 (金)		正副部長会 ④ 28 (木)	6(木)第2回理事会（メトロ盛岡） ◆７～８(木/金)第56回 東北連小研究協議会岩手大会 (盛岡市民文化ホール/盛岡駅周辺)	1(金)広報担当者会　（KKRHT） 11(月)◆ 役員懇談会-東海大会館 12(火)第1回会長会 (KKRホテル東京)	教研理事評議員会 22～25 県中総体夏季大会
8	5(金) 幹事会議④（午前） 5(金) 経営懇談会（午後） 26(金) 第２回　理事会 (研究協議会事務引継会(◇)	③ 5 (金)		♠午後 ② 9 (火)	⑩ 4 (木)		7/30-8/5 海外教育事情視察 (ニュージーランド)	
9	1(木)◎会報：研究協議会特集号 9(金)♠「お願い」提出　山形 20(火)山形大会3地区合同打合会				⑪ 20 (火)		27(火)対策・調研合同会議 (KKRホテル東京)	9～10 県中駅伝大会
10	1(土)　◎県連小会報　第146号		③ 4 (火)	③ 6 (木)		12(水)第2回教育課程委員会 12(水)第１回対策委員会 (盛岡市)	26(水)第224回理事会 ◆27～28(木/金) 第68回 全連小研究協議会高知大会 (高知県民体育館)	13(木)県小中教頭会研究大会 15(土)県中新人戦 20～21 全中/東北中 研究協議会宮城大会
11	2(水)幹事会⑤ 4(金) 経営学習会 18(金) 第3回　理事会（◇） 於：山形国際ホテル	④ 4 (金)			正副部長会 ⑤ 22 (火)		29(火)第2回会長会 (KKRホテル東京)	15(火)県中理事会③
12			④ 1 (木)	④ 8 (木)	⑫ 20 (火)			
1	13(金)幹事会議⑥ 19(木)♠小中合同対策幹事会④				正副部長会 ⑥ 12 (木)			20 全中理事会
2	10(金)幹事会議⑦ 24(金) 第４回　理事会（◇） 於：ホテルメトロポリタン山形				⑬ 21 (火)	3(金)第３回理事会・引継会 (メトロポリタン盛岡)	2(木)各種委員会報告会 16(木)～17(金)（KKRホテル東京） ◆第225回理事会	8(水)県教頭会理事会 14(火)県中理事会④
3	13(月)◎県連小会報 第147号 24(金)幹事会議⑧				正副部長会 ⑦ 9 (木)	6(月) 会計監査（盛岡市）	7(火) 全連小常任理事会	

＜※県連小の主会議場は大手門パルズ＞

第70回県連小研究協議会(H28.6/10)

＜田中利幸県連小会長の挨拶＞　＜高橋禎幹事長来賓紹介＞　阿部善和教育次長挨拶＆来賓の皆様

開会：遠藤実行委員長　＜Ｈ２８県連小役員＞　閉会：黒木 ＆ 高野　副会長　講演：田勢康弘氏

教育改革踏まえ
児童の育成に力
県連合小学校長会
・田中利幸山形西小校長
の第70回研究協議会が10日、山形市の山形国際交流プラザで開かれ、県内の小学校の校長約260人が参加し、国の教育改革を踏まえ、児童の育成に努める重要性を確認した。
全体会では田中会長があいさつし、主体的な学びを重視するアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善など、学習指導要領の改定を内に「新たな教育課題に対応したリーダーシップやマネジメント力を磨くため、情報交換して進むべき方向性を探っていきたい」と述べた。引き続き大会宣言が発表され、安全で安心できる教育環境をつくり、子どもに向き合う教育の充実に努めることなどが盛り込まれた。
白鷹町出身のジャーナリスト田勢康弘さんによる講演のほか、「学校経営のビジョン」「担任力を高める校内研究・研修体制の構築」などをテーマにした分科会も開かれた。

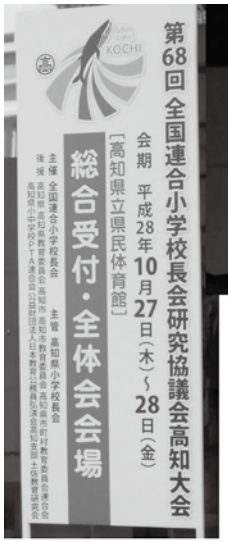
2016年（平成28年）6月11日（土曜日）

＜翌日の山形新聞に大きく掲載！＞

H28.7/7 ：東北連小岩手大会開会式：田中利幸・高橋禎理事を中心に、山形県内より１３３名の参加。２日目の閉会式では、次期開催県代表として、田中会長より力強いご挨拶がありました。お疲れ様でした。

第57回 東北連合小学校長会
研究協議会 山形大会
平成28年度拡大事務局会会場
3F 出羽 (15:00~)
『懇親会』3F 朝日 (17:00~)

「総決起集会」H28.9.20.(火) ホテルメトロポリタン山形



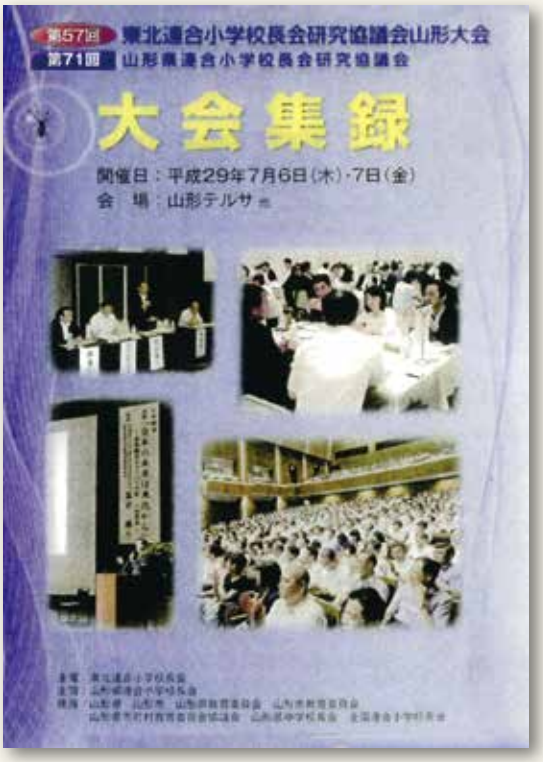
シンポジュウム、森澤紳勝氏・白田久子氏・山本一力氏

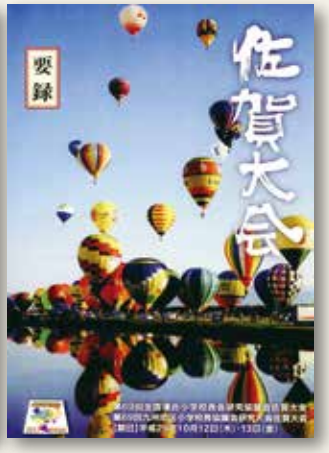
研究視察：坂本龍馬記念館、雨の桂浜。お昼は、かつお船にて「鰹の藁焼きタタキ」

県　連　小　の　組　織			
会　長　名	学校数	新入会員数	退職会員数
田中利幸	249	51	51

研　究　協　議　会	
東　北　大　会	全国大会
東北連小山形大会 〈東北6県より1,000名の参加〉 （全体場:山形テルサ・市内ホテル）	佐　賀

平成29年度 2017





（別紙３）

平成２９年度　　山形県連合小学校長会　　役　員　一　覧

会　長	田中　利幸　（山形四）　　023-623-6019
副会長	黒木　佳昭（山形八）　山田　健二（寒河江）　伊東　　守(日　新)
	長濱　洋美（赤　湯）　五十嵐　良克（押　切）
監　事	岡村　廣（上山南）　佐藤　俊徳　（相模小）　矢口　広道（東根小）

事務局　〒990-0044
山形市木の実町12-37 県教育会館（大手門パルズ 4F）
Tel 023-634-8555　Fax 023-632-5748
E-mail : y-kren@atlas.plala.or.jp
事務局長 ： 後藤　一昭　　事務局長補佐 ： 大沼　篤

役名 / 地区	理　事	対策委員	生徒指導委員	研修委員
1 山形 37	黒木　佳昭（山形八）023-631-2140	加藤　昌宏（蔵王二）023-688-2565	渡辺　修（山形三）023-622-0653	村上　宏幸（みはらしの丘）023-689-0181
2 上山 5	吉田　康之（宮　川）023-674-2816	丹野　芳弘（上　山）023-672-1400	藤原　由美（中　川）023-679-2234	須田　浩二（西郷一）023-672-1404
3 東村山 18	會田　昭広（山　辺）023-664-5005	柏倉　充（千　布）023-654-2307	熊澤　晃佳（寺　津）023-654-2305	渡邉　斉（長　崎）023-662-2226
4 西村山 22	山田　健二（寒河江）0237-86-4235	菊地　義昭（谷地西部）0237-71-1108	田中　秀明（醍　醐）0237-87-5311	清野　真由美（北谷地）0237-71-1112
5 北村山 25	細梅　雅弘（楯　岡）0237-55-2411	明日　浩幸（常　盤）0237-28-2123	高嶋　敏春（富　並）0237-57-2254	山川　明宏（宮　沢）0237-22-0434
6 最上 23	伊東　　守（日　新）0233-22-0497	京野　亮（赤　倉）0233-45-2801	門脇　潤（真室川北部）0233-65-2821	笠原　正川（大　蔵）0233-75-2210
7 米沢 18	遠藤　　誠（東　部）0238-22-8047	情野　正（上　郷）0238-28-3409	会田　均（三沢西部）0238-31-2113	設楽　由加利（愛　宕）0238-24-4000
8 東置賜 21	長濱　洋美（赤　湯）0238-43-2069	小野　明彦（東　沢）0238-48-2012	赤間　幸生（漆　山）0238-47-2164	淀野　秀樹（宮　内）0238-47-2106
9 西置賜 16	遠藤　倫夫（長　井）0238-84-1701	舟山　良美（西　根）0238-84-1705	向田　聡（鮎　貝）0238-85-2030	竹田　俊章（手ノ子）0238-75-2644
10 田川 37	五十嵐 良克（押　切）0235-66-2421	後藤　　誠（あつみ）0235 -43-3101	奥山　慎（大　山）0235-33-2570	瀬川　幸子（東　栄）0235-64-2159
11 飽海 27	村上　千景（若　浜）0234-23-4138	大谷　智之（亀ケ崎）0234-22-0455	伊藤　順一（吹　浦）0234-77-2504	白林　和夫（藤　崎）0234-76-2133
担当理事			細梅　雅弘（楯　岡）0237-55-2411	伊東　　守（日　新）0233-22-0497
幹事	幹事長　髙橋　　禎（山形一）023-622-0651	髙橋　　守（西　小）023-645-0390	遠藤　光男（出　羽）023-684-7321	小松　和彦（桜　田）023-624-5083
	総　務　時田　　厚(明　治) 023-681-8473	瀧浪　　敦（南山形）023-688-2400	江口　俊和（村木沢）023-643-2240	田所　昭裕（金　井）023-681-8471
会員数 249	会　計　江口 俊和（村木沢）023-643-2240			

平成29年5月31日　　山形県連小会報　　第148号　(1)

山形県連小会報

第148号
発行日　平成29年5月31日
発行者　山形県連合小学校長会
田中利幸
山形市木の実町12-37
県教育会館（大手門パルズ）

県連小　第１回理事会報告

交流を通して学び合い 発信する校長会に

田中利幸会長あいさつ

「山形県連合小学校長会」は、山形県内のすべての小学校、また県内11地区において組織されている地区校長会の連合体として存在しています。会員である一人一人の校長が、その職責をよりよく果たすことができるようにすることを目的とした組織です。県内各地区、各市町村の校長会には、それぞれ伝統があり受け継いでおられる考え方がおありだと思います。そこで、そうした違いをよさとして学び合い、考えを出し合い力を合わせていくことが、各学校経営の充実と山形県小学校教育の振興に寄与し、教職員の資質・能力の向上やひいては子ども達一人一人の望ましい成長の実現につながるものと考えます。

さて、新学習指導要領が３月に告示され、平成32年の完全実施を視野に、主体的、対話的で深い学びへの授業改善や、外国語活動や英語の教科化に係る中・高学年での年間35時間の時数確保も合めたカリキュラム・マネジメントへの取組が必要です。文科省や県の施策をどう受け止めて、時代の潮流を読むのか。他県の動きも掴みながら学校運営を考えていかなければならない時代に、一人職である私たち校長は、仲間とつながっての情報交換や考えの交流が何より大切です。様々な教育課題に対して家庭や地域はもとより、教育委員会や行政とも連携しての取組を支える、県連小であり たいと考えております。

そこで、今年度の課題について３点申し上げます。１点目は、今年７月に開催する第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会に向けての最終の準備と運営です。運営面の準備とともに開催県の研究発表として深みのあるものになるよう最終の見直しもよろしくお願いします。

２点目は、専門委員会を中核とした活動の充実です。今年度も、「喫緊の課題への組織的な対応力」を持ち「発信する県連小」であるために、３つの専門委員会活動について期待することを述べます。まず、小学校で大きな課題となっている英語の教科化に係る中・高学年での年間35時間の時数確保について、例えば卒業式を１週間遅らせることでの対応も考えられます。私たち現場の教員はどう考え何を願うのか、各地区校長会でこの件について課題となることを議論していただき、小中合同対策委員会で意見を集約し、必要に応じて「お願い」の作成に反映させた上で、県教育委員会や県市町村教育委員会協議会と連携しての取組を模索していただければと考えます。研修委員会は、東北連小山形大会の開催への協力が急務かと思いますが、来年度の県連小研究協議会への準備に係る連絡・調整や全連小の研究主題の見直しに注視し、平成32年度以降の県連小研究協議会の在り方を模索していただければと考えます。生徒指導委員会は、引き続き県内生徒指導の現状把握とともに、間近に迫る道徳の教科化などともつないで、育てる生徒指導に係る有効な手立てについての情報を発信していただければと考えます。

３点目は、第72回県連小研究協議会の準備です。来年度は最上地区が担当くださり、５領域５分科会という新しい枠組みで開催される協議会の初年度となります。会場は昨年度までと同様に山形ビッグウイングを予定していますが、東北連小山形大会のために１年空いてしまいますし、１つの分科会が倍の人数になることから分科会場の設定やグループ討議の方法などを新たに考えなければなりません。

今年度１年間、課題解決に向けて、各地区校長会と会員の校長先生方のご理解とご協力をお願い申し上げて挨拶といたします。

平成２９年度　山形県連合小学校長会年間計画　（案）　8-(5)-ア

山形県連合小学校長会 Tel:023-634-8555 FAX: 023-632-5748 y-kren@atlas.plala.or.jp

月	山形県連小関係 理事会･会長会・幹事会等 (◆宿泊、♠小･中合同委員会)	専門委員会 対策	専門委員会 研修	専門委員会 生指	H29 山形大会事務局会	東北連小関係	全連小関係	県中・教頭会 他団体その他
4	4(火)会計監査・幹事会議① 13(木)幹事会議② 21(金) 第１回 理事会 25(火) ♠小中合同対策幹事会① 〃　県事務局運営会議①	4回	4回 ① 26 (水)	4回	13 正副 27 拡大		13(木)監事会 (20(木)常任理事会①)	3(月)辞令交付式 20(木)県中理事会①
5	11(木)幹事会議③ 11(木) ♠小中合同対策委員会① (於：教育用品会議室) 31(水)◎県連小会報第148号/理事会報告書	① 11 (木)		① 17 (水)	18 正副 25 拡大研究	19(金)◆ 第1回理事会 〃　事務担当者会 (山形市：大手門パルズ)	23(火)◆常任理事会② 第226回 理事会：KKRホテル東京 24(水)第69回総会 東京・ニッショーホール	
6	15(木)幹事会議④ 22(木)♠小中合同対策幹事会②		② 20 (火)		15 正副 29 正副	7(水)第1回教育課程委員会 (山形市：大手門パルズ)	1(木)事務担当者会 (KKRHT) 6(火)合同部会/合同委員会 (KKRホテル東京) 23(金)常任理事会③ 30(金)広報担当者会 (KKRHT)	2(金)県中理事会② 〃　県中研究協議会 28(水)小中教研理事会 29-30東北中岩手大会
7	5(水)レセプション (メトロポリタン山形) ◆６～７(木・金)第57回 東北連小研究協議会山形大会 (山形テルサ/山形駅周辺ホテル) 12(水) ♠小中合同対策委員会② 県教育センター	② 対策委員会 12 (水)			3 正副 4 事前準備	5(水)レセプション (メトロ) 6(木)第2回理事会 午前:メトロ ◆６～７(木・金)第57回 東北連小研究協議会山形大会 (山形テルサ/山形駅周辺ホテル)	10(月)◆常任理事会④ 役員懇談会-東海大会館 11(火)第1回会長会 (KKRホテル東京)	21～24 県中総体夏季大会
8	3(木) 幹事会議⑤ 4(金) 経営懇談会 (於：県教育センター) 25(金) 第２回 理事会 (研究協議会事務引継会)	経営懇談会 4 (金)		② 8 (火)	10 正副		7/29-8/4 海外教育事情視察 (ニュージーランド) <※H２９より隔年実施>	2-4 全国教頭埼玉大会
9	8(金) ♠「お願い」提出　山形 22(金)幹事会議⑥						12(火)常任理事会⑤ 28(木)対策・調研合同会議 (KKRホテル東京)	
10	1(日)　◎県連小会報　第149号		③ 3 (火)	③ 5 (木)		20(金)第2回教育課程委員会 20(金)第１回対策委員会 (山形市:大手門パルズ) (※27(金)第１回会長会)	11(水)常理⑥/第227回理事会 ◆12～13(木/金) 第69回 全連小研究協議会佐賀大会 (佐賀市文化会館他)	14(土)県中新人戦 19-20 全日中 東京大会 20(金)県小中教頭研究大会
11	1(水)幹事会⑦ 2(木) 経営学習会 (於：県教育センター) 17(金) 第3回 理事会 (◇) ※終了後 歴代会長会 於：山形国際ホテル	経営学習会 2 (木)			16 正副		21(火)常任理事会⑦	9-10 東北教頭福島大会 14(火)県中理事会③
12			④ 1 (金)	④ 7 (木)			15(金)常任理事会⑧	
1	17(水) ♠小中合同対策幹事会④ 19(金)幹事会議⑧				26 正副		18(木)常任理事会⑨	
2	5(月)県事務局運営会議② 9(金)幹事会議⑨ 23(金) 第４回 理事会 (◇)					2(金)第３回理事会・引継会 (山形市:大手門パルズ)	1(木)各種委員会報告会 15(木)～16(金)常任理事会⑩ ◆第228回理事会 (KKRHT)	13(火)県中理事会④
3	13(火) ◎県連小会報 第150号 23(金)幹事会議⑩					7(水) 会計監査 (山形市:大手門パルズ)	6(火)常任理事会⑪	

<※県連小の主会議場は大手門パルズ>

山形県連小 会報

第 149 号
発行日　平成29年10月１日
発行者　山形県連合小学校長会
田　中　利　幸
山形市木の実町12－37
県教育会館(大手門パルズ)

県連小　第２回理事会報告

東北連小山形大会大成功への感謝と県・東北・全連小の活動について

会長のあいさつ

１　第57回東北連小研究協議会山形大会へのお礼

２つの大会コンセプトに照らして、「研修の深まりを最大のおもてなしと考える」に関しては、「脱・優等生」から始まった冨田勝先生のご講演は素晴らしい反響で、是非持ち帰って職場や地区の先生方に伝えたいと絶賛をいただきました。また分科会についても、会場が広くきれいだったことや熱心な討議が展開されていたという感想が多く聞かれました。

「コンパクトな大会を目指す中で、できる限りのおもてなしをしよう」についても、山形駅からすぐの全体会場で各分科会場にも歩いて行けるコンパクトな大会の中に、受付や案内が丁寧でおもてなしの心のこもった、本当に温かい気持ちになる大会運営だったと、最大の賛辞をいただきました。主管３地区を中心に、全県体制でのご協力に感謝です。

２　県連小の現況について

喫緊の課題への組織的な対応力と発信する県連小を目指して組織改編が行われて３年目になりますが、対策委員会、研修委員会、生徒指導委員会の３つの専門委員会は、委員の皆様のおかげで、年度当初の計画どおりに充実した取り組みが行われていると伺っております。特に、研修委員会は、山形大会の分科会運営についてご尽力いただいたことに、感謝申し上げます。

３　東北連小の動きと対応について

東北連小山形大会の１日目に第２回研修会・理事会を開催しました。６月７日に開催された第１回教育課程委員会の報告や、青森県の理事より平成30年度に開催される東北連小青森大会について、秋田県の理事より平成31年度に開催される全連小秋田大会について提案がありました。昨年度からの継続審議になっている「東北連小大会運営準備金（仮称）」については、後ほど協議をお願いします。

４　全連小の動きと国・県の教育施策について

７月11日・12日に開催された全連小常任理事会と小学校長会長連絡協議会では、全連小で作成した新学習指導要領への準備資料の紹介と、移行措置について総合的な学習からの時数流用は慎重に考えてほしい、教員の働き方改革について様々な会議の中で「学校の努力だけでは限界」という認識が広まっているので改革の好機だととらえているとの話がありました。また、文科省教育課程課の白井俊企画室長より「これからの教育の在り方について～新学習指導要領及び移行措置等について～」と題した講演会がありました。資料を準備しましたのでご活用ください。「各都道府県校長会の新教育課程編成等への取組と展望」についての情報交換では、どの県からも外国語活動の指導員確保については区市町村の財政事情によって差が生じていること、時数確保の方法については授業日数や６校時授業日の増、モジュール、土曜授業などを視野に様子見をしているという状況でした。また、卒業式は３／15～３／25に行われており管理職を通しての本人への内示は２月上旬～３／15、本人への通知後に調整が入りマスコミ報道は３月下旬～４／１、内示後も職員であることに変わりはないので粛々と勤務し異動の準備も進めているとのことでした。第１回理事会の折りに卒業式を遅らせて授業日を確保することについて問題提起しましたが、山形県の場合はマスコミ報道の時期とともに「内示後も粛々と…」という意識改革の問題も大きいと感じました。

本日の理事会、どうぞよろしくお願いします。

第１回理事会(H29.4.21.)

田中会長挨拶、組織づくり、協議、県教委指導、第１回山形大会実行委員会等々、盛りだくさんの内容でした。

＜Ｈ２９．４．４．大手門パルズにて、幹事会歓送迎会＞

＜4月４日（4月第一火曜日）会計監査 及び 第１回幹事会＞
田中会長・高橋幹事長継続のもと、新しい幹事３名＋新事務局長補佐を迎え、11名体制で「H29幹事会」のスタートです。

平成２９年度　東北連合小学校長会
感謝状贈呈式・感謝の会

於：大手門パルズ
(H29.5.19.)

送職理事感謝の会では、高橋幹事長避りすぐりの「山形の地酒」に、参加者全員が大満足の様子でした。

東北連合小学校長会

会 報　144号

発行者　東北連合小学校長会
会長　田 中 利 幸

事務局　〒990-0044
山形県山形市木の実町12－37
大手門パルズ４階
電 話(023)634-8555・FAX(023)632-5748
E-mail：y-kren@atlas.plala.or.jp

東北連合小学校長会　第１回　理事会　研修会

平成29年度活動方針・重点並びに活動計画を承認

平成29年５月19日（金）東北連合小学校長会第１回理事会・研修会が山形市の大手門パルズで開かれ、東北各県から理事と事務局員等の総勢31名の方々が集まった。

理事会では、運営細則に即して今年度の会長・副会長・幹事が選出され、新会長より各幹事が委嘱された。続いて、平成29年度の学校数並びに会員数が確認された。その後、平成28年度活動・会計決算報告、平成29年度活動の方針・重点案、活動計画案、予算案が協議され、平成29年度活動方針・重点に「原子力発電所事故」に関して挿入することですべて承認された。

山形県より第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会の概要、青森県より第58回東北連合小学校長会研究協議会青森大会の進捗状況について説明があり了承された。また、秋田県より第71回全連小秋田大会の進捗状況について説明があり、協力金について研修参加態様の実態を踏まえて各県で対応することが了承された。研修会では、生徒指導「ネットモラル教育の推進について」宮城県の取組状況が紹介され、各県の取組について情報交換を行い理事会を終了した。

交流を通して学び合い、共に未来を拓く学校づくりを

東北連合小学校長会　会長　**田 中 利 幸**
（山形県山形市立第四小学校長）

この度、東北連合小学校長会の会長として指名をいただきました。微力ではありますが、役割の重さを十分認識し精一杯努めて参りますので、東北各県小学校長会の会員の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

東北連合小学校長会は、東北六県においてそれぞれに組織されている小学校長会の連合体として存在しております。会員である一人一人の校長が、その職責をよりよく果たすことに資することを目的とした組織です。しかし、東北各県それぞれに特色があり文化があるように、各県各地区、各市町村の校長会にも伝統があり、受け継いでおられる考え方がおありだと思います。そこで、そうした違いをよさとして、交流を通して学び合うことが、それぞれの学校経営の充実と各県の小学校教育の振興、ひいては子どもたち一人一人の望ましい成長の実現につながるものと考えます。

さて、３月に新学習指導要領が告示され、主体的・対話的で深い学びへの授業改善、道徳の教科化に伴う指導や評価の見直し、外国語活動や英語の教科化に伴う中・高学年の授業時数の増加など、各学校でカリキュラム・マネジメントを進めていく上で、多くの課題が見えてきています。また近年、不安定な国際情勢が続き、国内でも少子高齢化、予想を上回る速さのＩＣＴの進歩と社会や経済のグローバル化、雇用形態の多様化など、先行き不透明な時代が続いており、地域コミュニティ機能の弱体化や貧困家庭、児童虐待の増加といった状況も見られます。そして学校では、いじめや不登校問題、規範意識や学ぶ意欲の低下、情報モラルの欠如や生活習慣の乱れ、特別な支援を要する児童の増加や多様化など、数多くの課題に直面しています。

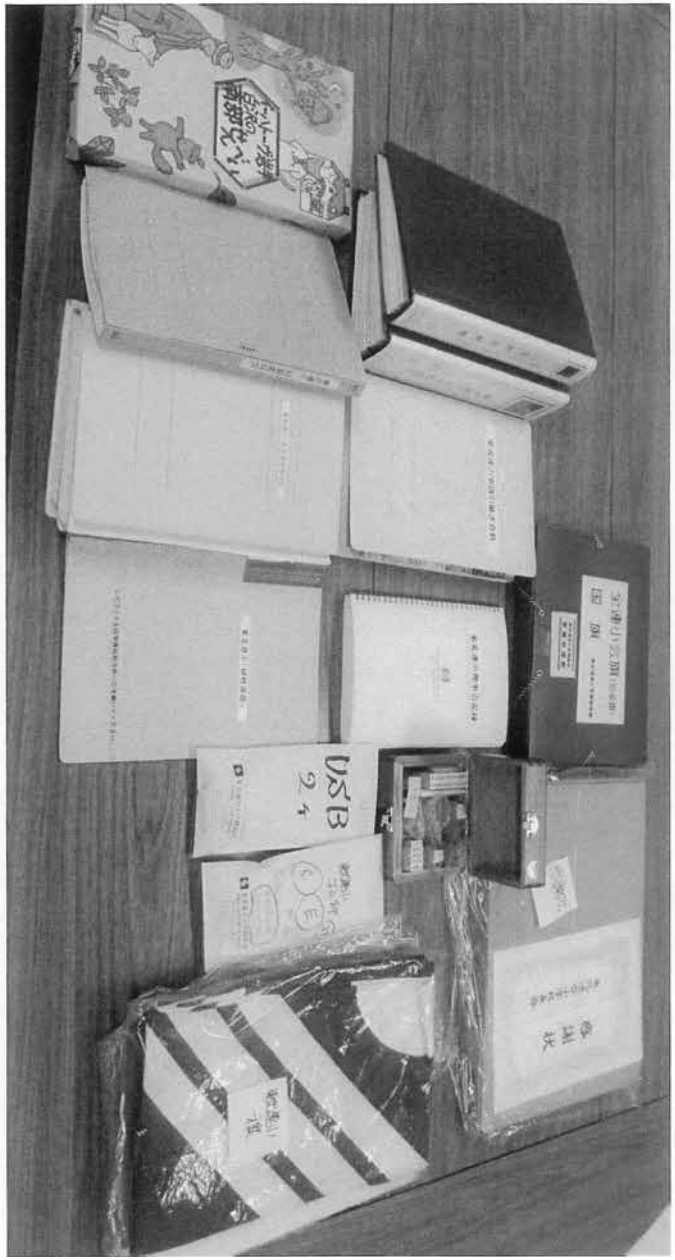
こうした状況に加え、平成23年に発生した東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故の被害は甚大であり、復興は進みつつありますが、６年を経た今もその道のりは長く険しいものがあります。昨年８月に福島県校長会が主催してくださった、福島第一原発と富岡第一・第二小中学校（三春校）の見学会に参加し、復興にはまだまだ時間がかかることを実感しました。そして、今年４月に被災地区の避難指示が解除されても、なかなか帰還が進まないという現実があります。

このような変化の激しい不安定な時代にあって学校に期待されるのは、夢と未来への希望をもち、その実現に向かって多様な価値観をもつ人々とつながりながら、一つ一つの困難を主体的に乗り越えようとする子どもを育てることです。被害が甚大だった東日本大震災は、一方で人と人、人と地域の絆の重要性と、いのちへの畏敬の念をもつことの大切さを、改めて深く考える契機となりました。「東北は一つ」。教育課題が山積している今だからこそ、一人職である私たち校長は、リーダーシップやマネジメント力を磨くために、情報交換を密に考えを交流し合い研修に努める必要があります。また、教育現場の実情や願いを発信していくために、東北連合小学校長会の組織力を発揮できるよう、連合体としての凝集性をさらに高めていかなければなりません。

今年度は、７月６日・７日の両日、第57回東北連合小学校長会研究協議会を山形市で開催いたします。主担当の山形・上山・東村山を中心に県内全11地区の校長が連携し、研修の充実を何よりのおもてなしと考えるとともに、今後も続く学校の統廃合に係る会員数の減少を視野に、大会ホームページによる情報提供や山形駅周辺を会場としたコンパクトな大会を目指して取り組んでおります。特に、新学習指導要領が告示されて初年度の大会として、これからの教育の在り方や学校経営の方針について、活発な議論が展開されることを期待しています。

さて、平成32年度に全連小の研究主題が改定される動きを受けて、東北連小の研究副主題や分科会構成などの見直しの是非を検討していかなければなりません。また、昨年度、東北連小第３回理事会で、８年に１回東北ブロックで全国大会を担うことに備える東北大会運営準備金（仮称）について提案され継続審議となっています。

こうしたことも念頭に置きながら、今年度、東北連合小学校長会の活動の方針に基づき、重点項目の推進に努めてまいりますが、教育界全体に大きな動きや変化が予想されますので、東北連合小学校長会並びに各県小学校長会の会員の皆様のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。



＜平成２９年３月２９日（水）　岩手県事務局より、段ボール箱の引き継ぎ資料一式、確かに受領しました。（山形県事務局：後藤一昭）＞

平成２９年度 各地区学校数

	地区名	平成２８年度 学校数					平成２９年度 学校数					
		独立校	併設小本務	併設中本務	小中一貫校	合計	独立校	併設小学校籍	併設中学校籍	小中一貫校義務教育学校	合計	
1	山形	35	1	1		37	35	1	1		37	
2	上山	5	0	0		5	5	0	0		5	
3	東村山	17	0	1		18	17	0	1		18	
4	西村山	22	0	0		22	22	0	0		22	
5	北村山	25	0	0		25	25	0	0		25	
6	最上	22	0	0	1	23	21	0	0	2	23	
7	米沢	18	0	0		18	18	0	0		18	
8	東置賜	21	0	0		21	21	0	0		21	
9	西置賜	15	0	1		16	15	0	1		16	
10	田川	38	0	0		38	37	0	0		37	-1
11	飽海	30	1	0		31	27	0	0		27	-4
	合計	248	2	3	1	254	243	1	3	2	249	-5

◎平成２９年４月より、休校・閉校・統合する学校について

(N06：最上地区)
○戸沢村立戸沢小学校が、施設一体型の小中一貫校になる。
（小学校数は同じ。校長は中学校籍一名。呼称：「戸沢小中学校」）
※新庄市立「萩野学園」は、義務教育学校。

(N010：田川地区)
○鶴岡市立加茂小学校が、鶴岡市立大山小学校に統合する。

(N011：飽海地区)

①酒田市立南遊佐小学校が、酒田市立鳥海小学校に統合する。

②酒田市立地見興屋小学校
〃 松山小学校
〃 内郷小学校
} ３校統合し、新「酒田市立松山小学校」

③酒田市立飛島小学校が、H28年10月より休校。Ｈ２９年度も休校の予定。

＜会員数が250名以下となり、H29全連小総会代議員数は、２名となる。（１名減）＞

平成３０年度 各地区学校数調べ（H29.8.1.現在）

	地区名	平成２９年度 学校数					平成３０年度 学校数					
		独立校	併設小学校籍	併設中学校籍	小中一貫校義務教育学校	合計	独立校	併設小学校籍	併設中学校籍	小中一貫校義務教育学校	合計	
1	山形	35	1	1		37	35	1	1		37	
2	上山	5	0	0		5	5	0	0		5	
3	東村山	17	0	1		18	17	0	1		18	
4	西村山	22	0	0		22	22	0	0		22	
5	北村山	25	0	0		25	25	0	0		25	
6	最上	21	0	0	2	23	20	0	0	2	22	-1
7	米沢	18	0	0		18	18	0	0		18	
8	東置賜	21	0	0		21	19	0	0		19	-2
9	西置賜	15	0	1		16	15	0	1		16	
10	田川	37	0	0		37	34	0	0		34	-3
11	飽海	27	0	0		27	27	0	0		27	
	合計	243	1	3	2	249	237	1	3	2	243	-6

◎平成３０年４月より、休校・閉校・統合する予定の学校について（案）

（１）最 上 地区
①最上町立月楯小が、最上町立向町小に統合予定。

（２）東置賜 地区
①川西町立高山小が、川西町立中郡小に統合予定。
②川西町立東沢小が、川西町立小松小に統合予定。

（３）田 川 地区
① 鶴岡市立栄小が、鶴岡市立京田小に統合予定。
② 鶴岡市立長沼小が、鶴岡市立藤島小に統合予定。
③ 鶴岡市立羽黒第一小と二小が統合し、鶴岡市立羽黒小となる予定。

第57回 東北連合小学校長会研究協議会山形大会
第71回 山形県連合小学校長会研究協議会

＜開会の挨拶：黒木実行委員長＞　＜東北連小会長挨拶：田中利幸会長＞　＜国歌斉唱＞　＜閉会の挨拶：伊東副実行委員長＞

記念講演：冨田勝氏

"異端安説の譏（そしり）を恐ることなく、
勇を振て我思う所の説を吐くべし"
―福澤諭吉（大阪論之趣旨より）

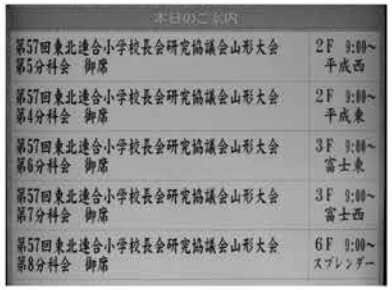
時流や権威に迎合して点数を稼ぐ「優等生」ではなく、批判や失敗を恐れず信念をもって実行する人間となれ。

分科会１～３　―　ホテルメトロポリタン山形

第57回 東北連合小学校長会研究協議会山形大会

第1分科会「経営ビジョン」3階 出羽の間
第2分科会「組織・運営」4階 霞城の間A
第3分科会「評価・改善」4階 霞城の間B
平成29年7月7日（金）午前9時～（受付8時30分～）

分科会４～８―山形国際ホテル



分科会９,10―ホテルキャッスル

山形県連合小学校長会　第65回記念

山形県連合小学校長会
5 年 の 歩 み

【平成19年(61回)～23年(65回)】

2012.12

山形県連合小学校長会

山形県連合小学校長会
5年の歩み

発行日
平成24年12月

発　行
山形県連合小学校長会
山形市木の実町12-37

印　刷
中央印刷株式会社

第63回 全国連合小学校長会研究協議会山形大会開会行事

第61回～第65回　各地区会長 （◎印：会長　○印：副会長）

年　度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
会　長	◎渋谷光夫	◎千葉榮一	◎千葉榮一	◎鈴木弘康	◎鈴木弘康
山　形	○横沢正巳	○後藤一昭	○後藤一昭	○白鳥樹一郎	○白鳥樹一郎
上　山	青木　勝	柏倉善三	大沼修一	大沼修一	神谷恒司
東村山	井上正信	○熊谷宗英	安達幸司	村形啓行	加藤高志
西村山	○荒木利見	草苅和男	草苅和男	草苅和男	○草苅和男
北村山	大沼廣志	大沼廣志	○大類豊太郎	○大類豊太郎	佐藤淳一
最　上	○山村明徳	○森　洋一	○森　洋一	○森　洋一	○齊藤　渉
米　沢	丸山信也	加島修一	○小形義和	○小形義和	板垣正明
東置賜	○高井雄司	大澤　実	大澤　実	大澤　実	○丸山信也
西置賜	加藤孝壽	○東海林和夫	風間　孝	大道寺高明	鈴木雅明
田　川	○三浦愼士	難波信昭	○難波信昭	伊藤政良	○本間　立
飽　海	齋藤辰典	○那須栄一	田中利明	○浅井　良	齋藤眞里子
会員数	324名	322名	317名	313名	304名

年　度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
幹事長	永瀬　克	鈴木弘康	鈴木弘康	齋藤和夫	齋藤和夫
幹　事	佐竹恵一 齋藤和夫 江口照芳 渡部和生 大宮とき子 板坂憲助 齋藤昭憲	平尾幸治 齋藤和夫 渡部和生 板坂憲助 荒澤賢雄 大宮とき子 齋藤昭憲	平尾幸治 齋藤和夫 渡部和生 片桐理子 飯野恭伸 村山敏悦 荒澤賢雄	小林正次 片桐理子 飯野恭伸 豊島孝宏 村山敏悦 高木祐治 加藤雄一	小林正次 片桐理子 飯野恭伸 豊島孝宏 村山敏悦 伊勢牧子 高木祐治 加藤雄一
事務局長	田口由美子	田口由美子	田口由美子	後藤一昭	後藤一昭
事務局員				櫻井正志	岩田継生

※表紙写真「維新軍楽隊」（村山）、「黒森少年歌舞伎」（庄内）、「平小獅子踊り」（置賜）、「有屋少年番楽」（最上）

平成19年度（2007年度）　渋谷　光夫　会長

第61回 西置賜大会
六月七・八日
長井市民文化会館

主題
新しい時代を拓き国際社会を主体的に生きる
心豊かな日本人の育成を目指す小学校教育の推進
――未来に心をつなぎ、いのち輝く子どもを育てる
学校経営――（三年次）

講話Ⅰ
演題「特別支援教育で校長先生に期待すること」
講師　宮崎　昭氏（山形大学地域教育文化学部教授）

講話Ⅱ
演題「教育課程改訂の内容と学校経営への期待」
講師　寺崎　千秋氏（前全国連合小学校長会長）

信頼される学校づくりを
～今こそ、校長会の正念場～
会長　渋谷　光夫

私たち、校長・校長会は、会員の叡智を結集して研修と交流を深め、校長としてのあり方についての研修を重ねるとともに、その存在意義を示す時と考えます。各学校で保護者や地域の方々から信頼される確かな実践・経営を示していくことです。各校で子どもの成長している姿と教師力と学校力を高めている姿を示していくことです。

この大会は、私たちの「おらだの会」です。研修が「いのち」です。この大会への参加意識の高まりが、校長会への帰属意識を深め、研修の充実・感動・発展に結びついていきます。これまで築き上げてきた山形の教育のよさを、自信と誇りをもって更に創り上げていきましょう。

（大会要項より抜粋）

特別委員会　テーマ
一　生徒指導　いじめの根絶に向けて
二　学校評価をどう進めるか
三　やまがた「C」改革　今後の推進について

対策委員会
「特別支援教育の充実を」
県へのお願いとして「特別支援教育に関するまとめとお願い」を提出。特別支援教育体制等の条件整備について全校を対象にアンケートを実施し、現状と課題をまとめたもので次の2点を強調。①地方交付税措置による特別支援教育支援員の計画的配置（市町村教育委員会への指導）②特別支援学級においても、障がいの重度化・重複化および該当児童の増加に伴う多学年化に対応した学級編制基準を、教育山形「さんさんプラン」と同じように改正願いたい。

学校安全研究委員会
・県版安全副読本の全面改訂に向けた編集委員会を実施し、「不審者対策」に加えて今日的課題として「防災マップの作成」「ゲーム脳の予防」を取り上げるとともに、日常的な安全管理・安全指導を大切にしていくことを確認した。

講演会から
二月二十日の理事会で講演会を実施
演題「新学習指導要領改訂の動向」
講師　合田　哲雄
（文部科学省初等中等局　教育課程企画室長）

教育界の動き

平成十九年度
○教育関連三法案の改正
□山形県市町村法令外負担金等合理化委員会幹事会から、法令外負担金等の規制に関する基本方針が出された。
○全連小大会
第五十九回岡山大会
○東北連小大会
第四十七回秋田大会
○小学六年、中学三年の二二二万人を対象に「全国学力調査」実施
○中央教育審議会「教育基本法の改正を受けて緊急に必要とされる教育制度の改正について」（答申）
□学校教育法の一部改正により「特別支援教育」の開始
□キャリア教育指導計画「総合実践プログラム」の作成・実践

平成20年度（2008年度）　千葉　榮一　会長

第62回 最上大会
六月五・六日
新庄市民文化会館

研修　提言　挑戦

主題
新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる
日本人の育成を目指す小学校教育の推進
――未来に心をつなぎ、いのち輝く
子どもを育てる学校経営――（一年次）

研修Ⅰ
パネルディスカッション
「山形の教育『いのち』『まなび』『かかわり』in最上」
パネラー
【いのち】三條　典男氏
（三條医院院長、山形県性に関する相談嘱託医）
【まなび】阿部　和生氏（前戸沢村教育委員会教育長）
【かかわり】栗田　和則氏（農林家　暮らし考房主宰）
コーディネーター
齋藤　彰氏（真室川町立真室川小学校）

研修Ⅱ
講話
講師　藤原　志保氏（文部科学省初等中等局教育課程課）

新システムの始動
研究協議会の実施と新県連小大会主題の設定
今年度から、第一回の理事会をもって総会にかえ、大会を研究協議会とした。
また、今年度、全国連合小学校長会が定めた「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を主題に掲げた。

特別委員会　テーマ
一　生徒指導　ネットトラブル
二　英語活動
三　新教育課程について

最後の退職役員への感謝状贈呈
運営の見直しの一環として、第三回理事会の中で最後の退職役員感謝状贈呈式が挙行された。

問い直しの時
～子ども達の未来のために～
会長　千葉　榮一

今年度は、教育基本法の改正を受けて、新学習指導要領の告示および来年度からの一部前倒しを含めた移行措置の実施、教育振興基本計画案の発表等、制度・内容両面において教育改革が加速される教育界にとって大きな節目の年です。政治・経済・科学・情報等、グローバル化する教育を取り巻く環境をも十分に認識しながら、子ども達の成長・自立の視点からそれぞれの改革が意味するところは何かを分析・吟味する必要があります。教育にとって普遍的な価値を持つ「不易」とは何か、社会の変化に対応するために取り入れるべき「流行」とは何かを改めて問い直す時が来ていると感じます。その問い直しが、子ども達にとって、保護者にとって、そして教職員にとって何が必要なのか、つまり改革のあるべき姿を明確にすることになります。今こそ、叡智を集結し、これからの教育の在り方を議論し、校長会としてよりよい改革に向けて「参画・提言・協働」する必要があります。本体会はその第一歩として重要な位置を占めており、「研修　提言　挑戦」というキーワードがそれを端的に、しかも明確に示しています。

（大会要項より抜粋）

平成二十年度
○全連小大会
第六十回香川大会
○東北連小大会
第四十八回宮城大会
□教職員評価が全ての学校で試行された。
□平成二十三年度第六十六回全国連合小学校校長会研究協議会山形大会の開催に向けて準備委員会を設立。
○学校評価ガイドライン（改定）
○幼稚園教育要領、小学校・中学校指導要領（告示）
□やまがた教育「C」改革の開始
□「山形県特別支援教育推進プラン」の策定
□県立村山特別支援学校、楯岡校の開校

平成21年度（2009年度）　千葉　榮一　会長

第63回 田川大会

六月十一・十二日
庄内町文化創造館「響ホール」

研修提言実践

主題
新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進
――未来に心をつなぎ、いのち輝く子どもを育てる学校経営――（二年次）

研修Ⅰ
朗読「藤沢周平の世界」
講師　國井　美保　氏
（つるおかルネサンスの会　副代表）

研修Ⅱ
演題　「ゼロからの出発 ～クラゲに魅せられて～」
講師　村上　龍男　氏
（鶴岡市立加茂水族館　館長）

（確認事項）
退職会員への案内は、これまで二回していたが、今後第一次案内だけの案内とする。

第一回理事会　課題解決に向けて　―本格的準備の年―

☆**課題一（全連小山形大会に向けて）**
二月には、平成二十三年の全連小全国研究協議会山形大会の大綱を全連小理事会に提案しなければならない。そのためには、七月の東北連小理事会にその骨格を示さなければならない。当面は、山形市校長会を中心として旧東南村山地区校長会が原案を検討していくことになる。最終的には全県体制で運営していくことになるが、急ピッチで準備を進めなければならない。

☆**課題二（県研究協議会一日開催へ）**
二十三年度以降の県研究協議会は、一日開催の方向が示されている。そのような形で実施するためには、研究協議会のあり方の見直しが必要であり、それに伴う諸課題（感謝状贈呈、開催地、分科会の構成等々）への対応も検討しなければならない。それらを見直すことは同時に、県連小の組織及び運営のあり方の検討の必要も出てくることを意味する。二十二年度になれば全連小の全国研究協議会山形大会の運営細部に係る業務が膨大になる。県連小の組織及び運営の検討は今年度内に行わなければ二十四年度からの実施は不可能になる。
この二つの重要課題を並行して検討しなければならない。県連小としての大きな転換点の年となる。会員全員の未来に向けた真摯な議論を期待したい。（千葉榮一　会長挨拶より抜粋）

二十二年度以降の協議会関連事項への対応について
・二十二年度から　①処遇費の廃止　②大会宣言、次期開催地区代表挨拶の廃止
・二十三年度から　①退職会員感謝状、新入会員バッヂ贈呈等の廃止　②来賓祝辞の一部割愛
◆県連小の組織・運営・会則についての見直しも検討した。

特別委員会　テーマ
一　各地区からの情報交換
二　教員免許更新制の現状と課題
三　変革期における本県の教育課題
①　心が通い合う教育の実現に向けた、子どもと向き合う時間の確保の在り方について
②　少人数教育に係る現行施策の光と陰について

平成二十一年度
○平成二十三年度完全実施の新学習指導要領の移行措置が始まる。
□新型インフルエンザの流行に備え、対応法について周知が図られた。
○教員免許更新制の導入
○全連小大会
第六十一回熊本大会
○東北連小大会
第四十九回福島大会
□教育山形「さんさん」プランの拡充（中学校三学年までの少人数学級編制を段階的に導入）
□YAMAGATAドリームキッズ（山形県スポーツタレント発掘事業）がスタート

平成22年度（2010年度）　鈴木　弘康　会長

第64回 東置賜大会

六月十日・十一日
高畠町文化ホール「まほら」

研修提言協働

主題
新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進
――誇りと志を胸に、ともに夢に向かう、いのち輝く子どもを育てる学校経営――

回演
「広介童話の朗読と民話の語り」
高橋まゆみ　氏（浜田広介記念館評議委員）
多勢久美子　氏
（「夕鶴の里　語り部の館」語り部）

講演
「高畠ワインのワインづくり」
講師　奥山　徹也　氏
（高畠ワイン株式会社代表取締役社長）

大会で特に大切にしたこと
・東置賜の特色を生かした朗読・民話の語り
・研究実践から協議題解決につながる具体策の提案
・提言の経営実践に生かし学校・子どもを支える

選事研修会　テーマ（昨年度までの特別委員会）
一　校長の職務　～「いのちの教育」視点に～
二　「組織運営」について
三　変革期における本県の教育課題

学校安全研究委員会
・校内危機発生時の対応の見直し
◇危機発生時の対応の七原則
・非常時における職員の適切な判断・指示の向上をめざして
◆学校体育・健康研究委員会は休止

立ち位置確かに、足場を強く
～「いのち輝く　人づくり」に向かって～

会長　**鈴　木　弘　康**

全連小山形大会副主題「誇りと志を胸に、ともに夢に向かう、いのち輝く子どもを育てる学校経営」は教育県山形の誇りを背柱に、五教振の精神を全国区に止揚したものであり、東置賜大会の大会主題として、初めて登場することになります。
子どもの立ち位置を、「誇りと志（CULTURE）」をもとに「なりたい自分（CAREER）」に向かう時間の縦軸と「心のつながり（COMMUNICATION）」に充たされた空間の横軸とが交わる点と定め、そこに存在する子どもの「いま、いのち輝く」としました。「過去」の深さと「未来」からの光を受け止め、誇りと志を胸に抱き、ともに夢に向かうことで築かれる強い足場は、子どもばかりではありません。そのまま、学校経営に転化してみれば、そこに引き継がれていく、変わらぬものとしての「校風」が凛として存在しているのです。
（大会要項より抜粋）

平成二十二年度
○全国学力テストが約三〇%の抽出調査に。
□村山地区校長会において、全連小山形大会運営会議立ち上げ
○川端文部科学大臣中央教育審議会に教員の資質・能力の向上に関する方策を諮問
□東北大会岩手大会において山形大会概要説明
○インクルーシブ教育を検討する特別委員会の設置
○全国学力・学習状況調査に理科を追加する方針まとめる。
○全連小第六十二回北海道大会が札幌市で開催
山形大会のプレゼンテーション
○「三十五人学級」の小一実施決定
●三月十一日
午後二時四十六分
東日本大震災発生
マグニチュード九・〇
死者　二五、八六二人
行方不明者　二、九三九人
（平成二十四年六月十三日現在）

平成23年度　第63回全国連合小学校長会研究協議会山形大会

第63回 全国連合小学校長会研究協議会山形大会
第51回 東北連合小学校長会研究協議会
第65回 山形県連合小学校長会研究協議会

十月二十日・二十一日
山形県体育館　市内公共施設及びホテル

主題

新しい時代を拓き、
心豊かにたくましく生きる
日本人の育成を目指す小学校教育の推進
――誇りと志を胸に、ともに夢に向かう、
いのち輝く子どもを育てる学校経営――

経営力を高め、信頼を育む校長会

全連小会長　**露木　昌仙**

全国連合小学校長会では、「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる　日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題とし、主題の実現を目指す校長のリーダーシップ、校長のあり方などに視点を当て、研究を進めてきました。四年目となる本大会においては、副主題に「学校経営」の文言を明確に示し、学校の責任者としての校長のマネジメントに関る研究であることを一層意識させるものとなりました。私ども校長が、自ら新たな知を拓く努力を重ね、学校経営力を高め、校長としてふさわしい研究協議となるものと期待しています。

（大会要項より抜粋）

震災からの復旧・復興の中での大会

平成二十三年三月十一日（金）午後二時四十六分、東日本大震災が発災した。未曾有の被害、そして復旧・復興の真っ只中、東北山形での全国大会開催となった。

大会実行委員長あいさつ

大会実行委員長　**鈴木　弘康**

私たちが生きるために夢や希望を持つことは大切なことです。今年、この夢や希望の捉え方が少し変わってきたように思っております。元々、夢や希望は未来に向かって自由に描けるものでありました。宇宙飛行士になりたい、花屋さんになりたいと、半世紀前の夢がそうだったように、未来を語るということは上昇カーブに乗ったバラ色の世界を思うことでありました。それが近年、バブルの崩壊、リーマンショック、そしてグローバル化が進み、少し描きにくくなった世の中になってしまいました。そして、あの大震災が起きました。何もかもを失った時、人は生きる糸口を根源的なものに見つけようとしました。自分とは何か、自分にとって大切なこと、自分のできること、自分が目指すべきこと、それらを暗闇の中で探したのです。そして見つけたもの全てが希望の種となることを私たちはこの震災で学びました。（中略）人を育てるのは仲間であります。もっと子ども同士が、教師同士が向き合える学校でありたいものです。ともに夢に向かう空間軸、これを〝いのちの横糸〟と呼んでおります。希望の種はこの2つの糸の接点に播くべきであり、そこに芽吹くものであると思っております。

（大会集録より抜粋）

シンポジウム

「夢を実現する誇りと志、いのち輝く人生」

シンポジスト
あき　竹城　氏（女優）
奥山　清行　氏（工業デザイナー）
根岸吉太郎　氏（東北芸術工科大学学長・映画監督）
コーディネーター
堀竹　充　氏（全連小調査研究部長）

山形県連小「義援金」への取り組みについて

県連小として次のような「義援金」を送付した。

一、平成二十三年三月二十五日（第一期）
被災四県（青森・岩手・宮城・福島）に計四〇万円
二、平成二十三年八月三十一日（第二期）
被災三県（岩手・宮城・福島）に計一五〇万円
三、平成二十三年十二月十六日（第三期）
被災三県（岩手・宮城・福島）に計一五〇万円

平成23年度（2011年度）　鈴木　弘康　会長

会則の改定。組織運営の改正を行う

◆会則の改定

理事を各地区から一名とし、副会長が選出された地区からは二名とする。

◆組織運営の改正

一　会の名称

(1)『第〇回山形県連合小学校長会研究協議会』と称する。
※周年の際は、「第〇周年記念……』と、記念の言葉を入れる。

二　開催の形態

(1) 研究協議会は、一日日程で行う。
(2) 退職会員に対する感謝状は、第三回理事会で、新入会員への全連小バッジ贈呈は、新年度第一回理事会で各地区に配付する。

三　開催の期日

(1) 原則として、六月第二週とする。

四　開催の場所

(1) 次の順序で開催する。
（☆印は、東北大会開催）（八地区ローテーション）

山形（全国・東北）⇩ 北村山（平成二十四）⇩ 米沢（平成二十五）⇩ 飽海（平成二十六）⇩
西村山（平成二十七）⇩ 西置賜（平成二十八）⇩ 山形（東北）（平成二十九）⇩ 最上（平成三十）⇩
田川（平成三十一）⇩ 東置賜（平成三十二）

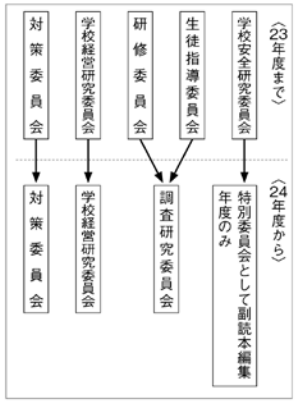
※東北大会開催事務は、山形・上山・東村山の三地区で担当する。

五　開催主管

(1) 研究協議会は、当該年度担当地区小学校長会が主管する。
(2) 東北連小山形大会については、山形県連合小学校長会が東北連小事務局を兼ねて主管する。

山形県連合小学校長会の歩み（総会・研究協議会・各委員会等）

六　委員会編成の変更



七　会費等の削減の経緯

十九年度
二十年度
- 県連小、県中、及び県小中教頭会と共に、日本教育会からの退会を決定

会費三一〇〇円の軽減

二十一年度
- 処遇費五千円の廃止を決定（第三回理事会）
- 全連小山形大会のために、本年度より二カ年、会員より五千円の拠出金をいただく

二十二年度
- 対策活動費三百円の軽減を決定

二十三年度
- 会費千円の軽減を決定

運営研修会　テーマ

一　校長としてどのように教育課程を考えていけばいいか
～新学習指導要領全面実施に当たって～
二　全連小山形大会の反省と課題について

教育界の動き

平成二十三年度

○新学習指導要領全面実施
○放射線の暫定的な安全基準を公表
○全国公立小中学校の耐震化を十五年度までに完了させる方針を決定
□東北連小理事会（山形）鈴木会長東北連合小学校長会長に。山形大会開催意思の確認
○教員免許新制度で九十八人が免許失効
○福島県、県内全ての十八歳以下の子どもに甲状腺検査スタート
□全連小　第六十三回大会を山形市で開催
○来年度からの小二の「三十五人学級」は加配定数などの活用で実施することに合意
○東大が五年後をめどに、秋季入学に移行する構想を発表

■東日本大震災に係る被災児童生徒の受入れ状況

小学生　八九三人
中学生　一八〇人
（平成二十四年三月一日現在）

1 県連小５年の歩み（平成24～28年度）

〈平成28年度『研究紀要』に掲載：H29.2.1.発行〉　広報担当

平成24年度（2012年度）江口照芳会長

第66回山形県連合小学校長会研究協議会

６月８日　於　山形国際交流プラザ　　北村山地区担当

主　題　　新しい時代を拓き心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進

―誇りと志を胸に、ともに夢に向かう、命輝く子どもを育てる学校経営―

研　修　　演題「心にひびくメロディーを求めて」　講師　若草　恵　氏（作曲･編曲家）

分科会研究協議

第１分科会（学校経営）
「新しい時代に対応する特色ある学校経営」
第２分科会（教育課程）
「生きる力をはぐくむ創意ある教育課程」
第３分科会（現職教育）
「時代の要請に応え、教員の意識改革を促し教育力を高める現職教育」
第４分科会（生徒指導）
「豊かな関わりの中で、共に生きる力を育てる生徒指導」
第５分科会（人権教育）
「一人一人の命や体・心を尊重する人権教育」
第６分科会（健康・安全教育）
「健やかで心身ともにたくましい子どもを育てる健康・安全教育」
第７分科会（情報教育）
「情報活用能力の育成と学校の情報化を推進する情報教育」
第８分科会（国際理解・環境教育）
「社会や自然の変化に対応する国際理解･環境教育」

ともに希望を語り、夢に向かう学校づくりを

――量から質への転換を図りながら――　　会長　江　口　照　芳

昨年10月に開催いたしました第63回全国連合小学校長会山形大会では研究主題の理念を更に推し進めることを目指して、副主題を「誇りと志を胸に、ともに夢に向かういのち輝く子どもを育てる学校経営」と設定し、ビジョンの明確化など学校経営の責任者である校長の役割を明らかにしてまいりました。本県校長会の総力を挙げた温かな対応と丁寧な情報提供など、多くの成果とともに山形らしさを発信できたものと確信しております。 今年度は、昨年度全面実施された新学習指導要領のもと、魅力ある教育課程の編成、実施評価、改善をさらに推進することや教職員の資質能力の向上や組織の活性化など、創意ある学校づくりを一層進めていくことが肝要であります。

私たちは、現状を踏まえ、未来に夢と希望を持ちたくましく生きる子どもの育成を目指し、総力を挙げて課題解決に努め県民の信託に応えていく必要があります。そのために校長は自らの使命を自覚し経営力を高め、リーダーシップを発揮し、家庭・地域から信頼される学校づくりに一層努めなければなりません。

また本県においては第５次山形県教育振興計画後期プランの２年目となり、いのちの教育を根底に据え変化する時代を主体的に生き抜く力の育成に鋭意取り組んでおります。そして、平成14年から全国に先駆けて実施してきました“教育山形さんさんプラン”については、昨年度中学校３年生まで拡充し、学力の向上、不登校児童生徒数の減少など多方面から高い評価を得ているところであります。現在、再構築会議において検証、議論されておりますが、各学校においては引き続き少人数を生かした授業改善ときめ細かな指導を一層推進していきたいものであります。（大会要項より抜粋）

平成25年度（2013年度）飯野恭伸会長

第67回山形県連合小学校長会研究協議会

６月21日　於　山形国際交流プラザ　　米沢地区担当

主　題　　新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進

―誇りと志を胸に、ともに夢に向かう、いのち輝く子どもを育てる学校経営―

研　修　　演題「日本の太陽系探査～「さきがけ」から「はやぶさ」まで～」

講師　上杉邦憲　氏（宇宙航空研究開発機構名誉教授・上杉家第17代当主）

分科会研究協議

第１分科会（経営ビジョン）
「創意と活力あふれ信頼される学校づくりと校長の在り方」
第２分科会（組織・運営）
「学校経営ビジョンの実現を図る活力ある学校運営と校長の在り方」
第３分科会（評価・改善）
「学校評価・人事評価を生かした学校づくりと校長の在り方」
第４分科会（知性・創造性）
「調和のとれた子どもを育む教育課程の創造と校長の在り方」
第５分科会（豊かな人間性）
「絆づくりを通して豊かな人間関係を育む生徒指導と校長の在り方」
第７分科会（研究・研修）
「学校の教育力向上を図る現職教育と校長の在り方」
第９分科会（学校安全）
「命を守る健康・安全教育の推進と校長の在り方」
第10分科会（健全育成）
「児童の健全育成及び危機管理の推進と校長の在り方」
第11分科会（健康・環境）
「未来を拓く力を育てる教育の推進と校長の在り方」
第12分科会（自立と社会性）
「自立を図り社会性を育てる教育の推進と校長の在り方」

※第６（社会形成力）･第８（リーダー育成）･第13（連携・接続）の各分科会は開かれなかった。

ともに経営力を高め合い、信頼される学校づくりを

会長　飯　野　恭　伸

私たち校長には高い経営力とリーダーシップが求められます。１つは、健全なフォロワーシップの醸成です。的確にリーダーシップを発揮するには、健全なフォロワーシップの醸成が肝要と言われます。２つは、安心・安全・安定です。学校は安心・安全であることはもちろん、安定していることが大切です。地にしっかり足を付け継続性と安定感を大切にした学校づくりに努めていくことが重要です。３つは、変える部分と変えてはならない部分の峻別です。学校は変わる部分にばかり目が行きがちでした。これからの学校づくりでは、何を残し、何を無くし、何を減らし、何を変えていくのかという明確な区別、見極めが肝要です。そのためには社会の変化、時代の変化、子ども達の状況に即し、そして限られた時間の中で何にどこに価値を見出していくのかという自らの学校の教育活動への価値付けが大事なのではないでしょうか。これからは一層の教育活動の見直しと、重点化が求められます。（大会要項より抜粋）

平成26年度（2014年度）荒澤賢雄会長

第68回山形県連合小学校長会研究協議会

6月13日　於　山形国際交流プラザ　　飽海地区担当

主　題　新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進

―誇りと志を胸に、ともに夢に向かう、いのち輝く子どもを育てる学校経営―

研　修　演題「いま、日本を読む」

講師　佐高　信　氏（『週間金曜日』編集委員・発行人）

分科会研究協議

第１分科会（経営ビジョン）
「夢や希望を育む活力に満ちた学校経営ビジョンと校長の在り方」
第２分科会（組織・運営）
「学校経営ビジョンの実現を図る活力ある学校運営と校長の在り方」
第３分科会（評価・改善）
「学校評価・人事評価を生かした学校づくりと校長の在り方」
第４分科会（知性・創造性）
「調和のとれた子どもを育む教育課程の創造と校長の在り方」
第５分科会（豊かな人間性）
「絆づくりを通して豊かな人間関係を育む教育活動づくりと校長の在り方」
第６分科会（研究・研修）
「担任力を高める校内研究体制の構築と校長の在り方」
第７分科会（学校安全）
「命を守る健康・安全教育の推進と校長の在り方」
第８分科会（健全育成）
「児童の健全育成及び危機管理の推進と校長の在り方」
第９分科会（健康・環境）
「未来を拓く力を育てる教育の推進と校長の在り方」
第10分科会（連携・接続）
「家庭・地域との連携・接続の推進と校長の在り方」

確かな学校経営と、組織力の発揮を

会長　荒　澤　賢　雄

私達は、現在の教育改革の動向を単に注視するだけではなく、確固たる考え・主張を持って対応していくことが求められます。いわば学校経営の専門家集団としての発信力・提言力が問われていると言っても過言ではありません。

転じて、県内の教育現場に目を向けると、一昨年度から体罰問題といじめの問題が大きく取り上げられました。また、県内において、命の尊さと危機管理の難しさを考えさせられる事案も発生してしまいました。私達は、子どもを人として大切にするという人間尊重の精神を基盤に据えながら、子どもの命を守り、より安全で安心な学校を目指して、真摯に取り組んでいかなければなりません。

特に、子どもの尊厳と命を守るためには、校長は、あらゆることに対して覚悟をもって取り組むことが肝要です。あえて「覚悟」という言葉をつかわせていただきました。これまでも、校長には「リーダーシップの発揮」や「ぶれない姿勢」、「凛とした姿」等が望まれてきました。今こそ、子どもの尊厳と命を守るため「校長としての覚悟」を子ども達に、教職員に、保護者や地域の方々に明確に示し、県民の負託と信頼に応える確かな学校経営を推進していきたいものです。（大会要項より抜粋）

平成27年度（2015年度）髙木祐治会長

第69回山形県連合小学校長会研究協議会

6月12日　於　山形国際交流プラザ　　西村山地区担当

主　題　新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進

―夢と希望をもち　共に未来を拓く　いのち輝く子どもを育てる学校経営―

研　修　演題「人間性豊かな社会を築く　オペラ的な生き方」

講師　熊谷眞一　氏（シベール社特別顧問）

分科会研究協議

第１分科会（経営ビジョン）
「夢や希望を育む活力に満ちた学校経営ビジョンと校長の在り方」
第２分科会（組織・運営）
「活力ある組織・運営の実現と校長の在り方」
第３分科会（評価・改善）
「学校評価・人事評価を生かした学校づくりと校長の在り方」
第４分科会（知性・創造性）
「調和のとれた子どもを育む教育課程の工夫と校長の在り方」
第５分科会（豊かな人間性）
「絆づくりを通して豊かな人間関係を育む教育活動づくりと校長の在り方」
第６分科会（研究・研修）
「担任力を高める校内研究体制の構築と校長の在り方」
第７分科会（学校安全）
「命を守る安全教育の推進と校長の在り方」
第８分科会（健全育成）
「児童の健全育成及び危機管理の推進と校長の在り方」
第９分科会（自立と社会性）
「自立を図り社会性を育てる教育の推進と校長の在り方」
第10分科会（連携・接続）
「家庭・地域との連携・接続の推進と校長の在り方」

新たな副主題のもと県連小研究協議会の発展を願って

会長　髙　木　祐　治

今年度より、県連小研究協議会は「夢と希望をもち　共に未来を拓く　いのち輝く子どもを育てる学校経営」という新しい副主題のもと、実施することとなりました。一昨年前、今研究協議会の主幹地区であります西村山地区校長会を中心に新しい副主題について検討をしていただきました。現在の社会状況と未来を生きる子ども達に期待される力、学校教育の中で子ども達に育むべき力について話し合い、全連小主題を受け、５教振から「いのち輝く」を受け継ぎ、６教振の「未来を拓く」を受け、検討をして参りました。こうしたことが本大会の趣旨文に見事に記して頂いたと思います。

この新しい副主題は平成29年度に開催されます第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会の副主題になる予定であります。

次々と提示される教育改革への対応は、子どもに反映されてこそ意義のある取り組みであると言えます。子どもも教師も意欲的に取り組む教育活動の実現を目指し、積極的な提言と情報交換を通して学校経営の方策を得ていただきたいと思います。（大会要項より抜粋）

平成28年度（2016年度）田中利幸会長

第70回山形県連合小学校長会研究協議会

6月10日　於　山形国際交流プラザ　　西置賜地区担当

主　題　新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進

―夢と希望をもち　共に未来を拓く　いのち輝く子どもを育てる学校経営―

研　修　演題「目は世界に　心はふるさと　―次の世代に何を伝えるか―」

講師　田勢康弘　氏（ジャーナリスト）

分科会研究協議

第１分科会（経営ビジョン）
「夢や希望を育む活力に満ちた学校経営ビジョンと校長の在り方」
第２分科会（組織・運営）
「活力ある組織・運営の実現と校長の在り方」
第３分科会（評価・改善）
「学校評価・人事評価を生かした学校づくりと校長の在り方」
第４分科会（知性・創造性）
「調和のとれた子どもを育む教育課程の工夫と校長の在り方」
第５分科会（豊かな人間性）
「絆づくりを通して豊かな人間関係を育む教育活動づくりと校長の在り方」
第６分科会（研究・研修）
「担任力を高める校内研究・研修体制の構築と校長の在り方」
第７分科会（学校安全）
「命を守る安全教育の推進と校長の在り方」
第８分科会（健全育成）
「児童の健全育成及び危機管理の推進と校長の在り方」
第９分科会（健康・環境）
「未来を生きる力を育てる健康教育・環境教育の推進と校長の在り方」
第10分科会（自立と社会性）
「自立を図り社会性を育てる教育の推進と校長の在り方」

学校経営を学び合い、共に未来を拓く学校づくりを

会長　田　中　利　幸

昨年12月の中央教育審議会は、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と題する答申を提出しました。その中で、大量退職・大量採用による年齢や経験年数の不均衡を背景に「教員は学校で育つ」との考えの下、「学び続ける教員像」を掲げています。学習指導要領の改訂に伴うアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、外国語教育の早期化・教科化、チームとしての学校などが矢継ぎ早に打ち出されています。こうした教育改革の波が押し寄せている状況の中、新たな教育課題に対応したリーダーシップやマネジメント力を磨くために、私たち校長も同様に学び続けなくてはなりません。自らの意思で研鑽を積むために集い、情報交換を通して進むべき方向性を探っていく。「校長は県連小で育つ」と言えるよう、組織力を生かし、学び続ける校長を支える県連小でありたいと考えています。

（大会要項より抜粋）

この５年間の山形県連合小学校長会役員（○は副会長）

年　度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
会　長	江口　照芳	飯野　恭伸	荒澤　賢雄	高木　祐治	田中　利幸
山　形	○山口　吉則 渡部　和生	○荒澤　賢雄 酒井　智子	○酒井　智子 田中　淳	○渋間　淳一 松澤　哲	○黒木　佳昭
上　山	○神谷　恒司 池野　仁	池野　仁	三條　義昭	三條　義昭	吉田　康之
東村山	大泉　徹	○塩野　譲 庄司　健二	庄司　健二	山澤　勉	青柳由起子
西村山	板坂　憲助	板坂　憲助	板坂　憲助	○菊地　宏哉 児玉　康子	○菊地　宏哉
北村山	佐藤　淳一	佐藤　淳一	○佐藤　淳一 元木　正史	元木　正史	細梅　雅弘
最　上	○中嶋　晴之 阿部　敏彦	○沼澤　稔 阿部　敏彦	○高野　博 伊東　守	○高野　博 伊東　守	○高野　博
米　沢	板垣　正明	山口　和夫	須崎　登志	○辻　雅人 樋口　哲弘	遠藤　誠
東置賜	○丸山　信也 高橋　正幸	高橋　正幸	島津　正道	島津　正道	○長濱　洋美
西置賜	熊野　昌明	○平田　裕 大村　亨夫	○平田　裕 大村　亨夫	鈴木　雄次	遠藤　倫夫
田　川	本間　立	○矢口　研一 五十嵐良克	矢口　研一	○本田　淳 五十嵐良克	本田　淳
飽　海	○畠中　善之 佐藤　弘	本間　茂希	○池田　公夫 加藤　博之	小松　恒彦	○松本　克則
担当理事	学校経営　板坂憲助 調査研究　板垣正明	学校経営　板坂憲助 調査研究　本間茂希	学校経営　元木正史 調査研究　板坂憲助	生徒指導　元木正史 研　修　鈴木雄次	生徒指導　細梅雅弘 研　修　青柳由起子
幹事長	飯野　恭伸	豊島　孝宏	高木　祐治	田中　利幸	高橋　禎
幹　事	伊勢　牧子	伊勢　牧子	田中　利幸	最上　博之	田所　昭裕
	田中　利幸	田中　利幸	加藤　雄一	池田　友子	日高　伸哉
	酒井　智子	高木　祐治	松澤　哲	田所　昭裕	大沼　篤
	豊島　孝宏	高橋　政吉	最上　博之	日高　伸哉	瀧浪　敦
	加藤　雄一	加藤　雄一	池田　友子	大沼　篤	小松　和彦
	高木　祐治	松澤　哲	田所　昭裕	高橋　禎	遠藤　光男
事務局長	後藤　一昭	後藤　一昭	後藤　一昭	後藤　一昭	後藤　一昭

この５年間の教育に関する主な出来事

年度	山形県の教育	日本の教育など
2012 平成24	○県立酒田光陵高等学校開校 ○教育山形「さんさん」プラン再構築会議により見直し ○県立特別支援学校再編・整備計画策定 ○「やまがた教育の日」「いのち輝く７つの約束」の制定	○新学習指導要領全面実施 ○大津市の中学生いじめ自殺に係るいじめ対応緊急調査など一連の対応 ○中央教育審議会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」（報告）
2013 平成25	○県立楯岡特別支援学校開校 ○第２次山形県特別支援教育推進プラン策定 ○「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりハンドブック」作成　全教職員に配付 ○「体罰等の根絶と児童生徒理解に基づく指導のガイドライン」作成 ○山形県環境教育指針策定	○いじめ防止対策推進法　施行 ○学校教育法施行令　改正（障がいのある児童生徒の就学先の仕組みの変更）
2014 平成26	○県立村山特別支援学校山形校開校 ○県立村山特別支援学校天童校開校 ○県立楯岡特別支援学校寒河江校開校 ○県立米沢養護学校長井校開校 ○山形県いじめ防止基本方針策定 ○県立高校の将来の在り方検討委員会から「社会の変化に対応した県立高校の将来の在り方について報告書」提出 ○県立高校再編整備基本計画のスタート	○地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正する法律公布（地方教育行政における責任体制の明確化、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化等） ○中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現」に向けた高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体改革について」 答申
2015 平成27	○第６次山形県教育振興計画スタート ○探究科等新学科設置及び普通科活性化に係る検討委員会から「探究科等新学科設置及び普通科活性化について報告書」提出 ○県立楯岡特別支援学校大江校開校 ○県立鶴岡養護学校おひさま分教室開校 ○義務教育学校新庄市立萩野学園開校 ○探究型学習推進事業スタート ○山形県総合教育会議開催	○中央教育審議会「大学設置基準等の改正について」答申 ○公職選挙法改正に伴い、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げ ○スポーツ庁創設
2016 平成28	○教職員評価制度本格実施 ○県立東桜学館中学校・高等学校開校	○障がい者差別解消法　施行 ○文科省「小学校未修了者の中学校等入学の取扱について」通知

全連小山形大会３周年記念誌

立ち位置確かに、足場を強く

山形大会実行委員長
鈴　木　弘　康

３．11。いろんなことが自分の手に負えなくなりました。

５月20日やっと集まった東北理事会、「こういう時だからこそやるべき！」のエールにどれだけ勇気づけられたことか。

各会長に登壇願い、グループ討議の進行役を東北会員に担って頂くなど、大会運営の根幹に「東北は一つ」を据えることができました。

山形大会は、主題究明という目的に加え、東日本大震災からの復興を掲げることで、記憶と歴史に刻まれた大会としての「立ち位置」を得ることができました。

大会前夜は、映画『おくりびと』のチェロ演奏で始まりました。あまりに多くを失ったわたしたちは、英題である『Departures』に深く「出発」の意味を感じていたのです。フィナーレは『Stand alone』。すべてが颯爽として目的に向かっていた時代に今をダブらせ、坂の上にかかる「一朶の雲」をめざして巨熊ロシアに立ち向かった秋山たちの気概への憧れです。何せ、会場は築46年の風雪に耐えてきた山形県体育館、「貧乏を常と思えば不足なし」、耐える「おしん」の県での開催なのですから。

大きなものを失った時、人は根源的なものに糸口を見つけようとするものです。自分たちが大切にしてきたことや目指すべきことなど。わたしたちは集まることで勇気を得て、声にすることでわかり合ってきました。そうして「希望の種」を蒔き育てていったのです。支えていただいた４年間、一つひとつに感謝です。

これからは、ここに掲載する写真を見ては思い出にひたるのもよし、熱い思いを呼び起こすのもよし。

「誇り」が少しずつ「思い出」に変わっていく時間を愉しみましょうか。

成果と思いをこれからも受け継いで

山形県連合小学校長会長
荒　澤　賢　雄

全連小山形大会３周年、誠におめでとうございます。東日本大震災から７カ月後、一日も早い復興への願いを掲げ、「東北は一つ」を改めて確認し合った大会だったと思います。また、山形の校長先生方が、全国から参集された校長先生方を温かな対応と丁寧な情報提供で人情味溢れた「おもてなしの心」を発揮された大会でもありました。

私は、平成20・21年度の２年間、県連小幹事として山形大会の準備に携わらせていただきましたが、大会開催年度は山形市教委在籍となっていました。幸いにも大会当日、開催市の学校教育課長として開会行事に来賓として参加できたことは嬉しい限りでした。ご苦労された校長先生方と心地良い汗を共に流すことができない後ろめたさを少々感じましたが、全国の三千人もの校長を束ねている山形の校長先生方の背中が頼もしく、そして大きく見えたことを覚えています。

大成功裏に終了した山形大会で合言葉とされた「立ち位置確かに、足場を強く」という考え方は、これまでにないスピードで進められている現在の教育改革の中でこそ大事にしたいスタンスであると強く感じております。これからも全連小山形大会の成果と思いを受け継いでいくことをお誓い申し上げ、３周年のお祝いの言葉といたします。

目　　次

■中　表　紙　――「一朶の会」 全連小山形大会三周年記念の集い――

■あ　い　さ　つ
「立ち位置確かに、足場を強く」
山形大会実行委員長　鈴　木　弘　康 …… 1
「成果と思いをこれからも受け継いで」
山形県連合小学校長会長　荒　澤　賢　雄 …… 2

■事務局運営会議委員「思い出の記」 …… 3～14

■事務局運営会議「会議録」 …… 15～47
• 平成22年９月22日～平成24年２月10日

■写真で見る全連小山形大会
(1) 山形大会までの取り組み …… 49～54
• 50年前の全連小山形大会
• 香川（H20）・熊本（H21）・北海道大会（H22）に参加して

(2) 山形大会実行委員会の取り組み（H23年度） …… 55～66

(3) 大会当日（平成23年10月20日～21日）のスナップ …… 67～87

■全連小山形大会大綱・規約・組織・歩み・日程 …… 89～108

■東日本大震災の記録 …… 109～117

■後書きにかえて　県連小事務局長　後　藤　一　昭

■付録：全連小山形大会　ＤＶＤ

後書きにかえて

県連小事務局長　後　藤　一　昭

「３・11東日本大震災の影響は、いかがですか？」
「大変でしたね。山形県の地震の被害はどうでしたか。」
そして、「全連小山形大会は、本当に実施できるのですか？」

平成23年４月、新学期が始まると、全国の小学校長会事務局や参加予定の校長先生方から、毎日のように問い合わせの電話を受けました。又、岩手・宮城・福島の被災３県は、県内校長会の組織づくりもできず、新年度の第１回理事会をいつ開催するかもわからない本当に苦しい現状でした。

しかし、そういう未曾有の大きな試練にも、東北の校長先生方は耐え抜きました。

５月21日、大手門パルズで開催した東北連小理事会で「こういう時だからこそ、東北の山形で全国大会を実施する！」という決議をしました。そして、鈴木弘康東北連小会長は「右手で山形大会を進めるとき時、左手で復興への願いを刻む年にしよう。これからも『東北は一つ』を標榜し、さらに連帯感を深めていこう。」と締めくくりました。こんなに感激したことはありませんでした。

６月６日早朝、被災地の現状を把握するため車で仙台へ向かいました。高速道路の料金所は撤去され、信号は電気が消え、すれ違う車は、警察・自衛隊・復旧作業のトラックばかり。仙台空港・県立農業高・石巻女川港……ＴＶ映像しか知らない私は、360度に広がる津波の爪痕を目の前にした時、言葉を失いました。涙をこらえるのが精一杯でした。名取市立閖上小では、体育館一杯に、砂まみれになったランドセル・数々のアルバムや写真・卒業証書・ノート等々が、コンテナにきちんと整理され、持ち主を探していました。ボランティアの方々のすごい力を感じました。今後もずっとこの目で災害状況や復興の足跡を見つめていきたいと心に誓いました。

山形大会を通して、これらたくさんのハードルを、皆さんと一緒に越えることができた事実を『三周年記念誌』として発行しました。

鈴木弘康実行委員長の力強いリーダーシップのもとに参集した、山形大会事務局運営会議の先生方、そして、東北の先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後に、記念誌編集発行にあたり、微に入り細に入り、ご指導ご支援いただきました 中央印刷株式会社 金子由二様に、心より御礼申し上げます。

全連小山形大会３周年記念誌

平成27年３月31日発行

発行・編集：山形大会実行委員会
〒990-0044 山形市木の実町12－37
大手門パルズ４階
電話 023-634-8555

印　　刷：中央印刷株式会社

山形県連合小学校長会会則

（名称及び事務所）
第１条　本会は、山形県連合小学校長会とよび、事務所を山形県教育会館におく。
（構　　成）
第２条　本会は、山形県各地区小学校長会を以って組織する。
（目　　的）
第３条　本会は、県内各地区校長会及び各小学校長相互の連絡提携を密にし、教育の振興を図ることを目的とする。
（事　　業）
第４条　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
１．各地区小学校長会及び各小学校相互の連絡提携に関すること。
２．教育に関する研修及び研究調査に関すること。
３．教育行政に関すること。
４．教育関係団体に関すること。
５．その他必要なこと。
（役員及び任期）
第５条　本会には次の役員をおき、任期は１か年とする。ただし、再任は妨げない。補欠として就任した場合は、前任者の在任期間とする。
１．会　長　　１　名
２．副会長　　５　名
３．監　事　　３　名
４．理　事　　若干名
５．幹事長　　１　名
６．幹　事　　若干名
（役員の選任）
第６条　本会の役員の選任は次による。
１．会長・副会長・監事は理事会で選出する。
２　理事は各地区小学校長会ごとに、１名を選任する。
３．幹事長・幹事は会長が委嘱する。
（役員の任務）
第７条　本会の役員の任務は次による。
１．会長は本会を代表し、会務を総括する。
２．副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
３．監事は会計監査にあたる。
４．理事は理事会を構成し、会務を審議執行する。
５．幹事長は事務局を総括する。幹事は会務を分掌し、企画、立案にあたる。
（会　　議）
第８条　本会は次の会議を持ち、会長がこれを招集する。
１．研究協議会
年１回開催する。
２．理事会
本会の決議機関とする。
毎年定例に開催し、必要に応じて臨時に開くことができる。

（会議の内容）
第９条　本会の会議は次のことがらを審議する。
１．研究協議会
教育課題についての分科会研究協議
２．理事会
(1)　会則・規定及び規則の制定、改善に関すること。
(2)　役員の選出に関すること。
(3)　事業の大綱・計画ならびに予算・決算の議決に関すること。
(4)　研究協議会に関すること。
(5)　会務の執行に関すること。
(6)　教育課題に関すること。
(7)　その他本会の運営に必要なこと。
（専門委員会）
第10条　本会に専門委員会をおくことができる。専門委員会の構成等は別に定める。
（経費及び会計年度）
第11条　本会の会計は次による。
１．本会の経費は会費・補助金及びその他の収入を以ってこれに充てる。
２．本会の会計年度は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。
（簿　　冊）
第12条　本会に次の簿冊をおく。
１．会則　２．会員名簿　３．役員名簿　４．会計簿　５．会議録　６．文書綴
（職　　員）
第13条　本会に事務職員をおく。事務職員の事務・任免・待遇は別にこれを定める。
（細　　則）
第14条　本会の運営に関する細則は別にこれを定める。

付　　則
1. 本会則は、昭和30年４月１日より施行する。
2. 本会則は、昭和30年６月17日決定する。
3. 本会則は、昭和43年６月７日改正
4. 本会則は、昭和48年３月６日改正
5. 本会則は、昭和48年４月１日より施行する。
6. 本会則は、昭和52年６月23日改正
7. 本会則は、昭和54年７月　４日改正し、昭和55年４月１日より施行する。
8. 本会則は、昭和60年６月14日改正
9. 本会則は、平成　４年６月14日改正
10. 本会則は、平成19年６月　７日改正
11. 本会則は、平成22年２月23日改正
12. 本会則は、平成24年２月23日改正し、平成24年４月１日より施行する。
13. 本会則は、平成28年２月25日改正し、平成28年４月１日より施行する。

山形県連合小学校長会　歴代会長･副会長一覧　（平成元年度より）

年度	歴代会長		歴代副会長									
平成元年	坪沼　秀雄	山形四			小野　邦雄	寒河江	奥山源太郎	楯岡	佐藤　格	長井	中西　達雄	朝暘一
2年	田中　二男	山形二	笹村　昭六	山形八			村上　藤男	新庄	山崎信次郎	米沢西部	梅木　欽一	琢成
3年	佐藤　輝夫	山形四	庄司正治郎	山形一			村上　藤男	新庄	小林　廸郎	小松	金子　清一	朝暘一
4年	佐藤　輝夫	山形四	庄司正治郎	山形一			石川　巌	新庄	小林　幸雄	長井	佐藤　良知	琢成
5年	松田　晴男	山形五	片桐　繁雄	山形二	武田　育男	天童中部	石川　巌	新庄	小林　幸雄	長井	後藤　輝夫	温海
6年	松田　晴男	山形五	海老名六郎	山形一	齋藤　浩一	山辺	石川　巌	新庄	小林　幸雄	長井	成田　恒夫	琢成
7年	村上　恒昭	山形四	海老名六郎	山形一	大江　弘良	寒河江	石川　巌	新庄	髙橋　昭	興譲	髙橋　弘光	朝暘三
8年	村上　恒昭	山形四	小林　彰	山形二	鈴木　曉	上山	小山　義雄	楯岡	髙橋　昭	興譲	髙橋　弘光	朝暘三
9年	堀米　富男	山形一	大山　明夫	山形五	鈴木　孝雄	天童北部	榎本　和彦	楯岡	管野　弘	沖郷	髙橋　弘光	朝暘三
10年	酒井　順一	山形四	大澤　寛治	山形二	鈴木　孝雄	天童北部	榎本　和彦	楯岡	目黒　孝雄	長井	竹内　善彌	琢成
11年	酒井　順一	山形四	大澤　寛治	山形二	片桐　勉	寒河江	榎本　和彦	楯岡	目黒　孝雄	長井	木村　恒子	朝暘三
12年	沼澤　政辰	山形三	武田　剛	山形四	片桐　勉	寒河江	樋口　勝也	新庄	髙橋　英機	興譲	池田　充直	亀城
13年	沼澤　政辰	山形三	武田　剛	山形四	板垣　和男	中川	樋口　勝也	新庄	髙橋　英機	興譲	中里　健	櫛引東
14年	木村　康二	山形四	山口　光	山形一	梅本　英夫	天童中部	小関　正男	楯岡	佐藤　鎭雄	高畠	渡部　靖男	浜田
15年	木村　康二	山形四	山口　光	山形一	太田富久雄	左沢	西塚　忠雄	新庄	佐藤　鎭雄	高畠	加藤　勇	朝暘四
16年	木村　康二	山形四	田口由美子	山形六	太田富久雄	左沢	土谷　義幸	楯岡	竹田　寛治	長井	大川　擴	松原
17年	渋谷　光夫	山形四	鈴木　幹雄	山形一	荒木　雄之	上山	山村　明徳	新庄	江川　栄助	米沢東部	池田　定志	朝暘三
18年	渋谷　光夫	山形四	鈴木　幹雄	山形一	荒木　利見	寒河江	山村　明徳	新庄	髙井　雄二	高畠	三浦　愼士	朝暘三
19年	渋谷　光夫	山形四	横沢　正巳	山形二	荒木　利見	寒河江	山村　明徳	新庄	髙井　雄二	高畠	三浦　愼士	朝暘三
20年	千葉　榮一	山形一	後藤　一昭	山形五	熊谷　宗英	山辺	森　洋一	新庄	東海林和夫	致芳	那須　榮一	松原
21年	千葉　榮一	山形一	後藤　一昭	山形五	大類豊太郎	楯岡	森　洋一	新庄	小形　和義	米沢東部	難波　信昭	朝暘六
22年	鈴木　弘康	山形四	白鳥樹一郎	山形一	大類豊太郎	楯岡	森　洋一	新庄	小形　和義	米沢東部	浅井　良	琢成
23年	鈴木　弘康	山形四	白鳥樹一郎	山形一	草苅　和男	寒河江	齊籐　渉	日新	丸山　信也	高畠	本間　立	朝暘一
24年	江口　照芳	山形一	山口　吉則	山形十	神谷　恒司	西郷二	中嶋　晴幸	新庄	丸山　信也	高畠	畠中　善之	松陵
25年	飯野　恭伸	山形四	荒澤　賢雄	山形一	塩野　譲	天童北部	沼澤　稔	日新	平田　裕	長井	矢口　研一	朝暘四
26年	荒澤　賢雄	山形一	酒井　智子	山形三	佐藤　淳一	楯岡	高野　博	新庄	平田　裕	長井	池田　公夫	浜田
27年	髙木　祐治	山形二	渋間　淳一	山形十	菊地　宏哉	寒河江	高野　博	新庄	辻　雅人	米沢南部	本田　淳	朝暘一
28年	田中　利幸	山形四	黒木　佳昭	山形八	菊地　宏哉	寒河江	高野　博	新庄	長濱　洋美	赤湯	松本　克則	琢成
29年	田中　利幸	山形四	黒木　佳昭	山形八	山田　健二	寒河江	伊東　守	日新	長濱　洋美	赤湯	五十嵐良克	押切

県連小２０年間の学校数の推移

	地区名	平成10年度	平成21年度	22	23	24	25	26	27	28	29	平成３０年度	20年間の減少校数
1	山　形	37	38	38	38	37	37	37	37	37	37	37	0
2	上　山	10	9	9	8	8	6	6	5	5	5	5	-5
3	東村山	20	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	-2
4	西村山	39	29	29	29	24	22	22	22	22	22	22	-17
5	北村山	37	35	34	31	31	29	26	26	25	25	25	-12
6	最　上	48	40	39	35	32	26	25	23	23	23	22	-26
7	米　沢	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	0
8	東置賜	23	23	22	22	22	21	21	21	21	21	19	-4
9	西置賜	25	23	22	21	20	18	17	16	16	16	16	-9
10	田　川	51	48	48	48	48	48	45	43	38	37	34	-17
11	飽　海	38	35	35	35	35	33	31	31	31	27	27	-11
	合　計	346	317	313	304	293	276	266	260	254	249	243	-103

＜県連小　歴代事務局長一覧＞　S46～ H30　(48年間)

歴代	氏　名	年　度	現　住　所
1	渡　辺　不　二	46～48	S46年 事務局を会長校に設置。
2	布　施　与　一	49～57	S52年 事務局を県教育会館に移転。
3	中　村　彦　栄	58～H2	山形市柏倉
4	岡　崎　梅　治	H3～5	山形市上桜田
5	栗　原　　隆	5～8	山形市双月町
6	武　田　　勉	9～13	山形市八日町
7	門　脇　　徹	14～17	山形市やよい町
8	田口由美子	17～21	山形市城西町
9	後　藤　一　昭	22～29	東村山郡山辺町
10	大　沼　　篤	29～	山形市宮町

年度毎県連小会費等の推移　＜ H7 ～ H30 ＞　山形県連合小学校長会

		7･8年度	9･10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
会費	独立校	27,600	29,600	29,000	29,000	29,000	29,000	29,000
	併設小本務校	20,100	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500
	併設中本務校	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300
処遇費		7,000	7,000	7,000	6,000	5,000	5,000	5,000
事務局維持費		4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
退職校長会賛助金		300	300	300	300	300	300	300
研究紀要代		900	900	900	900	900	0	0
研究集録代		110	110	110	110	0	0	0
管理研究費		2,600	2,600	2,000	2,000	1,500	1,500	1,500
50周年記念事業費		2,000	0	0	0	0	0	0
合計	独立校	42,410	42,410	41,810	40,810	39,700	38,800	38,800
	併設小本務校	34,910	32,310	32,310	31,310	30,200	29,300	29,300
	併設中本務校	27,310	25,310	25,310	24,310	23,200	22,300	22,300
主な推移	管理研究費は、県連小会費に含んで集金。	平成7・8年度に50周年記念事業のため一人当たり2,000円ずつを、会費と別に集金	会費2,000円 値上げ	会費 -600円 管理研究費 -600円	処遇費 -1000円	処遇費 -1000円	研究紀要代 減　額	諸費の中のOB研修費を本会計から処遇費会計に移行。
			値上げ理由:消費税5%に増額、県連小文書A版化への対応と11年度東北連小山形大会開催のため、記念事業費分を会費に当て、管理研究費減額分を他の事業費に繰り入れ		委嘱研究として県教委から交付されていた研究集録に対する補助金が大幅減額	管理研究費 -500円 県教委補助金全額廃止	研究紀要は会員に1部無料配付	研究調査費に繰入れ(20万円)
						研究集録代 減　額 研究集録各校2部無料配付	全連小宮城大会協力金一人あたり2,000円は、入会金会計より支出。会員集金は無し（H14～15年度）	
	研究集録代として全教職員分を各校より集金							
市町村法令外負担金総額の推移		3247千円	3247千円	2922千円	2292千円	2292千円	2922千円	2365千円
学校数(本校)		349-348	347-346	346	345	342	341	339
平3：348校、平4：349校、平5：349校、平6：349校				東北連小山形大会				

		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
会費	独立校	29,000	29,000	29,000	29,000	29,000	29,000	29,000	28,700
	併設小本務校	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,200
	併設中本務校	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300
処遇費		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	0	0
事務局維持費		4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
退職校長会賛助金		300	300	300	300	300	300	300	300
研究紀要代		0	0	0	0	0	0	0	0
研究集録代		0	0	0	0	0	0	0	0
管理研究費		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,200
50周年記念事業費		0	0	0					
合計	独立校	38,800	38,800	38,800	38,800	38,800	38,800	33,800	33,500
	併設小本務校	29,300	29,300	29,300	29,300	29,300	29,300	24,300	24,000
	併設中本務校	22,300	22,300	22,300	22,300	22,300	22,300	17,300	17,300
主な推移	管理研究費は、県連小会費に含んで集金。	東北連小山形大会開催のための特別な集金はせず、通常経費を節減して対応		会員数減、会費値上げ回避県大会開催費を18万円増額し開催地負担を軽減	印税より本会計への支出を50万とする。	県連小・県中・及び県小中教頭会と共に、日本教育会からの退会を決定。会費3,100円の軽減。	処遇費5,000円の廃止を決定(第3回理事会)	対策活動費300円の軽減。	県連小会費、1,000円の軽減を決定。(第3回理事会)
		大会基金･本会計から各50万円支出		理事会議地区負担金(5,000円)を軽減	理事会議地区負担金(5,000円)を廃止		全連小山形大会のために、H21-H23の3カ年、会員より5,000円の拠出金を徴収する。(但し H23年度分は、東日本大震災義援金として岩手、宮城、福島3県に、計150万円送金する。)		
市町村法令外負担金総額の推移		1808千円	1808千円	1120千円	560千円	532千円	532千円	532千円	532千円
学校数(本校)		339	338	332	324	322	317	313	304
			東北連小山形大会						全連小 山形大会

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度（予定）
会費	独立校	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700	27,700
	小中併設（小籍）	18,200	18,200	18,200	18,200	18,200	18,200	18,200
	小中併設（中籍）	16,300	16,300	16,300	16,300	16,300	16,300	16,300
	小中一貫･義務教育	0	0	0	0	0	0	0
事務局維持費		4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
退職校長会賛助金		300	300	300	0	0	0	0
研究紀要代		0	0	0	0	0	0	0
研究集録代		0	0	0	0	0	0	0	0
管理研究費		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
50周年記念事業費								
合計	独立校	32,500	32,500	32,500	32,200	32,200	32,200	32,200
	併設小本務校	23,000	23,000	23,000	22,700	22,700	22,700	22,700
	併設中本務校	16,300	16,300	16,300	16,300	16,300	16,300	16,300
主な推移		法令外負担金がH25-27の3ケ年で1/3減額となり、H27より打切り決定 研究協議会一日日程（地区100万）	教職員共済生協より補助金20万円を頂く 学校安全副読本印税収入最終年度 H24-236,825円	学校安全副読本の印税収入が無くなるが、積立金より本会計への支出を30万とする。	別途会計の県退職校長会賛助金300円は廃止となる。県連小会費は、事業上の値下げとなった	同　左	東北大会年度、印税積立金より本会計への支出を50万とする事務局維持費300円を入会金より支出。	
		東北大会運営基金として、100万円を定期預金とする。(H24.3.27)	全連小三重大会シャトルバス代2,000円を支給。	東北連小研究大会参加費4,500円の値上げ千円を入会基金より補助。	同　左	東北連小研究大会参加費の千円を入会金より補助。	東北連小研究大会参加費の500円を入会金より補助。	
市町村法令外負担金総額の推移		532千円	355千円	176千円	打ち切り決定	打ち切り決定	打ち切り決定	打ち切り決定
学校数(本校)		293	276	266	260	254	249	243
							東北連小山形大会	

県連小第３回理事会資料（H29.11.17）　　田中　利幸

平成２９年度　全国連合小学校長会
「東日本大震災被災地（福島）視察

平成２９年８月２８日（月）

視察場所

◆　東京電力福島第一原子力発電所　（通称１Ｆ）
＜住所　：　福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原２２＞
（東京電力旧エネルギー館）
＜住所　：　福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央３７８＞

★　福島県双葉郡楢葉町立楢葉南小学校・同　楢葉北小学校・同　楢葉中学校
＜住所　：　福島県双葉郡楢葉町大字北田字鐘突堂2番地の1＞

視察参加者

（敬称略）

全国連合小学校長会	会長	種村　明頼	対策部長	喜名　朝博
	広報部長	戸倉　　務	事務局長	内藤　　信
岩手県小学校長会	会長	石川　正明	総務部長	外山　　敏
	広報部長	仁昌寺真一		
宮城県小学校長会	会長	吉木　　修	副会長	渡辺　孝男
仙台市小学校長会	会長	坂本　憲昭	副会長	吉田　秀夫
青森県小学校長会	副会長	福井　功二		
秋田県小学校長会	会長	森合　　茂		
山形県連合小学校長会	会長	田中　利幸（東北連小会長）		
福島県小学校長会	会長	齋藤　吉成	常任理事	遠藤　和雄
	事務局長	古関　明善	事務局次長	木村　政文
	総務部長	佐々木義通	総務部課題担当部長	髙橋　正之
	事務長	鈴木　　博		

視察日程

６：５０　○　ホテル福島グリーンパレス発
⇓　＜バス＞
９：００　◆　東京電力旧エネルギー館着（１Ｆ視察）
・本人確認及び概要説明
９：５０　↓　東電１Ｆ移動用バスで移動
・防護装備、ＡＰＤ着用
１０：３０　◆　1F現場視察
↓　東電１Ｆ構内用バスで
・防護装備脱衣、ＡＰＤ返却、身体スクリーニング
１１：４０　↓　東電１Ｆ移動用バスで移動
１２：１５　◆　東京電力旧エネルギー館発
⇓
１２：４０　○　昼食・休憩
１３：２０　⇓
１３：３０　★　楢葉南小・北小、楢葉中視察
・楢葉町教育長・３校の校長との懇談、施設見学
１４：５０　★　楢葉南小・北小、楢葉中　発
⇓
１６：２０　○　郡山駅　着　　解散
⇓
１７：４５　○　福島駅　着　　〃

全連小被災地視察「懇談会」　記録

平成29年8月27日(日)

○　全国連合小学校長会会長あいさつ　　全国連合小学校長会対策部長　　喜名　朝博
○　福島県小学校長会会長あいさつ　　福島県小学校長会長　　齋藤　吉成

震災、原発事故から７年目になるが、震災の記憶のない小さな子どもたちにも心身の不調がみてとれる。それは保護者の皆様の心身の健康への不安、経済的な不安、あるいは将来への展望に対する不安等が反映しているのではないかと感じている。
私たちは、広島、長崎への原爆投下の日を核として平和教育を推進してきたが、それと同じように、「３．１１」を核として防災教育や放射線教育を続けていくことが風化を防ぐことにつながると考えている。

◎　懇　　談　◎

（1）　東北各県の現状説明　※ 持参資料等により説明

①　岩手県小学校の現状
○　東日本大震災メモリアルプロジェクト、

②　宮城県小学校の現状
○　不登校児童の出現率の高さ、全国に発信する

③　仙台市小学校の現状
○　地域との結びつきと避難所運営等との相関、震災遺構としての仙台市立荒浜小学校　等

④　福島県小学校の現状

1)　福島県全般の状況について
○　浜･中･会津各地区による状況の大きな違い、現在の避難者数と県内外に生活根拠を求める避難者の状況、帰還への意向調査の結果、学校の抱える課題　等

2)　被災地区の状況について
○　双葉郡各小学校の学校再開状況、学力の保障等避難による不利益をもたらさないための取組　等

⑤　青森県、秋田県、山形県より

1)　青森県　　青森県副会長　福井巧二
○　防災教育の改善と充実、震災への意識の風化、危機意識の低下

2)　秋田県　　秋田県会長　　森合　茂
○　スクールソーシャルワーカーによる相談体制の確立、心のケア

3)　山形県　　山形県会長　　田中利幸
○　サロン（避難者の交流の場）への参加者の減少、避難していることへの保護者としての後ろめたさや不安

（2）　意見情報交換

①　スクールバスや復興加配について話題に上ったが、昨年と比べ予算上は減っていない。地域によって状況は様々だとわかった。（全連小　喜名対策部長）

②　発達障害と震災との関係が話題に上ったが、相関は明確にはわからない。発達障害のような「キレル」といった傾向を示す状況は増えていると思われる。（岩手県　石川会長）

③　福島県でも、病名はつかなくても、そういう傾向は増えている。また、学校では問題なく普通に生活していても、家庭に帰ると、ちょっとしたことで涙ぐんだりする高校生もいるという話も聞いている。見えない部分での心のケアも考えていきたい。（福島県　齋藤会長）

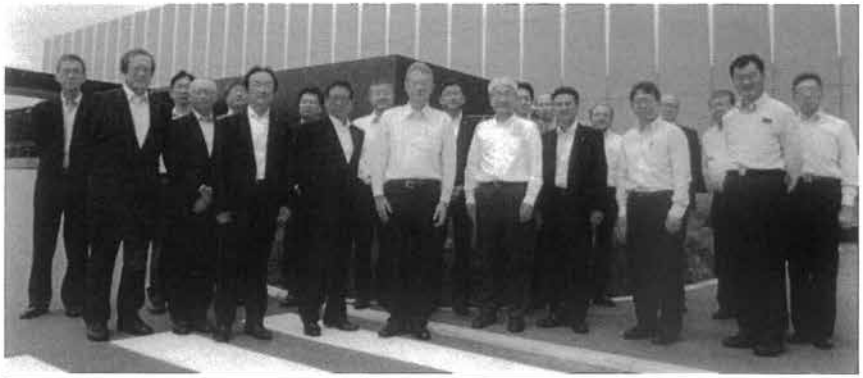
福島第一原発視察写真（H29.8/28）

＜震災６年後の復活の様子です。東電様より送付していただきました。＞

＜事前研修会＞

＜原発までの移動バス車内　　車窓/町内の除染廃棄物＞

＜構内バス車内での説明＞



「全連小被災地視察」について　**（平成２９年８月２７～２８日）**

全連小と被災３県では「被災地視察及び懇談会」を開催し、今年度は、福島県で開催することとなりました。「東北は一つ」という思いの下、青森県、秋田県、山形県の会長様方にも参加をお願いし、合計２１名の参加となりました。山形県では、田中利幸会長が参加。

主な日程は、東京電力福島第一原子力発電所の視察。福島県双葉郡楢葉町立楢葉南小学校・楢葉北小学校・楢葉中学校の訪問。校長先生方から詳しいお話しを伺いました。

＜住所　：　福島県双葉郡楢葉町大字北田字鐘突堂２番地の１＞

又、東北電力様より原発視察時の写真３１枚をメール送信して頂きましたので、２Ｐの写真集にまとめました。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

※詳しい内容については、福島県小学校長会のＨＰにアクセスして下さい。

「全連小被災地視察」について　（平成２９年８月２７～２８日）

楢葉南小・楢葉北小・楢葉中学校の視察

平成２９年４月から楢葉町に戻り、新築された楢葉中学校の校舎で、小中３校が合同で学んでいます。

＜全連小 種村会長あいさつ＞　＜３年生の音楽の授業＞　＜ランチルーム＞

楢葉町として、タブレットを使った情報通信技術の教育にも力を入れています。
学校施設見学と授業参観の後、楢葉町教育委員会矢内教育長様と３校の校長先生方を代表して鈴木孝彦様から震災後の状況と帰還までの取組について説明をいただきました。

現在は、恵まれた教育環境の中で生き生きと学ぶ子供たちですが、ここに至るまで、帰還に向けての意向調査をはじめ、町や教育委員会の取組の発信・説明など、丁寧な対応を一つ一つ積み重ねてきたことが分かりました。また、今もほとんどの児童がスクールバスで遠方から通学し、教職員も遠距離の通勤をしています。その中で、２校で共に学ぶことによる複式の解消と、少人数指導の充実、魅力ある学校にするためのふるさと学習の充実を図るなどして、力強い取組が進められていることを知ることができました。

＊ 震災前から避難後の楢葉町での学校再開までの児童数の推移

学校名	H22年5月 震災前		H23年9月 震災直後		H28年10月 帰還決定時		H29年4月 帰還直後	
楢葉南小	１５８	４３２	臨時休業	０	３３	７２	２３	６２
楢葉北小	２７４		臨時休業		３９		３９	

＊ 現在(8/28)は、その後５名の転入があり、６７名

２３年度東北連小第１回理事会資料　（H23.5.30）

「東日本大震災」被災状況

福島県小学校長会

Ⅰ　東日本大震災における福島県の被災状況

本県においては、原発事故の影響で、２０ｋｍ圏内警戒区域等（計画避難も含む）の小学校における詳細な被災状況が把握できないでいる。そのため、県対策本部等で公表した速報（５月１６日１５時現在）をもとに報告したい。

１　避難状況（避難指示、勧告及び自主避難）

合計　９９，５６５名

（浪江町２１，３６２名、富岡町１５，４８０名、南相馬市１４，２５９名他）

避難の内訳：　避難指示　８８，５９５名
避難勧告　１，４８３名
自主避難　８，１８９名
不　明　１，２９８名　※　いわき市→避難所３５カ所

〈県外避難〉

山形県	１，８６１名（１０５カ所）	茨城県	３２９名（２４カ所）
栃木県	２，２８４名（８２カ所）	群馬県	２，７３９名（１０４カ所）
埼玉県	４，１０１名（３７カ所）	千葉県	４０９名（９０カ所）
新潟県	７，８７７名（１８９カ所）	東京都	４，１５６名（１０２カ所）
神奈川県	１，４２４名（１５０カ所）	その他	１０，３４６名（８３９カ所）
		県外避難総計	３５，５２６名（１，７２２カ所）

２　被害状況

（１）　人的被害

・　死者　１，５２６名
（南相馬市５３９名、相馬市４２４名、いわき市３０２名ほか）
・　行方不明者　５３３名
（南相馬市２２６名、浪江町１３７名、いわき市８２名ほか）

（２）　住宅被害

・　全壊　８，６７９棟　・　半壊　７，２５８棟
・　一部破損　４３，０８１棟

３　教育施設の被害状況　※　文部科学省９３報より　５月１６日８時現在

※　幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・短大等を全て含む。

（１）　人的被害

・　死者　７６名　［内訳］　小学生は２４名
・　行方不明者　２２名　※　詳細不明
※　小学校教員の死者の報告はなし。

（２）　校舎被害　７０４校　※　詳細不明

４　原発事故による警戒区域等にある小学校

〈相馬支会〉　３２校　教職員数　約７００名　児童数　約７，０００名
※　警戒区域　４校　緊急時避難準備区域　９校
計画的避難区域　４校　川俣・山木屋小も含む。

〈双葉支会〉　１７校　教職員数　約７００名　児童数　約４，０００名
※　警戒区域　１３校　緊急時避難準備区域　４校

５　本県小学校長会の支援内容

東日本大震災への対応を迅速に行う「特別部会」を設置し、教育機能のいち早い回復を目指して、組織的で実効性の高い活動に取り組む。具体的な取り組みは以下のとおりである。

（１）　「教育機能回復」のための取り組み
①　各支会校長会活動支援　※　特に、浜通り支会への重点支援
・　支会ネットワークの再構築支援
・　被災各市町村校長会との連携強化　（県担当を決め、直接対応）
②　情報共有支援
・　ホームページ（情報交換サイト）の緊急立ち上げ

（２）　「東日本大震災」の被災状況並びに対応記録の累積　ほか

Ⅱ　全連小研究協議会山形大会に向けての参加態様：　５０％　→　１０％強で対応

Ⅲ　全連小に対する要望事項

（１）　震災特別枠としての教員定数の増
（２）　臨床心理士の資格を有するスクールカウンセラーの緊急配置
※　被災市町村に対し、負担金を求めない方向で検討いただきたい。
（３）　被災孤児（１８歳未満１８名）に対する長期的な支援体制の確立
（４）　いじめ、風評被害に対する早急な防止対策
（５）　被災した岩手・宮城・福島県会員の会費並びに入会金の免除措置

福島第一原子力発電所の現況

＜H28.8.29(月)福島県小学校長会：原発等視察研修会＞
資料やＨＰ等の写真から、原発及び近隣小学校の現況等をまとめ、お伝えしたいと思います。（文責:後藤一昭）

Jヴィレッジセンターハウス

Ｊ．ヴィレッジは、1997年に開設されたスポーツ施設。日本サッカー界初のナショナルトレーニングセンターでもある。　福島県浜通り南部、双葉郡の広野町と楢葉町に跨がって立地している。
福島第一原子力発電所事故に伴い、2011年３月15日から、スポーツ施設としては全面閉鎖し、国が管理する原発事故の対応拠点となっていた。以後もトレーニング施設としては活動閉鎖している。

1号機

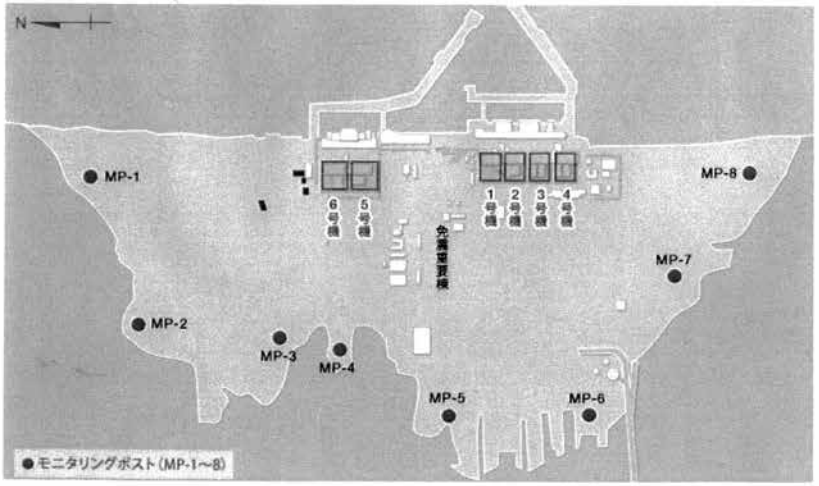
2号機

3号機

4号機

5号機

6号機



福島第一原発　視察写真(H28.8/29)

＜東電ホールディングス様より、後日送付いただいたＣＤより抜粋＞

１－Ｊビレッジ内での事前研修会

２－原発までの移動バス車内

３－車窓/楢葉町内の除染廃棄物

４－車窓/楢葉町　ここなら商店街

５－車窓/富岡町　仮設焼却施設

６－車窓/富岡町　被災店舗

７－車窓/大熊町　帰還困難区域

８－入退域管理施設内/APD個人線量計

９－原発内の大型休憩所

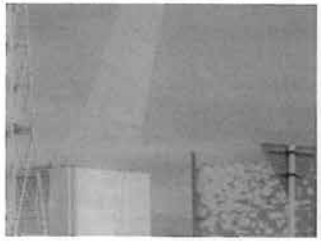
「福島第一原発等視察研修会」は、「東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から５年が経過した節目の年を迎え、双葉地区の現状と福島第一原子力発電所の廃炉に向けた作業の状況を把握するとともに、県や市町村の復旧復興に向けた取り組みの様子を視察することにより、子どもたちの未来に向けた取を考えるため。」という目的で、福島県小学校長会が企画してくれた、本当に素晴らしい研修会でした。

全連小及び東北連小校長会から参加された２０名の校長先生方と一緒に、丸一日かけて、福島第一原発の現状と復興に向けた数多くの取り組み等を、直接この目と身体で直に体感してきました。感謝申し上げます。

10－マスク姿の作業員

11－巨大な溶接型タンク

12-大型クレーンと１号機原子炉建屋/カバー



13－１号機（左）及び２号機原子炉建屋

14－事故当時使用した横置型タンク

15-構内バス車内での説明

16-2・3号機原子炉建屋共用プールファン

17－法面モルタルフェーシング

18-4号機原子炉建屋とカバー

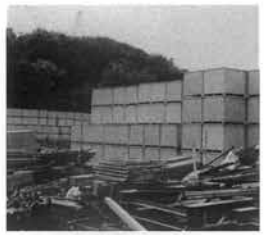
19-凍土遮水壁配管

20-ボルト締めフランジ型タンクと溶接型タンク

21-汚染水漏水防止堰と雨水侵入防止

22-６号機(左)と５号機原子炉建屋

23-使用済燃料用容器保管施設



24-雑固体廃棄物の保管場所

25-倒壊送電鉄塔

26-溶接型タンク

27-高性能多核種除去設備

28-車窓/帰還困難区域線量モニター

29-車窓/富岡町内の除染廃棄物

30-車窓/富岡町内の被災店舗

31-車窓/楢葉町の造成工事

32-車窓/楢葉町内の新復興診療所

33-Ｊビレッジ内での研修閉会式

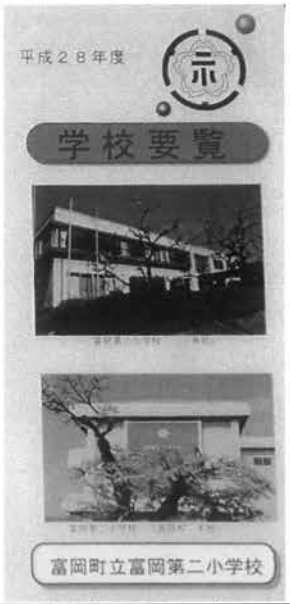
９月９日付けで、東北電力ホールディングス福島復興本社様より、原発視察時の写真７３枚（ＣＤデータ）を送付して頂きました。本当にありがとうございました。そして、３枚の写真集にまとめました。

東電関係職員はもちろん、一日7,000人を超える作業員の方々の「現場でのお仕事ぶりや廃炉に向けたさまざま名取り組み」等を、田中利幸会長とともに山形県内の校長先生方に伝えていくことが、今回研修視察させていただいた我々の使命と考えております。又、その他の資料等も準備してありますので、県連小事務局にお出での際は、是非ご覧下さい。　（文責：山形県連合小学校長会事務局長　後藤一昭　2016.9.13.）

富岡第一・第二小学校（三春校）の視察

双葉郡小中学校は、東日本大震災前には、浪江町、葛尾村、双葉町、大熊町、富岡町、川内村、楢葉町、広野町８町村合計 6,373 名の児童生徒数であった。震災後、日本各地に避難及び転入学し、平成 28 年８月現在 563 名。富岡町立富岡第一、第二小学校、及び中学校の４校は、旧曙ブレーキ工場施設に三春校として、平成 23 年９月に開設。現在、児童生徒数合計３３名。原発視察後、三春校を訪問、校長先生に案内していただいた。

学校名	富岡第一小	富岡第二小	富岡第一中	富岡第二中	４校合計	帰還率
震災前	４１１	５１６	２５８	２９１	１４７６	
現　在	7	8	１０	8	３３	2%



三春校の学校要覧

学校名	富岡第一小	富岡第二小	富岡第一中	富岡第二中	４校合計	帰還率
震災前	４１１	５１６	２５８	２９１	１４７６	
現　在	**7**	**8**	**10**	**8**	**33**	**2%**

・・・＜富岡町小中学校の現在と未来＞　岩崎秀一　校長先生（富岡一小）のお話しから・・・

（1）転校した学校に馴染めずに戻ってきた児童生徒→ほとんどの子ども達は、避難先で新生活を。
（2）仮説住宅や借り上げアパートから通学する児童生徒
（3）家庭環境の変化（家族構成の変化）
（4）進路指導の難しさ→どこの高校に進学するか→将来の生活設計は
（5）年々減少する園児・児童・生徒数→少人数の良さはあるが、今後の学校再開に向けて

学　年	1/2年	3/4年	6　年	中1	中2	中3	合　計
人　数	5	3	7	3	9	6	３３

（6）学校は臨時休業→教職員に兼務辞令（7/31　まで）　（三春校の場合）
（7）避難所訪問→兼務校訪問→学校再開（9/1 再開の予定）
（8）富岡町は、平成２９年４月の帰還開始を目指し、学校の整理作業を行う
（9）校舎改修と園児、児童、生徒の受け入れ体制ができ次第、学区を再開する予定
（10）平成33年までは、現在の三春校（5校）を存続させる

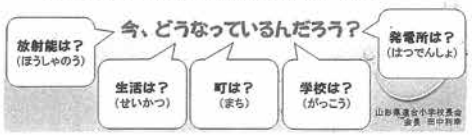
＜学校再開を急いだ理由（教職員の思い）＞　～震災当時の避難所及び転入学先の学校を訪問して～

○「なぜ、転校しなければならないの？」と訴える児童生徒　○友達との突然の別れを受け入れられない児童生徒　○学校環境の違いに適応できない児童生徒　○今の生活に不安やストレスを感じている子と親 ➡ **突然の環境変化に適応できない児童生徒を救わなければ！という教職員の思い**

平成２３年３月１１日　東日本大震災（ひがしにほんだいしんさい）

福島県・宮城県・岩手県　＝　被災三県（ひさい さんけん）
ふくしま　みやぎ　いわて

「福島第一原子力発電所」事故から７年目
（ふくしま　だいいち　げんしりょくはつでんしょ）（じこ）



（1）

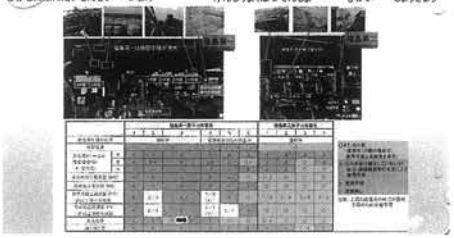
福島県の「原子力発電所」は、どこにあるの？

（2）

（9）

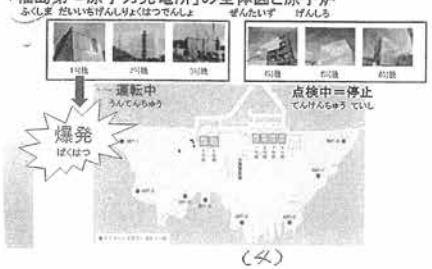
（10）

東日本大震災・津波による「原子力発電所」の被害の状況
ひがしにほんだいしんさい　つなみ　げんしりょくはつでんしょ　ひがい　じょうきょう



（3）

「福島第一原子力発電所」の全体図と原子炉
ふくしま　だいいちげんしりょくはつでんしょ　ぜんたいず　げんしろ



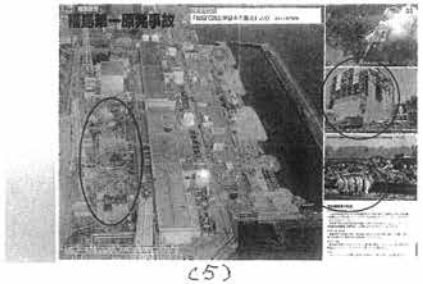
（4）

「原子力発電所」の周りの様子は？
げんしりょくはつでんしょ　まわ　ようす

（11）

富岡第一・第二小中学校（三春校）の見学
とみおかだいいち　だいに　しょうちゅうがっこう　みはるこう　けんがく

（12）



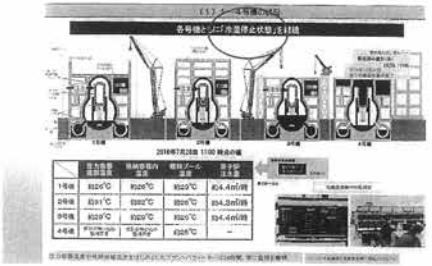
（5）

「福島第一原子力発電所」構内の見学
ふくしま　だいいちげんしりょくはつでんしょ　こうない　けんがく

（6）

（13）

（14）



（7）

（8）

（15）

楢葉町立楢葉南・楢葉北小学校、楢葉中学校の見学
ならはまちりつ ならはみなみ　ならはきた しょうがっこう　ならはちゅうがっこう　けんが

（16）

「3・11 東日本大震災！！」

一時は千人以上が孤立。
3/16援護用に限り復旧、
しかし全面復旧は遠い。
（週刊朝日 3/30 号より抜粋）

仙台空港の滑走路（宮城県名取市）

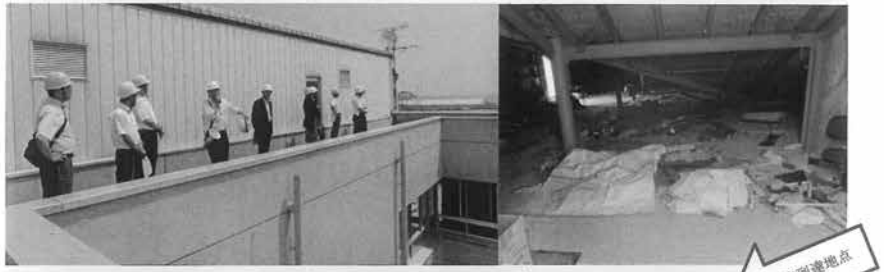
＜震災から３か月後・・・＞

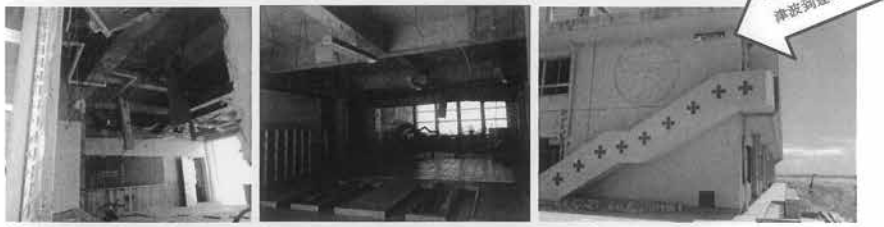
☆津波で流された車・クルマ・くるま・・・

＜そして、８か月後・・・＞

全面復旧した仙台空港（11/5/土）

名取市立閖上（ゆりあげ）小学校（H23.6.6）





東北連小宮城大会の理事等視察研修では、講師の井上剛校長先生（現大河原教事指導主事）より、当時の避難の様子や３階屋根裏部屋で一夜を過ごしたこと、そして、常日頃の安全点検、緊急時の対応等、多岐に亘って詳しくご説明を頂きました。

石巻市日和山公園より

＜平成２６年３月９日＞
東日本大震災より３年が
経過。昔の景観は・・・

震災３年後の石巻市立大川小学校（3/9）

NHK 午後５時のニュースから（H26. 3/10）

石巻市立大川小の６年

震災後、三回忌法要時（平成２５年８月）に建てられた、たくさんのお墓がありました。北上川の方向に目を向けているお地蔵さん、大川小学校校舎に祈りを捧げている観音様。６年経過しても、その場に立つと胸にせまるものがあります。亡くなられた児童・教職員そして、地域の皆様方のご冥福を祈るばかりです。（H29.2.19　後藤 一昭 記）

4　全連小報告『復興の担い手を育む教育活動から』

山形県での取組

〈平成28年度『研究紀要』に掲載：H29.2.1.発行〉

全連小人権委員会東北地区代表　山形市立出羽小学校　遠　藤　光　男

1　はじめに

東北の太平洋岸を津波が襲った東日本大震災では、山形県内でも震度５強を観測した地点があり、２名の死者が出た。その後起こった東京電力福島第一原子力発電所の爆発による放射能の拡散は、多くの避難者を発生させることとなった。その結果、山形県でも最大時で約1万3,800名、福島県や宮城県からの避難者を受け入れた。

学校現場では、大きな揺れが脳裏に焼き付き、いつまた大きな揺れが来るのかと不安に思う児童や津波などの映像に敏感に反応してしまう児童、隣県での大きな災害で、親戚・知人が被災した児童など精神的に不安定な児童が見られ、それらへの対応も必要だった。また、転入転出に係る事務手続きや保護者対応、子ども同士の人間関係、就学支援など、様々な課題が発生した。

ここでは、被災地を支援する立場として、避難者受け入れの当時の様子や校長を中心として各学校がどのように対応してきたのかを、一部ではあるが事例を挙げながら紹介したい。

2　当時の混乱の様子

平成23年３月11日午後２時46分、山形県も大きな揺れに襲われた。卒業式を間近に控え、その準備をしていた学校が多かった。停電となり緊急放送もできず、教職員が手分けして避難を呼びかけた。外は寒く、防寒着を着ての避難は困難を極めた。児童を順次帰宅させた後、管理職が午前１時過ぎまで待機した地区もあった。翌日は土曜日であったが、翌週の学校運営などのために出勤した管理職も多かった。

	小学校	中学校	計（人）
H23	402	133	535
H24	944	212	1156
H25	777	208	985
H26	660	217	877
H27	591	236	827
H28	520	225	745

山形県へ避難した小中学生の在籍数の推移（国公立）

新年度を目前に控えた平成23年３月下旬、500名を越える避難児童生徒が小中学校への転入学を希望していた。前例のない人数の事務手続きや受け入れ体制を整えるために、該当校の教職員は、連日の残業に加え休日返上で対応した。しかし、一部の学校では転入の連絡があっても転入してこなかったり、転入してきても、たった１日で転出してしまったりなどの混乱が生じた。

山形市も入学式を４月８日に控え、入学準備を進めていたが、他県から入学する児童の中には津波で家や家財道具をすべて流された家庭の児童もいた。避難所になった山形市総合スポーツセンター近くの千歳小学校には、被災した児童が26名転入学してきた。うち７名が新入学児童であった。それらの児童のために、教育委員会と保護者や地域の方々が協力してランドセル・学用品・運動着などの準備に手を尽くした。

また県内では、転入学児童生徒の急激な増加により３月31日に急遽学級数が増える学校も多く見られ、学級編制作業もぎりぎりまで行われた。

3　避難児童・保護者を支えるための取組

県内には、山形市総合スポーツセンターや米沢市営体育館、山形県飯豊少年自然の家など多くの避難所が設営された。その後、市や県の援助もあり雇用促進住宅や賃貸住宅を借り上げることにより、避難所から民間のアパートや借家へ転居できるようになった。しかし、急激な環境の変化によって、避難してきた児童と保護者の中には精神的疲労のたまる方々もいた。

	福島県から	山形県	計（人）
H23		51	51
H24	4	52	56
H25	4	75	79
H26	4	67	71
H27	4	12	16
H28	4	12	16

派遣教員・緊急学校支援員の推移

それらをサポートするために、福島県からの派遣教員と山形県による講師・緊急学校支援員が配置された。

⑴ 福島県からの派遣教員

福島県からの派遣教員は、福島県内で被災した児童（震災当時は未就学児を含む）の学習面・精神面をサポートするために派遣された。在籍は福島県であるが、職務についての命令権は、すべて派遣先の教育委員会に任せられている。

避難児童が山形市で最も多かった桜田小学校にも、福島県より派遣教員１名が出向してきた。派遣教員は授業を行いながら、児童の様子の観察や児童への声かけ、必要に応じたカウンセリングの役割を担っていた。また、派遣教員がコーディネーターとなって定期的な父母の会を開催した。

父母の会は保護者の抱えている悩みを語る場となり、交流サロンと呼ばれるようになった。参加者は当初少人数だったが、回数を重ねるごとに増えていった。このような交流サロンは、福島県からの派遣教員がいない学校でも校長の働きかけで開催された。

⑵ 山形県による講師・緊急学校支援員の配置

山形県では国の事業を活用し、市町村の受け入れ人数に応じ、講師や緊急学校支援員の配置を行った。

避難児童の学習面や精神的な支えばかりでなく、山形県の児童の中にも、親族や知人が家屋倒壊などの被害に遭ったり津波で亡くなったりしている方もおり、心理的に不安定になる児童がいた。そのような心理的に不安定になった児童についても避難児童と同様の対応を行った。

⑶ 各種団体による被災県への支援活動

山形県連合小学校長会では、４期に渡り募金活動を行い、計390万円を被災県の校長会に送金した。全国連合小学校長会研究協議会山形大会のために県内の校長から集められた積立金の一部も充てられた。

各学校へは、県と市のＰＴＡ連合会長からの依頼で被災した子どもたちへの学用品の提供が呼びかけられた。多くの保護者や子どもたちが協力した。学用品は”新しいもの・清潔なもの”という条件があり、中にはわざわざ購入して学用品を提供する方もおられた。

山形市立南山形小学校では、児童会が中心となり募金活動と寄せ書きを被災地に贈る活動を行った。寄せ書きでは「がんばってください」という言葉を使わないようにするなどの配慮がなされた。募金と寄せ書きは日本赤十字社山形県支部を通して被災地に届けられた。

４　実際の指導での問題点と対応

⑴ 放射線や津波の映像に対する配慮

山形市は、全ての小中学校に放射線測定器を配付した。また小中学校に対して空中放射線量の測定結果を教育委員会に報告するよう指示を出した。空中放射線量は、測定を始めた平成23年からすべて安全基準内であった。防災にかかる授業では、一般的な指導はするものの、放射能という言葉に配慮したり津波の写真や映像を自粛したりなどの配慮を要した。

また、給食の放射線量の測定も行われた。測定値はすべて安全基準を満たしているが、乳牛が放射能を含んだえさを食べているのではないかという不安を持ち、牛乳を飲まない避難児童もいた。学校では保護者と子どもの意思を尊重し、判断を保護者や児童本人に委ねた。

⑵ 生徒指導対応

急激に変わった環境に馴染めない児童と、避難生活に関する理解不足の児童との軋轢が生じ、様々な場面でいざこざが起こった。それらが昂じたところでは、いじめ問題へ発展してしまった事案も見られた。いじめた子・いじめられた子・いじめた子の保護者・いじめられた子の保護者それぞれに対応職員を配置し、丁寧に事情を聞いたり説明したりすることを繰り返し、解決を図っていった。

それらの予防と解決には、マンパワーが必要である。緊急支援員や派遣教員の果たした役割は大きい。

⑶ 発達障がいのある児童への対応

避難児童の受け入れ校では、発達障がいのある児童の情報が転出校より届かず、対応の遅れが見られた事案があった。また保護者は、避難前に受診していた医療機関と同等の機関を山形で探そうとしても情報が少なく、受診や薬のことについて誰に聞いたらよいかも分からないという事例もあった。学校では、保護者と情報を共有しながら特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の支援計画や指導計画を作成し支援を行った。

5　地域との連携

学校側としても、このような急激な環境の変化は今までに経験したことがなく、学校職員のみで対応できるものではなかった。そこで、地域の方々の協力を得ることがとても重要になった。

山形市立桜田小学校は、周囲にマンションやアパートが多い。震災直後は地域の住民が避難してくることが多かった。しかし、時が経つにつれ福島県からの避難者が多くなってきた。ここで力を発揮したのが自治会の会員で組織した「人力会」である。「人力会」は、新潟地震のときに組織された会で、折に触れ避難訓練や防災訓練を行ってきた。校長からの要望をくみ取っていただきながら、避難者と地元民との交流に中心となって動いていただいた。そのことが児童の心の安定にも繋がっていった。

6　校長会の取組

県の連合小学校長会研究協議会では、東日本大震災に学び、安全意識を高めるための分科会を実施し、共通理解を図った。校長のかかわり方を話し合い、地震直後の各学校の対応を振り返り、判断や指示について特に次のことに関する検証を行った。

- 教育委員会との連携や校長会での確認事項について
- 危機管理の見直しによるその後の対応

具体的な対応の内容は以下の３点である。

- 様々な場面を想定した避難訓練や研修による児童・教職員の意識の維持向上
- 実践的な危機管理マニュアルの作成と評価・改善
- 地域住民との日常的な連携

また、各市町村の校長会では、情報交換を密に行い、有効な対応は積極的に取り入れるとともに、各学校において必要な対策をそれぞれの防災マニュアルに取り入れるようにした。

7　現在の状況

進学や家族の状況の変化などで被災地に戻る児童が増えてきた。そのため、各学校に通う避難児童は年々減少している。被災地に戻らず、山形県で仕事を得て定住する人もいる。避難児童たちはどの学校でも学校生活に馴染んでおり、周囲の子どもたちとなんら変わりはない。名簿で確認しなければ避難児童であるということも分からないほどである。

交流サロンに参加する保護者は、帰還者の増加や地元に溶け込んだなどの理由から数は減少してきており、５年を過ぎた現在、その役目を果たし終えた感もある。

しかし、被災地と山形の二重生活に苦しんでいる、山形に避難してきたことで後ろめたさを感じている、被害者なのに責められるという理不尽に悩んでいるなど、未だに悩みや苦しみを抱えている保護者も多い。被災地での人間関係から避難場所や学校を知られたくないという保護者への配慮も必要である。国や県による賃貸住宅の家賃補助打ち切りが話題となる中、資金的に困難さを抱える家庭も増えている。

児童の中には、表面的には平穏を装っているものの、未だに震災当時のことが心の大きな傷となっている児童もおり、学校生活で配慮しなければならない状態が続いている。

8　おわりに

震災から５年が経ち、ある程度区切りの付いたことが見られる一方、まだまだ支援が必要な事案も多い。そのような意味で東日本大震災からの復興は、道半ばである。

東日本大震災からの復興は現在進行形だが、これから予想される災害への対策の必要性も高まってきている。山形県には３つの活断層が確認されており、大きな地震が30年以内に起こる確率が高いグループに入っている。蔵王山や吾妻山では火山活動が活発化している。さらに、近年の地球温暖化による降雨量の増加など異常気象による災害も増加している。これらの状況からいつ不測の事態が発生するか分からない。万が一、災害が起こった場合には、被害を最小限に抑えられるように東日本大震災の教訓を生かさなければならない。

そのためには、今後も教職員の防災意識の維持向上を図ること、生命・安全の大切さを実感できる教育を実施していくことが校長の重要な役割である。

後書きにかえて

県連小事務局長　後　藤　一　昭

「おい、ゴトウ！　田口先生のあとを引き継いでくれないか？」

千葉榮一会長から突然の話を伺ったのは、退職を間近に控えた頃でした。

「そして、２年後の全国大会では、弘康先生をバックアップしてくれ！」

高校時代の同級生からの頼みを断り切れず、それから８年間、県連小事務局にお世話になる事となりました。

その間、50年に一度の全国大会、そして、６年に一度の東北大会の運営等にあたり、微力ながら現職の先生方をバックアップさせて頂きました。

現職時代の２年間、県連小副会長職を拝命したので、合計10年という長きに亘り、県連小事務局にお世話になりました。

山形県及び山形市の校長先生方と一緒に取り組むことができた、10年間は私にとって生涯忘れられない時間です。得難い経験をさせていただきました。感謝の言葉しか浮かんできません。本当にありがとうございました。

そして、この10年間には、７名の県連小会長さんの元で、事務局の仕事をさせて頂きました。理事会を中心に、専門委員会や県中との対策委員会等々、たくさんの会議をお手伝いし、又、県連小会報や毎年発行される記録等々から様々なことが分かり、心に残ったことや先輩の先生方の素晴らしい実績等を、事務局長という立場から、少しまとめてみました。

⑴　児童数の大幅な減少

⑵　学校数の減少にともない、県連小会員数の減少

⑶　理事会・専門委員会等、様々な会議の在り方の検討

⑷　電話・ＦＡＸ・メール・ＨＰ等の積極的な活用で経費削減

⑸　東北・全国大会準備のための大会基金等の設立等々

	平成７年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年	平成29年
学校数（校）	350	346	339	322	276	249
児童数（人）	88,445	81,230	72,028	65,435	59,593	54,292
退職者数	Ｈ９－80人	34	29	41	29	51

22年の間には、学校数101校 及び 児童数34,153名 の減。本当に恐ろしいほどのスピードで減少しております。平成30年度は６校減の「243校」の予定です。また、退職者については、Ｈ９－80名、H11－49名、H19－48名、等々、非常に多くの校長先生方が、ご退職されております。

そのような時代の流れの中で、先輩方が行ってくれた多くの改革等が、現在の若い校長先生方に、どれほど大きな実績と功績を残してくれたのか、感謝の念で一杯であります。

また、県連小会員が減少すれば、当然集金させて頂く会費が減ります。

しかし、先輩方は、平成９年以来今日までの21年間、一度も会費を値上げしないで、県連小の運営にあたってくれました。

その経緯は以下にあります。

① H21：日本教育会退会　　3,100円の軽減。
② H22：退職者処遇費廃止　　5,000円の軽減。
③ H23：対策活動費の減額　　300円の軽減。
④ H24：県連小会費の減額　　1,000円の軽減。
⑤ H27：退職校長会賛助費廃止　　300円の軽減。……等々。

世の中は、バブル経済の破綻や消費税導入など、値上げ・値上げの大合唱の中でさえも、緻密な計算のもと、できるだけ会員の校長先生方に負担をかけない方策を考えて下さいました。本当にありがたいことです。　　（別表「年度毎県連小会費等の推移」78Ｐ参照）

私は、昭和48年春、白鷹町立白鷹東中学校の卓球部顧問……いや、英語教師として、体育館もグランドもなく、入学式は中庭で行う等、統合なったばかりの新しい学校に赴任しました。「中学校の教員は、受験と部活に頑張ればよい！」当時の先輩方のアドバイスでした。

学級担任時代は「ガリ版刷りの学級通信」を発行し、年度末には製本をして生徒達にプレゼントしました。学年主任では「学年便り」、校長の時は「校長室便り」等々、平成21年度の退職まで、ずっと続けてきました。

いわば、記録は私の趣味みたいなものです。若い先生方には、「記憶に残る人より、記録を残せる先生になりなさい。」と激励もしてきました。

山形県連合小学校長会には、平成13～21年の９年間会員となり、退職後は、事務局長として８年間勤務させていただきました。合計17年という長い間お世話になった「県連小」に対して何の恩返しもできませんが、田中利幸会長に無理なお願いをして『県連小10年の歩み』を編集させていただきました。

本当にありがとうございました。

現在の県連小の歩みについては、事務局長をバトンタッチしました、大沼篤先生を中心に、『山形県連合小学校長会ホームページ』にアップしていただいておりますので、是非、一度アクセスしてみて下さい。

（○ http://www. kenrensyo. info　　○ Email : y-kren@atlas. plala. or. jp）

「10年の歩み」発行にあたり、ご指導ご支援いただきました中央印刷株式会社　武田郁雄様に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、山形県連合小学校長会の、今後益々のご発展をお祈りしながら、後書きとさせていただきます。本当にありがとうございました。

平成30年３月31日

『県連小10年の歩み』

平成30年3月31日発行

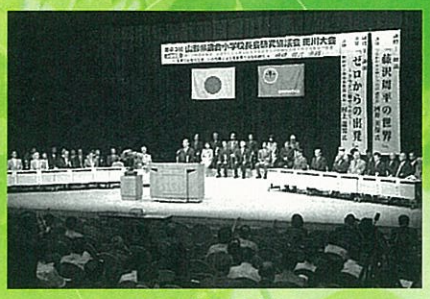
発行・編集：山形県連合小学校長会事務局
〒990-0044 山形市木の実町12－37
大手門パルズ４階（教育会館）
電話　023-634-8555

印　　刷：中 央 印 刷 株 式 会 社

県連小幹事会の皆様方に感謝!!

平成２６年１２月５日（金）ホテルメトロポリタン山形

H20（第62回）



H21（第63回）

H22（第64回）

H23 全国大会（第65回）

H24（第66回）

H25（第67回）

H26（第68回）

H27（第69回）

H28（第70回）

H29 東北大会（第71回）